

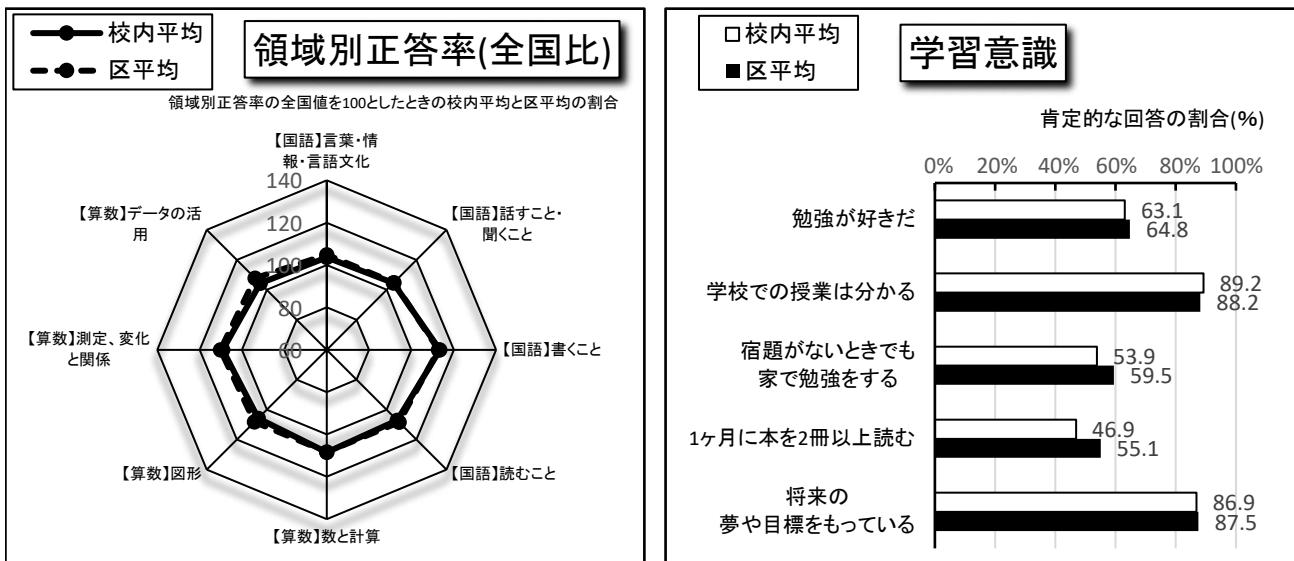
第2部

各校の調査結果概要と 学力向上への取り組み

1 小学校

青井	24	弘道	42	辰沼	60	東綾瀬	78
足立	25	弘道第一	43	寺地	61	東伊興	79
足立入谷	26	江北	44	舎人	62	東加平	80
綾瀬	27	古千谷	45	舎人第一	63	東栗原	81
伊興	28	皿沼	46	中川	64	東渕江	82
梅島	29	鹿浜五色桜	47	中川北	65	平野	83
梅島第一	30	鹿浜第一	48	中川東	66	渕江	84
梅島第二	31	鹿浜未来	49	中島根	67	渕江第一	85
桜花	32	島根	50	長門	68	保木間	86
扇	33	新田	51	西新井	69	宮城	87
大谷田	34	関原	52	西新井第一	70	六木	88
興本	35	千寿	53	西新井第二	71	本木	89
加平	36	千寿桜	54	西伊興	72	弥生	90
亀田	37	千寿常東	55	西保木間	73		
北三谷	38	千寿第八	56	花畠	74		
栗島	39	千寿双葉	57	花畠第一	75		
栗原	40	千寿本町	58	花畠西	76		
栗原北	41	竹の塚	59	花保	77		

青井小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.1	84.3	89.8	87.8	83.3	81.3	88.5	88.5	78.4	82.4	84.8	80.4
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	78.5	80.3	63.0	81.5	87.3	90.5	76.8	87.5	76.9	59.6	87.8	79.6
平均正答率(R7)	78.3	79.1	84.7	86.1	86.0	85.3	82.1	77.7	67.6	77.7	74.3	70.9
平均正答率(R6)	72.9	75.9	79.7	83.6	87.2	91.1	69.7	79.0	63.3	62.3	64.4	63.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

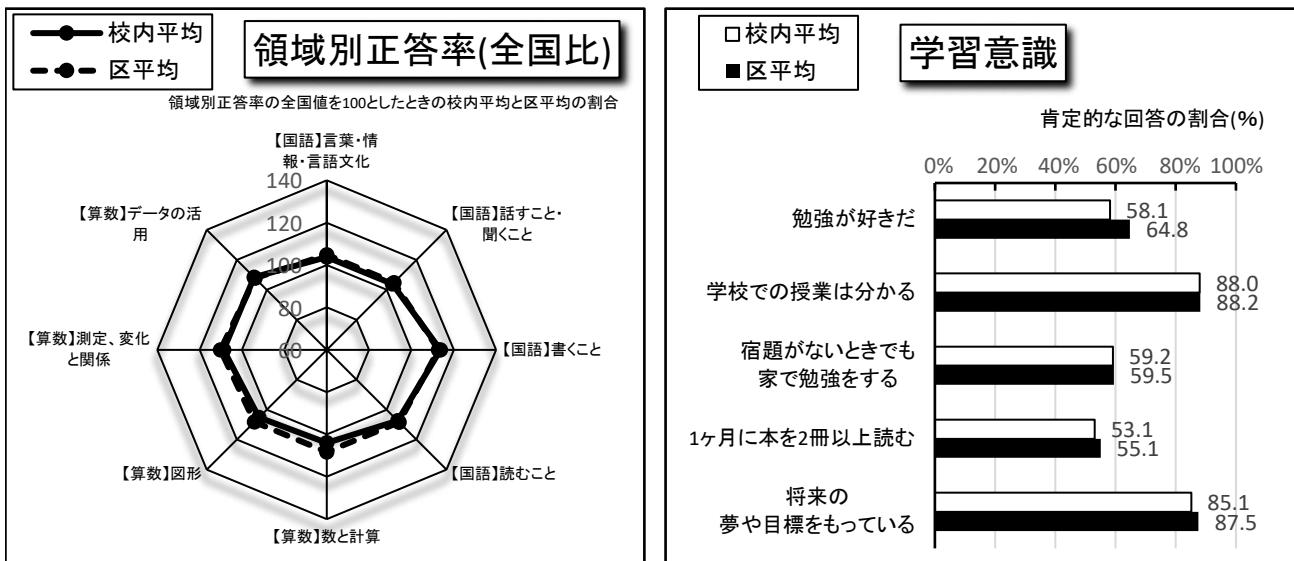
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率は、国語78.3%、算数79.1%であった。前年度と比較し、国語が5.4ポイント、算数は3.2ポイント上昇している。
- 国語の領域別正答率は概ね区平均と同程度であり、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率は前年度と比較し上昇している。学習の中で、自分の考えや思いを言語化する機会を保証してきた結果である。しかし、「読むこと」は区平均を下回る学年が多く課題である。
- 算数は、各学年の通過率が80%以上で、基礎的な内容を多くの児童が定着させたと考える。確認テストを実施し、未定着の課題について繰り返し学習したことが結果につながった。
- 学習意識の結果を見ると、「学校での授業は分かる」のポイントが区平均を上回り9割近くの児童が肯定的な回答をしている。足立スタンダードに基づく問題解決的な学習を取り入れ授業に取り組んできたことや、授業の工夫・改善を日常的に行ってきた成果と考える。
- 「1ヶ月に本を2冊以上読む」のポイントが区平均より下回っている。授業における学校図書館の活用の仕方や昼読書の取り組み方の改善を図っていく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 給食終了後、15分間昼学習を実施している。AIドリルやプリントなどを活用して、計算や漢字、文章の読み取りなどの学習に取り組み、基礎・基本の定着を図る。
- 「青井ゆうやけ教室」という放課後補習教室を、全教員で週に一度実施している。「弱点の克服」と「できる喜び」の2点をねらいとし、達成感を得た児童は、通常の授業でも高い意欲を示して学習に取り組むようになっている。また、放課後自習教室「学Viva」を開設して児童が学校内で宿題などに取り組むことのできる場を設け、学習習慣の定着を図っている。
- 1年生～6年生まで、全学年で3展開の算数習熟度別指導を実施する。学力層に応じた指導の充実を図る。
- AIドリルを単元の習熟の時間、昼学習や家庭学習で積極的に活用する。児童の理解度に合わせた個別最適な学習教材を使用していく。
- 週1回の昼読書で「読むこと」の機会を設けると共に図書ボランティアの読み聞かせ、読書旬間などを行い、児童が本に親しむ機会を確保して語彙力や読解力を高める。

足立小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.4	82.4	89.3	96.0	84.0	78.7	84.0	80.2	87.4	83.2	91.6	75.8
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	81.7	78.9	74.1	81.5	75.0	81.0	84.7	81.3	87.5	77.1	85.1	74.5
平均正答率(R7)	78.0	77.1	86.1	90.7	84.4	83.1	76.1	71.7	74.5	79.2	73.6	67.0
平均正答率(R6)	73.1	75.4	82.1	84.3	82.5	86.4	69.8	75.3	69.5	73.6	66.8	63.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

2・6年生は、昨年度に比べ国語・算数の通過率及び平均正答率が上回っており、特に2年生の通過率は国語が15.2ポイント、算数が14.5ポイント上回った。対して、4年生は平均正答率では国語が上回ったものの、通過率では国語は0.7ポイント、算数は1.1ポイント下回った。なお、5年生の算数は通過率が昨年度を6.1ポイント上回った。領域別正答率では、昨年度と比べ、国語の「書くこと」、「読むこと」は区平均と同等に改善したものの、算数の「数と計算」、「図形」が区平均を下回った。通過率が昨年度を下回った教科や学年を分析したところ、3・4年生の算数では、「基礎」は定着が見られるものの「応用」の問題に課題がみられる。また、出題形式別では3・4年生で国語、算数ともに「選択式」「短答式」に比べ、「記述式」の問題に課題があった。今後、応用問題や記述式の問題が解答できる学力を身につけていくため、「足立スタンダード虎の巻」等を活用した授業改善を一層進めていく必要がある。

意識調査では、「学校での授業は分かる」は区平均と同等であるものの「勉強が好きだ」の項目では、区平均を6.7ポイント下回っており、改善が必要である。

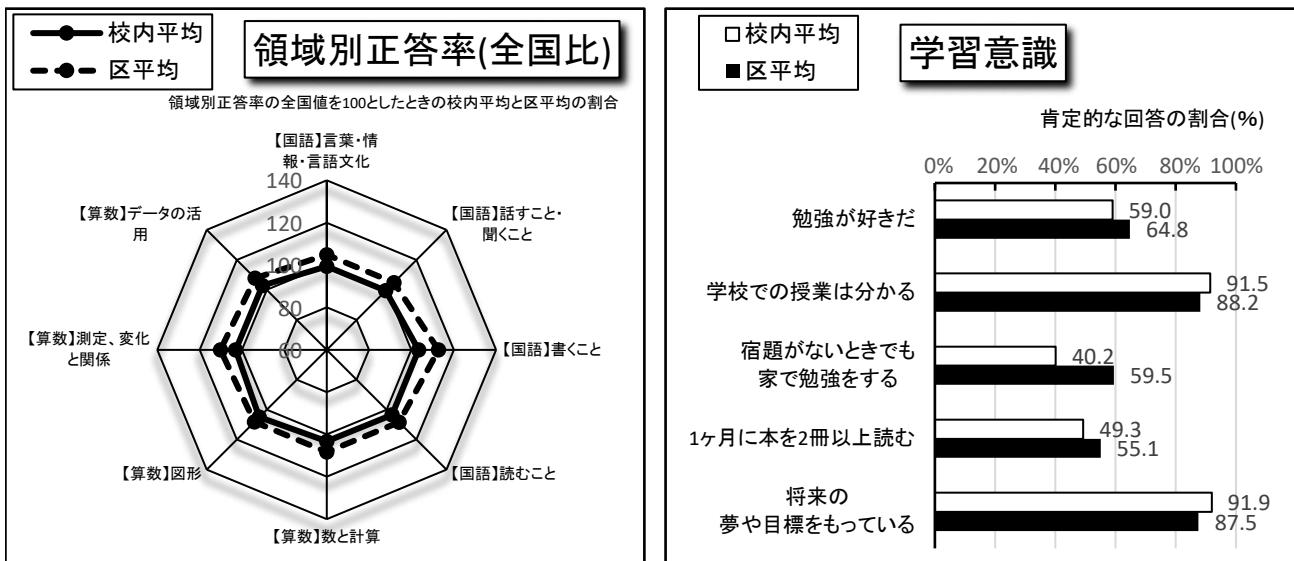
学校による学力向上への主な取り組み

上記の課題解決のため、どの教科においても「足立スタンダード虎の巻」に基づいた振り返り活動を重視し、学習のまとめや自分の考えを文章等で表現する時間を確実に設定することで、書くことへの抵抗感を軽減すると共に、自己の意見を表現する力を育成していく。

また、校内研究では「授業改善を通じた教師力の向上～情報活用能力ベーシックを生かした授業～」に取り組むことで、教員同士の学び合いを充実させるとともに、全ての教師が「教える専門家」から「学びの専門家」として子どもたちをファシリテートする力を身につけるなど授業改善を図り、教師力を向上させていく。このことにより、子どもたち自身が主体的に学ぶ授業を実現し、学ぶ楽しさを高めていく。

なお、引き続き「東京ベーシックドリル」や単元テストなどを活用し、定期的に児童の習熟度を診断するとともに、習熟に課題がある場合には、「パワーアップタイム」や毎週水曜日に実施する学力向上の時間を活用し、個々の習熟の状況に応じた補習的問題(A I ドリルや学習プリントなど)を用意し、全ての児童の基礎的な学力の定着を図る。

足立入谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	84.1	77.8	100.0	87.5	85.7	100.0	92.9	85.7	77.8	77.8	72.2	50.0
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	79.2	82.4	82.4	83.3	93.3	100.0	71.4	87.5	72.2	77.8	73.3	66.7
平均正答率(R7)	73.2	73.0	87.5	86.5	85.4	90.5	77.0	74.9	61.6	72.2	64.1	56.5
平均正答率(R6)	71.0	76.8	84.5	85.6	88.6	93.6	68.4	76.9	58.6	73.8	60.3	58.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

《国語科》通過率は昨年度より4.9ポイント上昇した。正答率は教科総合、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で区平均を下回り、特に、「書くこと」の課題が顕著である。語彙を豊かにする指導の充実と、書くことの習慣化と表現力の向上を図る必要がある。

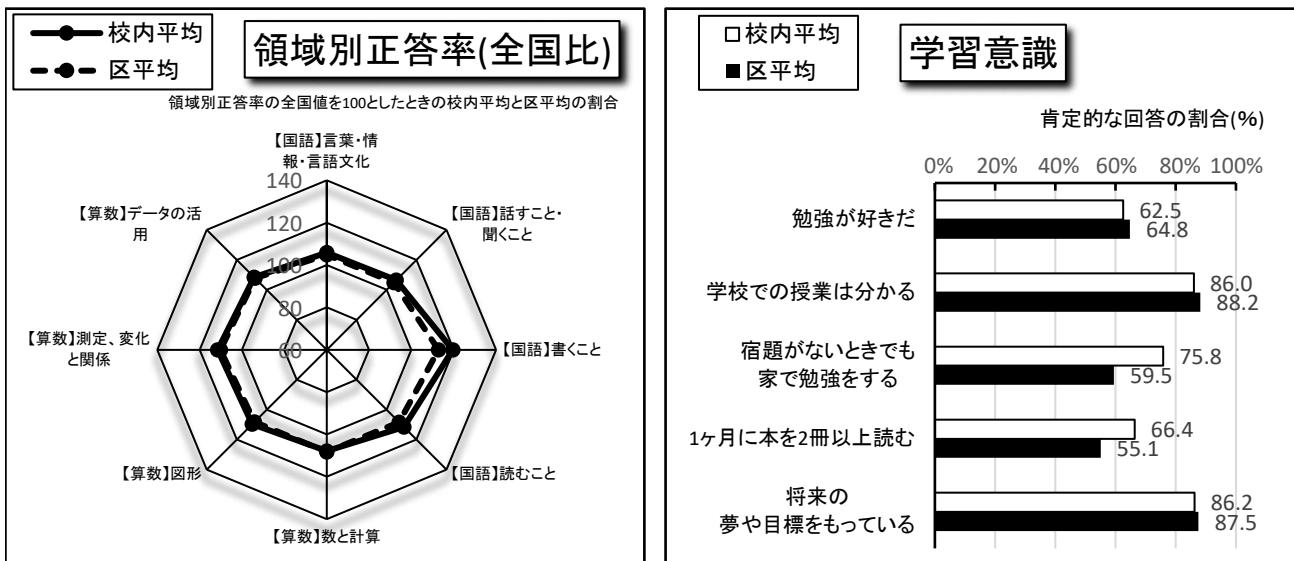
《算数科》通過率は昨年度を4.6ポイント下回った。正答率は教科総合、各領域別それぞれ区平均を下回ったものの、昨年度、区平均との乖離が大きかった「図形」は区平均と同水準であった。また、高学年での正答率・通過率の低下が依然として顕著である。個別最適な学びのさらなる充実を通して改善を図っていく必要がある。

《学習意識》「学校での授業は分かる」は区平均を3.3ポイント、昨年度を3.6ポイント、「将来の夢や目標をもっている」は区平均を4.4ポイント、昨年度を3.7ポイント上回り、「勉強が好きだ」は1.4ポイント、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は7.7ポイント、昨年度を上回ったが、「宿題がないときでも家で勉強する」は区平均を19.3ポイント、昨年度を14.1ポイント下回った。家庭での取組みも含め、主体性の向上と学習習慣の定着を図ることが課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 毎週の「作文タイム」で低学年50文字程度、中学年以上100文字程度の作文に取り組ませる中で、書くことへの意欲と表現力の高まりを実感させる。
- 1年生を対象に多層指導モデルMIM（毎月）と音読力チェック（年2回）を実施し、流暢な読みの定着を図る。
- 各教科でA I ドリルやドリル教材を計画的に活用し、スマールステップでの反復学習を徹底するとともに、初期の段階、つまずきが小さい段階での解消を図る。
- 一人一台のタブレットを活用した「調べる」「まとめる」「発表する」などの学習を積極的に取り組ませる。また、個々のICT活用力向上を確実に学習意欲の喚起につなげていく。
- 学校独自の漢字検定・算数検定（A☆I 検定）を実施し、基礎的な内容の定着を図るとともに、向上心を高め、満足感や達成感を味わわせる機会とする。
- 国語科の「読むこと」の学習を中心に「児童が主体的に学習を進める授業づくり」を推進し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」をバランスよく育む。

綾瀬小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.9	86.6	91.7	96.2	88.0	89.5	92.3	92.3	88.2	75.8	83.3	75.0
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.6	84.5	81.5	90.1	82.9	90.1	83.1	83.8	85.2	79.5	85.6	77.3
平均正答率(R7)	81.2	80.9	88.1	93.0	86.8	86.3	84.9	79.3	71.9	75.3	75.1	69.7
平均正答率(R6)	76.5	78.5	86.4	88.1	86.7	90.2	71.4	75.6	69.1	74.7	69.2	65.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【平均正答率及び通過率】

学校全体の平均正答率は、昨年度より国語で4.7ポイント、算数で2.4ポイント上回った。通過率に関しても、国語は5.3ポイント、算数は2.1ポイント昨年度を上回っている。以上の結果から学力は向上傾向であると言える。また、国語よりも算数に課題があることが分かる。

【国語】単元別正答率で見ると、「言語活動」や「漢字の書き」において、区平均を下回る学年があった。また、「言葉・情報・言語文化」の領域でも最大で、区平均を1.5ポイント程度しか上回らず、漢字や言語単元が全校的な課題であると言える。

【算数】令和5年度から6年度の平均正答率が0.1ポイントしか上がりていなかったが、今年度は昨年度より2.4ポイント上がった。A I ドリル活用の成果であると考える。単元別正答率で見ると、各学年「平面図形」「立体図形」において区平均を下回る学年が多く、最大4.3ポイントの差がある。I C Tや具体物を用いることで理解を定着させる必要性がある。

学校による学力向上への主な取り組み

【授業の充実】

足立スタンダード虎の巻を踏まえることや、I C Tを計画的に活用することで主体的に学ぶ授業づくりに努める。また、振り返りの時間を確保することで、何がわかったか、できるようになったかを自分で確認できるようにする。

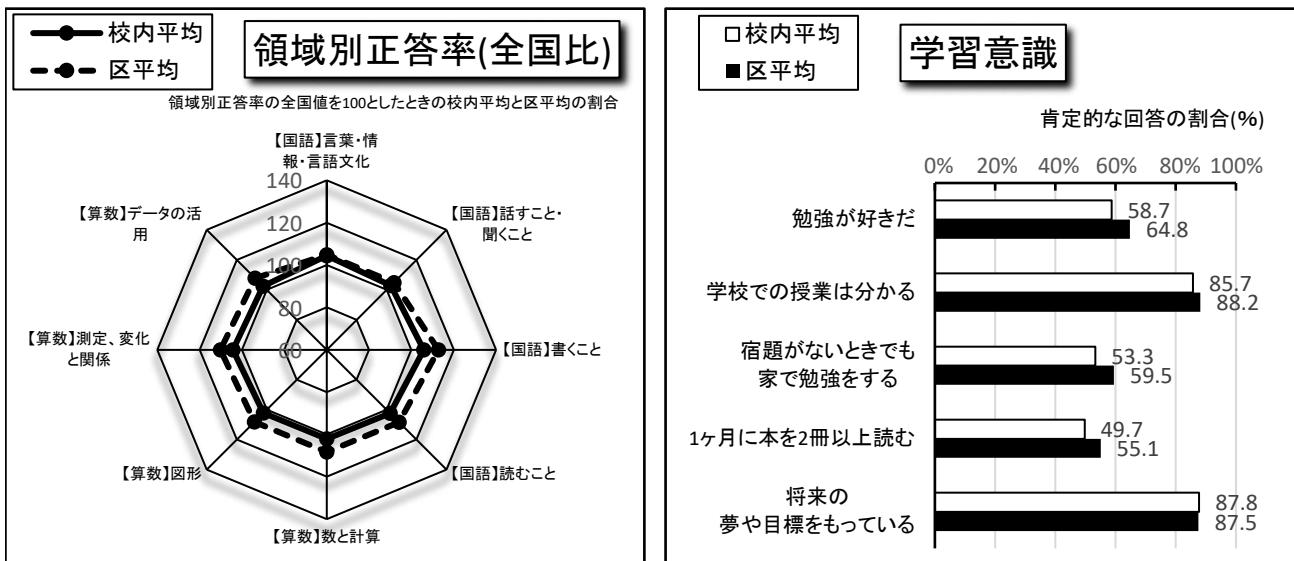
【毎週金曜日の補充教室】

区の学力テストにおいて目標値に到達しなかった児童などを対象とした補充指導を毎週金曜日に実施する。つまずきの原因を分析し、個に応じた指導を実施することで、基礎的な内容の定着を図る。

【課題単元の指導時数の調整】

学力テストの結果を分析し、課題がある単元について指導時数を増加させることや、単元に入る前に復習の時間を確保する。来年度に向けて年間指導計画を調整する。他単元との時数のバランスを考慮しながら、反復学習の機会を増設し確実な知識の定着を図っていく。

伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.7	78.2	90.4	86.7	87.9	83.5	86.0	84.9	82.9	64.6	81.4	69.0
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	81.3	77.3	82.5	85.6	78.2	79.1	87.4	83.9	74.4	72.9	83.8	66.7
平均正答率(R7)	77.2	74.9	85.7	86.3	85.5	84.8	78.6	75.3	68.0	71.5	71.2	60.6
平均正答率(R6)	73.9	73.6	86.3	86.6	83.3	86.0	74.3	77.3	62.7	68.3	66.3	55.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○令和6年度と令和7年度における正答率および通過率の結果から

【国語】平均正答率では、中学年・高学年で昨年度の結果を超えており、通過率では2・3・5年生が昨年度の結果を超え80%以上となっており、通過率の向上が見られる。

【算数】平均正答率では、高学年で昨年度の結果を超えており、通過率では、5年生以外の学年では、昨年度の数値を超えている。一方、5年生は-8.3ポイントと大きく低下している。特に、小数の計算や概数の問題で正答率の低さが顕著である。

○領域別正答率の結果から

【算数】高学年では、全ての領域において区平均を下回っている。特に「数と計算」の正答率は5年生(-8.1ポイント)、6年生(-8.7ポイント)と大きく開いている。

○学習意識の結果から

「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目が49.7%となり半数を切っている。朝読書の時間の確保、読書月間や図書委員会の取り組みなどを行い、校内の読書を推進していく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

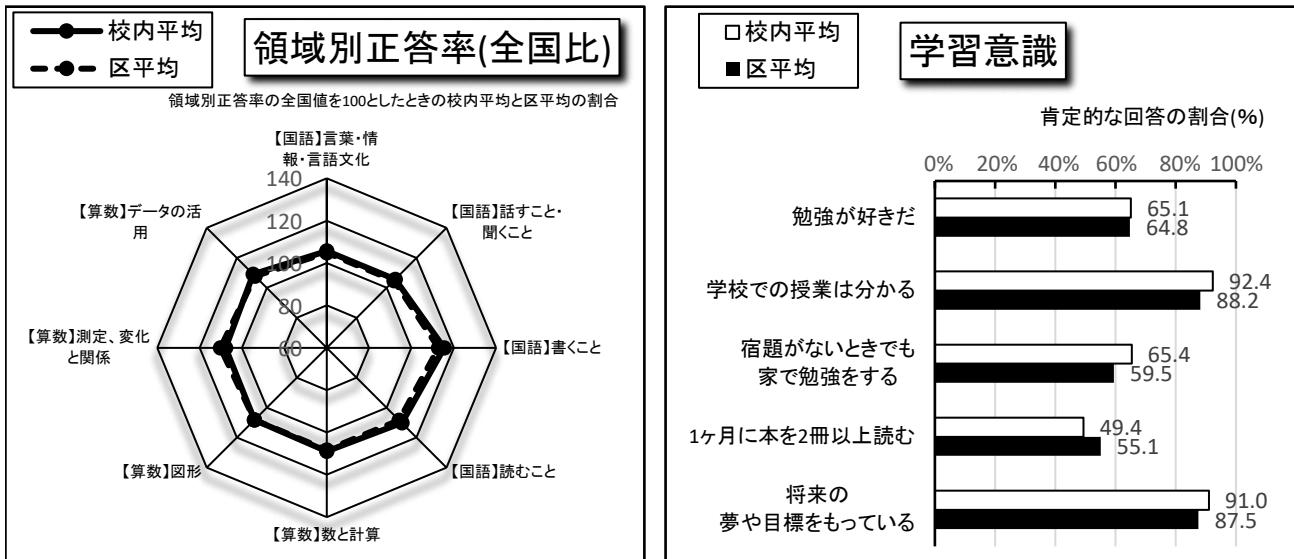
【国語】

- ・本を読んで感想を書く活動を取り入れたり、児童の文章や例文を読み合う活動を取り入れたりして、書くことへの苦手意識を軽減させる。
- ・文章を読む力を向上させるために、M I Mの活用や初読の文章を読み解く機会を増やしていく。段落相互の関係や事実と意見、筆者の主張などを丁寧に読み取らせるよう授業を計画し、展開する。

【算数】

- ・授業においては、各時間に学習した内容を活用できる適用問題に確実に取り組ませる。
- ・知識技能の活用を扱う学習内容では、既習内容をどのように組み合わせて考えればよいのか見通しをもって考えることができるよう授業を計画し展開する。
- ・A I ドリルを授業内で活用する。特に「数と計算」の領域の向上を目指し、基礎的・基本的な問題に繰り返し取り組ませる。

梅島小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	89.0	86.8	87.2	91.5	90.9	83.0	85.6	87.8	88.1	86.9	93.4	84.6
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	87.2	83.6	84.3	94.4	78.5	80.6	91.6	90.4	88.3	74.5	93.5	79.6
平均正答率(R7)	80.4	79.9	84.8	86.7	87.6	86.0	78.6	78.3	74.0	81.9	78.3	69.2
平均正答率(R6)	76.9	76.5	87.3	90.3	82.9	84.1	77.4	82.2	68.3	70.0	72.3	61.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

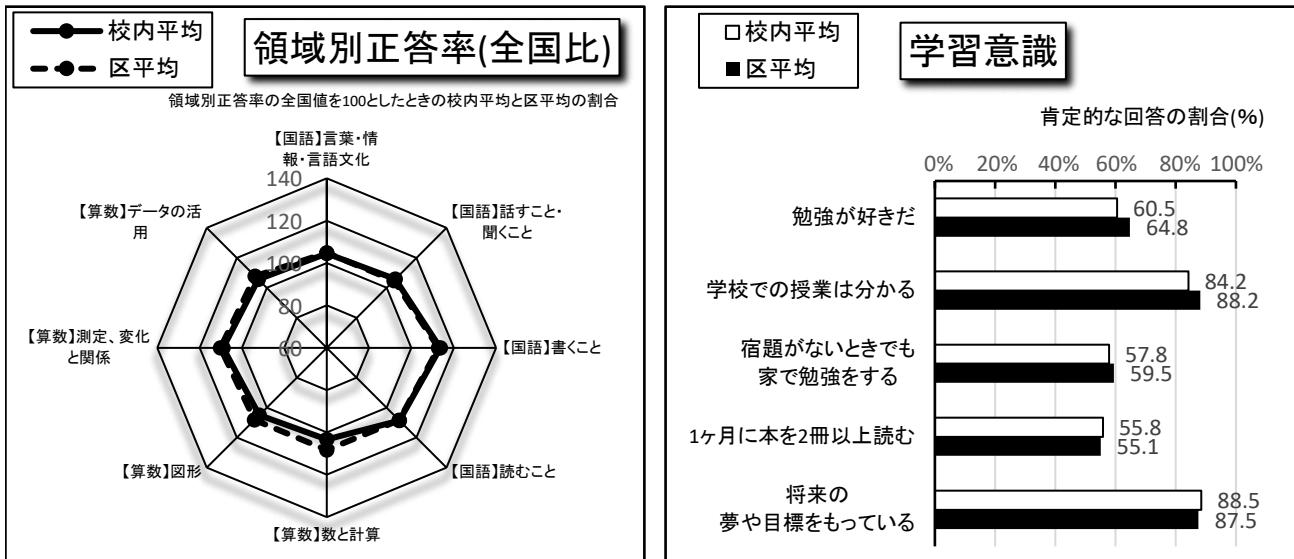
「学習定着度調査」分析結果

令和7年度の国語、算数の学校全体の平均正答率は、令和6年度と比べると国語で3.5ポイント、算数で3.4ポイント上がっている。通過率も同様に国語で1.8ポイント、算数で3.2ポイント上がっていることが認められる。この結果より、学校全体として学力が定着してきたことが明らかとなった。しかしながら、学年単位でみていくと平均正答率では2年生の国語と算数、4年生の算数で前年度よりも下がっていることが分かる。また、通過率では2年生の算数、4年生の国語と算数、5年生の国語、6年生の国語も前年度より下がっている。平均正答率、通過率とも前年度よりも下がっている学年、教科については基礎的・基本的な学習内容が身についていないことが分かる。これは学習意欲の低下や既習事項でのつまずきが解消できていないことに起因するものである。特に、国語の「話すこと・聞くこと」と、算数の「測定、変化と関係」の正答率が低いことが領域別正答率(全国比)から分かる。この領域に焦点を当てた指導を充実させ、学力の定着を図る取り組みを行っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 区学力調査結果を分析し、学力の定着が十分でない単元を把握し、実態に合わせて指導方法を工夫した研究授業を全教職員が行い子どもたちのつまずきの解消を図る。
- 週に3日間のパワーアップタイムを設定し、現学年の漢字・計算などの基礎的・基本的な学習内容の確実な定着をめざして全児童に取り組ませる。その際には、AIドリルも活用を促し、効果的に学びを深めることを推進する。
- 放課後タイム（放課後に実施する学習）では、学習に対してつまずきの認められる児童に対して、現学年および前学年の学習内容の確実な定着をめざして個別指導を行う。
- 家庭学習の習慣化をめざし、「家庭学習週間」を設定する。「家庭学習カード（自己評価カード）」を活用し児童一人ひとりに目標をもたせて取り組ませるようにする。
- 小中連携では、教科等横断的な視点から9年間の学習の連續性を高め、確かな学力の定着を図る指導を行う。

梅島第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.9	83.5	78.4	83.8	92.3	87.2	88.7	85.2	80.0	85.7	87.8	75.6
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	88.5	79.4	91.2	91.2	86.0	90.0	79.4	79.4	92.5	80.0	91.7	63.3
平均正答率(R7)	79.6	76.6	83.9	85.4	87.5	86.8	80.2	74.4	69.3	80.8	78.1	61.6
平均正答率(R6)	76.1	74.0	88.7	88.7	86.8	89.8	66.9	73.6	71.5	72.7	70.4	57.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

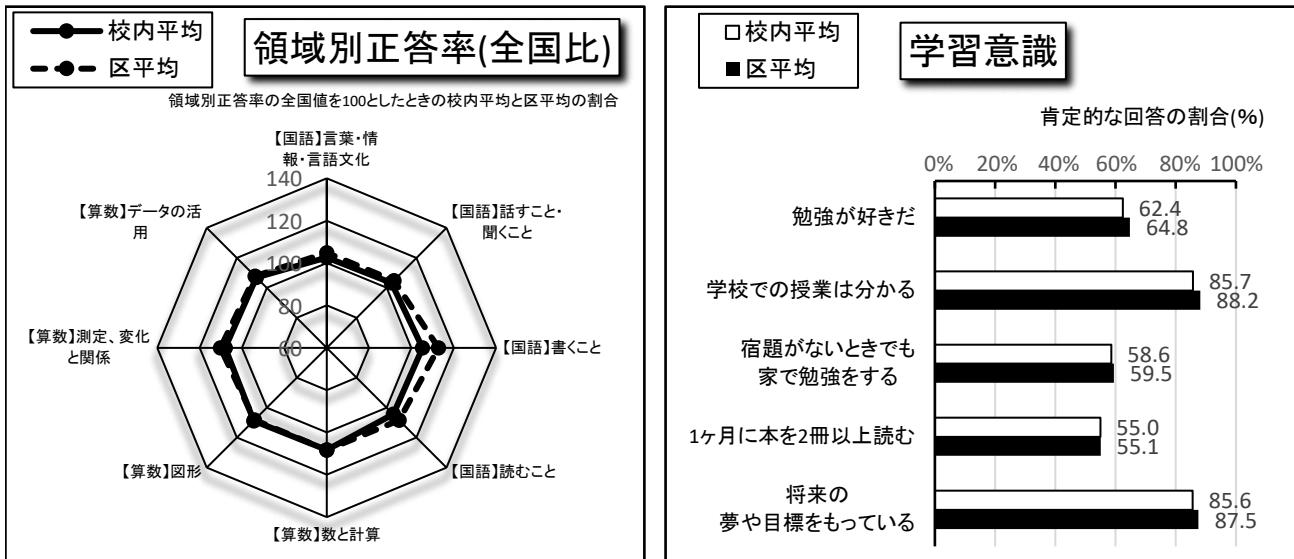
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率は、令和6年度と比較すると、国語は+3.5ポイント、算数は+2.6ポイントであった。また、令和6年度と学校全体の通過率を比較すると、国語で-2.6ポイント、算数で+4.1ポイントとなっている。経年変化では、国語で3～5年生において伸びている。算数で5年以外下がっている。同学年比較では、国語において、2・5・6年生において下向いている。算数において、4年生以上は上向いている。今後は、もう少しで目標値に達成できる児童に対して、今以上にきめ細やかに対応し「やればできるんだ」「こうすれば分かるんだ」という気持ちを醸成し学力の向上を図っていく。
- 国語を領域別に見ると、「言葉・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」「読むこと」で、区平均とほぼ同値である。
- 算数領域別では、「測定、変化と関係」「データの活用」「図形」において、概ね区平均と同等であるが、「数と計算」においては区平均を若干下回る結果となった。
- 学習意識調査では、「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」「宿題がないときでも家で勉強をする」の項目で、区平均と比較して、最大4ポイント下回っている。日常の授業が児童にとって「魅力的な授業」「分かりやすい授業」となるような授業改善が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードに基づいた授業を徹底させるため、校内OJTや管理職の授業参観など、経験のある教員の講義や模範授業を観る機会を通して、校内研修を充実していく。
- 教科指導専門員制度を活用する。特に教職歴5年末満の教員に対しては、国語や算数の授業を行うにあたって、単元についての基礎知識を指導してもらう。また、その単元がどのように他の学年と繋がっていくのかなど、系統的な授業を行う意識をもつことを習慣化させる。
- そだち指導員による、3・4年生の対象の個別指導を行い、個々のつまずきを把握し、高学年に向けての苦手意識を軽減させるよう早期解消を図る。
- A I ドリルを授業内や家庭学習で活用し、各教科の学習内容の定着を図る。
- 金曜日の朝に読書の時間を取るとともに、読書月間を年2回設定し、記録を取りながら読書を行い、読書の習慣を定着させる。

梅島第二小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.0	85.8	83.3	97.2	90.3	87.1	85.1	89.4	90.0	85.7	77.6	73.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	82.1	78.5	60.7	78.6	80.0	86.0	91.5	87.2	79.6	71.4	89.8	69.4
平均正答率(R7)	75.7	77.7	82.9	90.2	85.4	87.5	76.5	78.1	73.1	82.4	69.0	60.9
平均正答率(R6)	73.5	74.1	80.1	85.4	83.2	86.8	76.5	77.2	65.1	71.5	68.4	58.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、国語、算数ともに85%を超えた。今年度は、国語で2.9ポイント、算数で7.3ポイントの伸びが見られた。国語においては、2~5年生の通過率が80%を超え、2つの学年で90%を超えた。課題であった5・6年生の国語科の通過率の伸びが、5年生で10.4ポイントと大きかった。昨年度の学力向上の取り組みの成果だと考える。しかし、経年変化では伸びているものの、同学年比較では、下がっている学年・教科もあり課題である。
- 領域別正答率はレーダーチャートより、ほぼ100を超えており、全体的に正答率が上向きの傾向である。国語科も算数科もほぼ区平均と同等である。
- 学習意識の結果も肯定的な回答が多い。特に「学校での授業は分かる」の問いに85%の児童が肯定的な回答をしている。足立スタンダードの学習の推進、日常の授業の工夫の改善の取り組みの成果と考える。また、「1ヶ月に本を2冊以上読む」割合が、昨年度に比べて10ポイント以上増えている。学校図書館の充実と学校での様々な取り組みの成果が出ている。

学校による学力向上への主な取り組み

【国語科】

- 文字列を「語」として捉える3分間視写、「読み取る力」を身に付ける「αドリル」に取り組み、低学年ではMIMを通して、文字の記号を意味言葉として捉えさせる指導を徹底する。
- 校内研、OJT研修を通して、説明的文章の構成をとらえて読み取ることができるよう「説明文の家」などを活用していく。

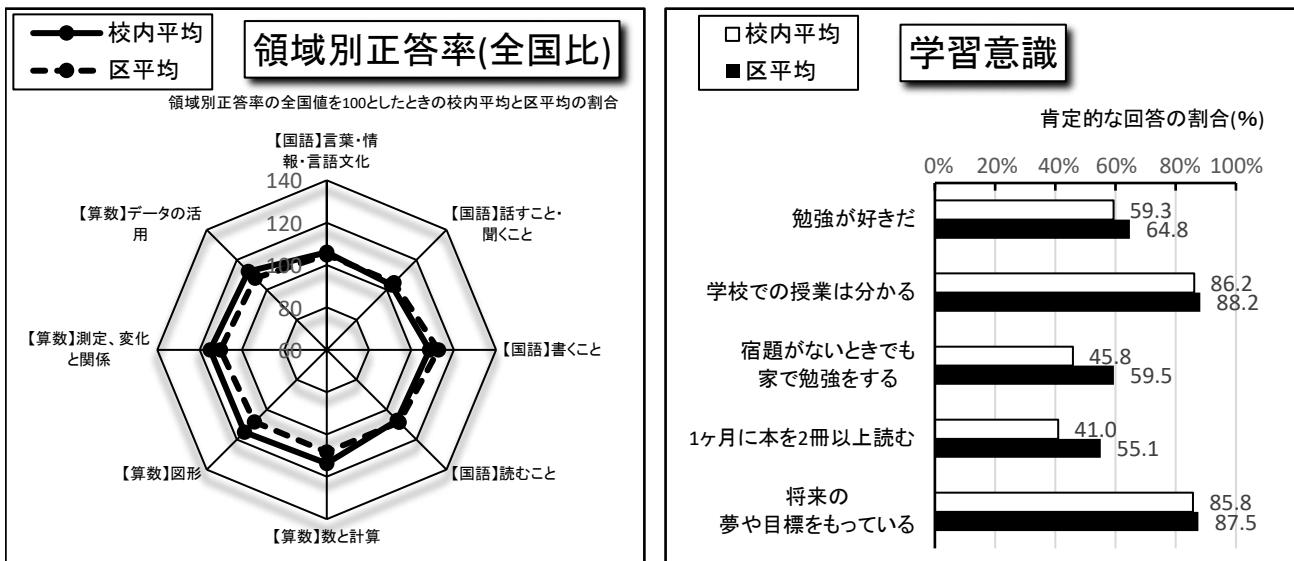
【算数科】

- 自ら問い合わせを見つけ、そこから必要な情報を読み解く。下線を引く習慣から立式へつなげる。
- 朝学習で「東京ベーシックドリル」や「パワーアッププリント」に取り組み、前学年までの既習事項を確実に定着させ、現在の学年の算数のつまずきを低減させる。

【その他】

- 家庭学習がんばろう週間を設定し、家庭と協力をして学年×10分の学習時間を定着させる。
- 全学年で「自主学習」の取り組みを行う。自分の興味関心のある学習をすすんで行き、学び方や主体的に学ぶ力を身につけさせ、学ぶ楽しさを実感させる。

桜花小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.3	88.5	89.1	97.8	88.1	95.2	97.9	95.8	81.0	78.0	82.8	81.0
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	79.9	86.8	87.2	97.4	93.9	95.9	83.3	83.3	63.6	73.2	73.9	89.1
平均正答率(R7)	77.4	82.3	87.0	94.3	85.5	89.7	87.7	85.4	66.1	78.2	71.6	71.8
平均正答率(R6)	71.3	78.5	89.1	94.8	88.6	92.9	69.9	77.4	59.2	70.7	60.3	65.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

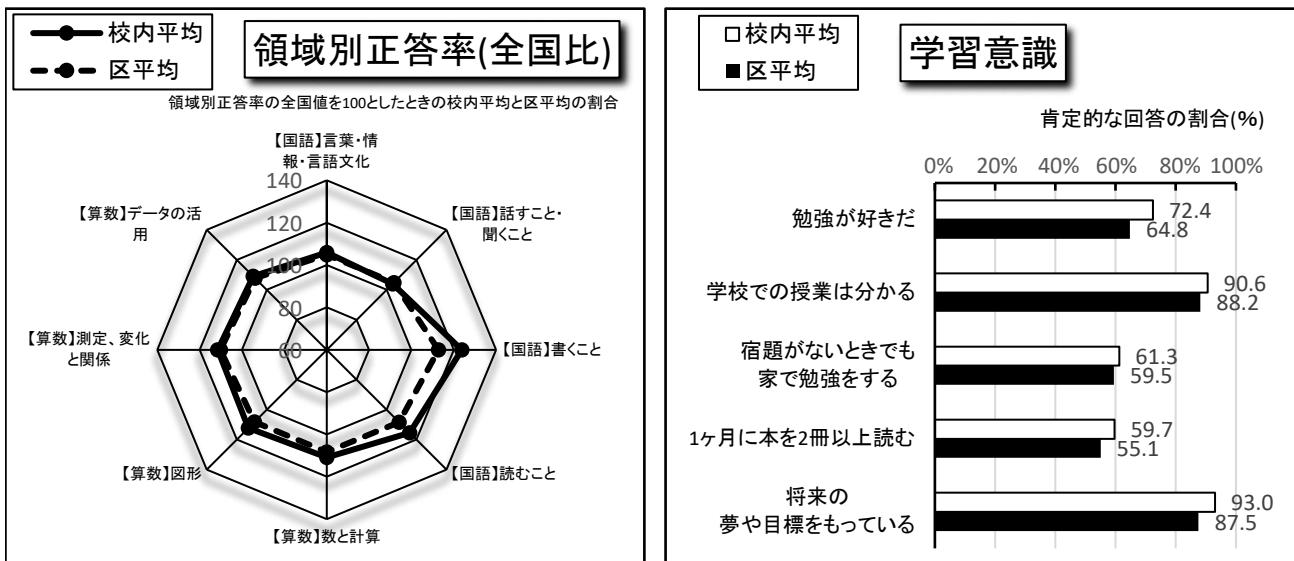
「学習定着度調査」分析結果

- 令和7年度学力向上アクションプランの目標値である通過率80%を国語・算数ともに大幅に上回った。国語は87.3%、算数88.5%で、令和6年度と比べて国語は7.4ポイント、算数は、1.7ポイント上回った。令和6年度は国語79.9%、算数86.8%であり、通過率は毎年向上が見られ、つまずき解消の取り組みの成果が出ている。
- 算数に比べ国語が低かったことから、令和6年度は文章問題・言語に重点を置いた指導を行った。全学年が国語・算数共に80%以上になるよう学年や個に応じた対策に加え、今年度も教材研究・資料準備等を教員が協働で行うなどの策を講じ、通過率の更なる安定を図る。
- 通過率80%を下回っているのは、5年生の算数78%である。5年生は角・平面図形・立体図形・数量関係の正答率が低かった。
- 意識調査においては、区平均よりも肯定的な回答の割合が低かった。令和7年度は通過率、正答率共に前年度を上回っているので、国語、算数の結果と意識がリンクされていない。学力だけでなく、学習に対する意識の向上も必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 若手教員を中心に、足立スタンダードに基づいた授業実践のための校内研修を行っている。児童が主体的に考えを共有し、さらに深められるよう板書を工夫し指導を行っている。
- 国語・算数の単元テストや東京ベーシックドリルの診断シートの結果を分析し、誤答が多い問題について共有し、指導方法を検討・改善している。
- 「桜花タイム」を週3～4回、放課後に設定している。担任と専科教員の複数の教員で指導し、漢字・言語・文章問題、四則計算を中心にはじめ事項を確認している。
- 授業中の振り返りや家庭学習でA I ドリルを活用し、学習内容の習熟を図っている。
- 2年生の後期に「九九検定」を実施し、3年生以上でも九九の確認を行っている。かけ算だけでなく、わり算のつまずきの原因ともなる九九の定着を図っている。
- 「学校図書館利活用推進校」として、学校図書館にタブレット端末を持ち込み、調べ学習を行いやすいレイアウトに変更した。児童が主体的にテーマや方法を選び、学びを深めていく手法や指導方法について年4回の計画で校内研究会を実施している。

扇小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	92.0	89.1	100.0	100.0	88.6	95.5	97.5	92.5	88.3	85.0	87.5	75.0
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	82.2	83.3	82.6	89.1	73.8	85.7	88.5	86.7	89.6	83.3	72.7	70.5
平均正答率(R7)	80.2	80.9	92.7	95.1	89.2	91.5	80.1	78.7	71.3	80.4	75.2	64.6
平均正答率(R6)	72.6	75.9	84.6	85.6	79.8	85.4	73.1	79.1	69.1	75.0	60.9	57.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

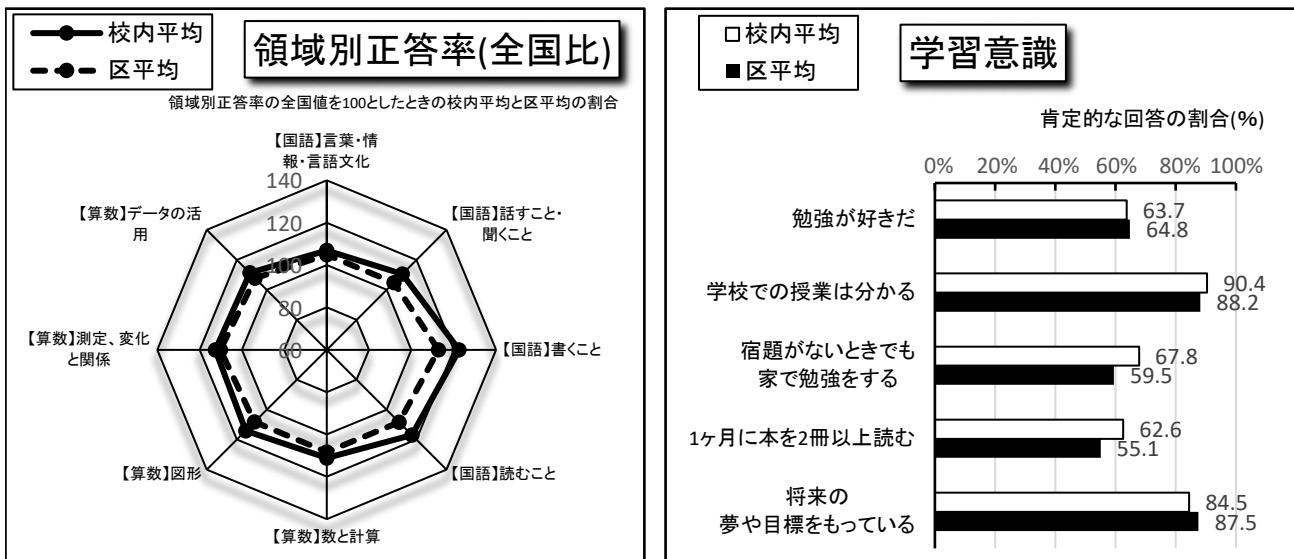
「学習定着度調査」分析結果

- 昨年度の結果と比較すると、全体の通過率が国語で9.8ポイント、算数で5.8ポイント高くなっています。パワーアップタイムや補充教室の取り組みの成果が表れている。
- 領域別正答率を見ると、昨年度課題のあった国語の「書くこと」において区平均を上回っており、日常的・意図的に指導したことが結果につながった。また、パワーアップタイムでの読み問題への取り組みが成果に表れている。「話すこと・聞くこと」においては、特に「聞くこと」に関して各学年ともに課題が見られる。ポイントを絞って聞くことやメモの取り方など日常的に指導していく必要がある。
- 全学年、基礎・基本の定着のために引き続き足立スタンダードを意識した授業実践や家庭学習についても学校全体で計画的に取り組む必要がある。
- 学習意識の全ての項目で肯定的な回答の割合が増えている。特に「勉強が好きだ」の項目では3ポイント向上した。引き続き「わかる・できる授業」を展開できるよう授業改善に取り組む。

学校による学力向上への主な取り組み

- 週1回の放課後補充教室（扇寺子屋）の取り組み
 - ・学年ごとに指導重点課題を分析し、学習教材を選定する。当該学年の学習内容の定着率を高められるよう、全教員で取り組んでいる。
- 週3回の始業前時間を使った朝学習の取り組み
 - ・A I ドリルを活用し、計算技能の定着を図る。
 - ・引き続き、初見音読や短い文章の読み問題に取り組み、読み力を向上させる。
- サマースクールの取り組み
 - ・区学力調査の結果をもとに、対象者を絞って計画的に行い、基礎学力の定着を図る。また、実施期間は、全校児童にも自宅学習を呼びかけ、基礎学力の定着に全校で取り組む。
- 読書活動の推進
 - ・図書館司書や図書ボランティアによる読み聞かせ、読書記録カードの活用を通して、本好きな児童を育てる。

大谷田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	92.9	89.9	94.9	96.6	85.7	88.9	100.0	100.0	96.0	90.0	90.0	74.0
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	89.7	85.3	91.9	93.5	98.0	96.0	88.2	90.2	88.2	72.5	78.9	68.4
平均正答率(R7)	82.6	82.7	91.2	92.5	86.2	87.8	88.9	87.7	73.9	80.1	75.8	66.9
平均正答率(R6)	78.5	78.5	88.6	90.2	91.8	92.1	74.4	77.8	69.9	72.0	67.0	58.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

(国語)

- 漢字の読みの正答率は全学年で90%を超え、6年生以外は高かった。書きの正答率も全体的に高かった。
- 無解答率が全体的に低い。記述式でも、問題に取り組もうとする意欲がみられた。
- 「文学的な文章」で、登場人物の心情を読み取ることはできている。
- 文の主語や述語を選ぶ問題に課題が残る。

(算数)

- 「数と計算」は、昨年度より正答率が上がった。「小数の計算」の位取りと「分数の計算」の約分に課題が残る。
- 「平面・立体図形」は、公式を用いての求積はよくできた。単位変換は、課題が残る。
- 「単位当たりの大きさ」は、昨年度より正答率が上がり定着が見られた。

学校による学力向上への主な取り組み

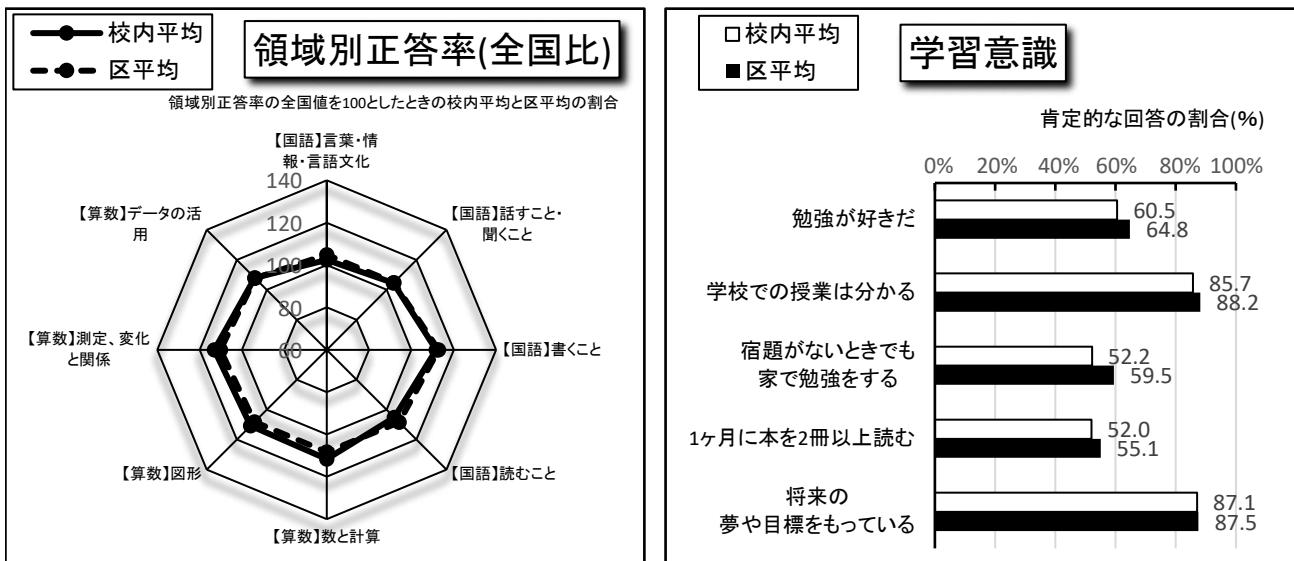
(児童への支援)

- 都の時間講師を活用し、低学年の算数においても担任+1のグループ編成で習熟度別に指導する。
- 朝学習で、計算問題や漢字など基礎的な問題を繰り返し行う。
- 授業内でICTを活用する。
- 補充教室・サマースクールで学習の補完をする。
- 低学年でMIM指導、中学年を対象にそだち指導を行う。
- 学級文庫を設置し、記録用個別カードを活用して進んで読書をする環境作りをする。
- 読書目標を設定し、1人当たり年間35冊読むようにする。

(家庭、地域との連携)

- 家庭学習の習慣(15分×学年)が定着するように家庭学習カードを活用する。
- 図書館支援員の活用と図書ボランティアの協力。

興本小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.9	87.8	85.7	90.5	89.8	91.5	81.0	87.9	88.9	90.5	83.8	79.4
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.7	86.7	86.2	87.9	85.5	90.9	83.9	93.5	84.1	82.5	83.9	78.6
平均正答率(R7)	77.3	80.8	85.0	90.3	87.9	89.3	75.2	77.2	70.2	81.6	72.0	69.9
平均正答率(R6)	75.5	78.6	88.1	87.7	86.1	88.9	73.5	81.1	67.9	74.0	66.9	65.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

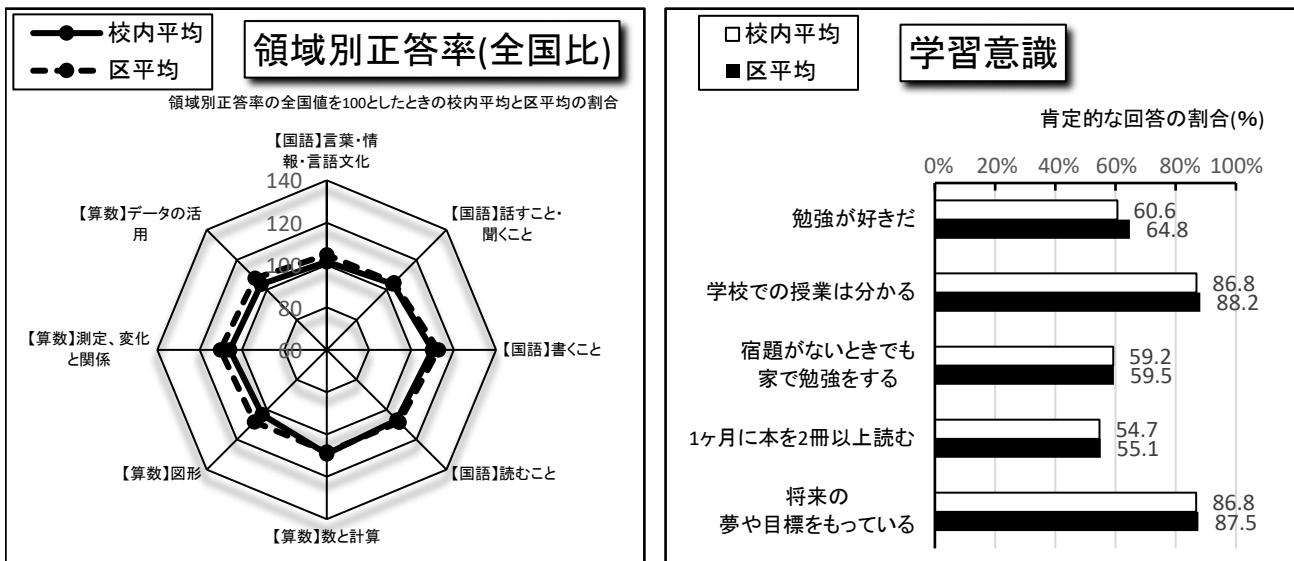
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、前年度をやや上回る結果となった。すべての学年で平均正答率が目標値を大きく上回っており、基礎的・基本的な学習内容は身についているといえる。一人ひとりのつまずきを明らかにして継続的に指導を重ねたことが定着に結びついたと考える。
- 領域別正答率を区の平均と比べると、算数については概ね上回った。国語については全ての領域で下回った。特に「書くこと」「読むこと」で7ポイント下回った学年があった。
全ての学年で国語の授業を改善し、継続的な言語活動の充実を図ることが課題である。特に「読むこと」において、内容把握・解釈・考えの形成・共有という学習過程を大切にして、身につけたい力を明確にした指導を重ねていく。
- 学習意識調査の結果では、「学校での授業は分かる」「1ヶ月に本を2冊以上読む」「将来の夢や目標をもっている」の肯定的な回答が、3年ぶりに区平均を下回った。ＩＣＴを活用した学習の積み上げ、成果を出してきた読書活動の在り方を見直すとともに、教師一人ひとりが、分かる授業、学習意欲を引き出す授業をめざすことが必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 小中連携研究において、ＩＣＴを活用した授業研究を年に4回実施するとともに、全教員が授業を参観し合い、主体的・協働的な学習を充実させる。
- 校内の研修を通して、日々の授業改善を行う。「ねらいにせまるめあて」「思考し、表現する活動」「学び合う場の設定」「次につながる振り返り」を意識して指導する。
- 1～4年生は朝の10分間、5・6年生は授業の始まりの5分間の「パワーアップタイム」で、音読・漢字・視写・計算などに取り組み、国語・算数の基礎的な力を向上させる。
- 一人ひとりの児童のつまずきを把握し、放課後補充教室において、全教員が個別指導を行う。
- 読書活動を推進する。「興本扇の45冊」の選定、年2回の読書旬間の取り組み、朝読書、中学生による読み聞かせなどを通して、本への興味を高め、読書の習慣を身につけさせる。
- 小中一貫教育校の特色を生かして、1年生から4年生までが中学生に年間6回丸付けをしてもらい、学習意欲を高める。1・2年生は保護者による丸付けも充実させる。

加平小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	86.1	85.4	88.9	94.9	80.2	87.5	92.5	89.2	75.3	71.7	93.8	83.7
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	82.8	83.3	72.6	87.5	82.7	85.7	85.1	87.2	87.6	77.3	86.2	78.7
平均正答率(R7)	77.0	77.9	85.8	89.8	81.1	85.3	82.5	79.5	64.2	68.9	75.5	69.5
平均正答率(R6)	74.3	77.1	80.8	87.5	85.6	90.8	71.6	77.7	68.6	72.4	67.3	61.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

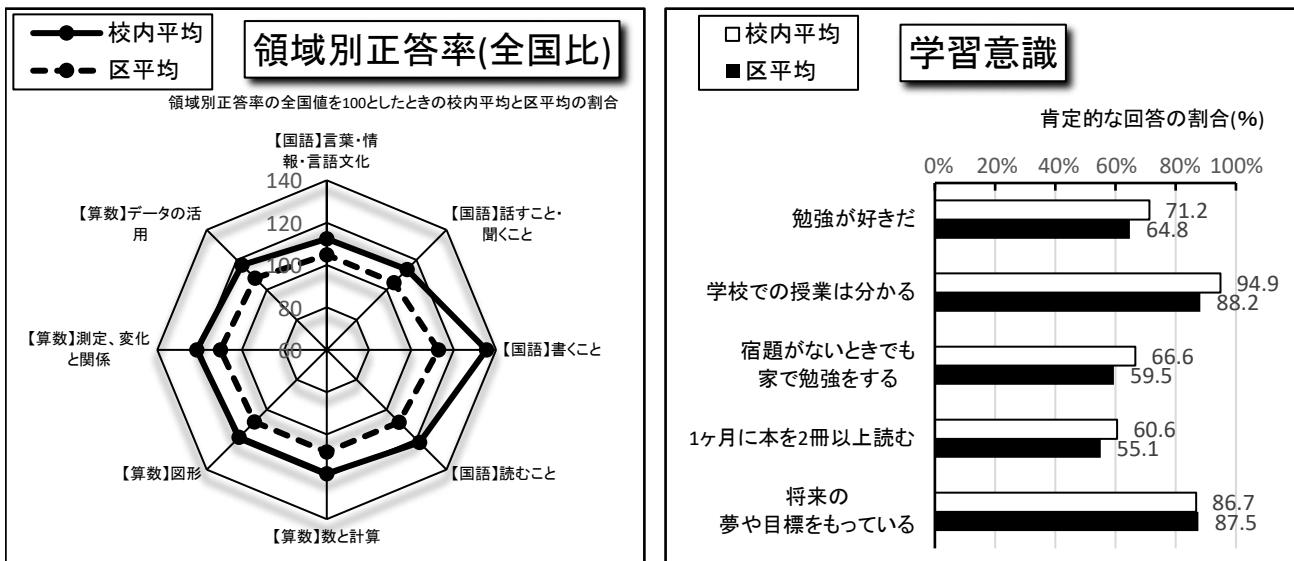
「学習定着度調査」分析結果

- 今年度の国語の正答率は77.0%で通過率は86.1%、算数の正答率は77.9%で通過率は85.4%であり、目標値を超えた児童の割合が多かった。また、学校全体の平均正答率では、昨年度と比較して国語は2.7ポイント上回り、算数も0.8ポイント上回った。通過率も、昨年度と比較して国語は3.3ポイント、算数は2.1ポイント上回った。8割を超える児童が大体は理解しているものの、1～2割近い児童が前学年の学習内容の定着が不十分であると考えられる。
- 国語の領域別正答率では、「言葉・情報・言語文化」と「書くこと」の領域が区平均に比べて下回った学年もある結果であった。生活経験などを活かしたり、視聴覚教材を活用したりしながら、言葉の使い方や言い回しをおさえ、自分の表現に活かす授業展開を行っていく。
- 算数の領域別正答率では、「図形」「測定、変化と関係」「データの活用」の順に区平均に比べて下回った学年が多い結果であった。具体物操作やICTを活用して体験的理理解につなげた授業を多く取り入れていくことや、日常の事象をデータで捉えて考察していく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学習は、国語と算数の基礎・基本の力をつける学習を中心として行っている。国語では1年生はMIM、2年生以上は新出漢字練習、算数では東京ベーシックドリルを計画的に実施している。
- ・読書タイムを昼休み後の10分間実施し、本に親しむ時間と読書量を増やしている。
- ・放課後補充指導として、全教職員で指導にあたるパワーアップタイムを週に1回全学年20分間行っている。区学力調査の目標値が未通過の児童を中心に、個別に定めためあてが達成できるようつまずきを補充する指導を行い、基礎学力の定着を目指している。
- ・算数少人数学習は1年生から4展開とし、レディネステスト結果を踏まえてクラス分けを行い指導を行っている。
- ・かけ算九九検定を年に3回行い、89点以下の児童に関して補充を行い、定着を図っている。
- ・年間3回以上言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する授業展開の工夫を図った授業公開を行い、年間6回以上各教員がお互いに授業を参観して、授業力の向上をめざしている。

亀田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	97.1	95.4	98.7	100.0	97.1	95.2	96.7	95.6	96.7	97.8	96.6	90.7
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	97.1	98.4	96.2	99.0	100.0	100.0	100.0	98.9	95.8	95.8	94.4	99.1
平均正答率(R7)	87.0	86.8	92.3	93.8	91.3	91.5	86.9	84.5	82.1	88.8	84.7	79.9
平均正答率(R6)	85.6	87.2	93.6	93.6	93.3	95.1	86.7	88.6	80.3	84.7	79.3	78.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

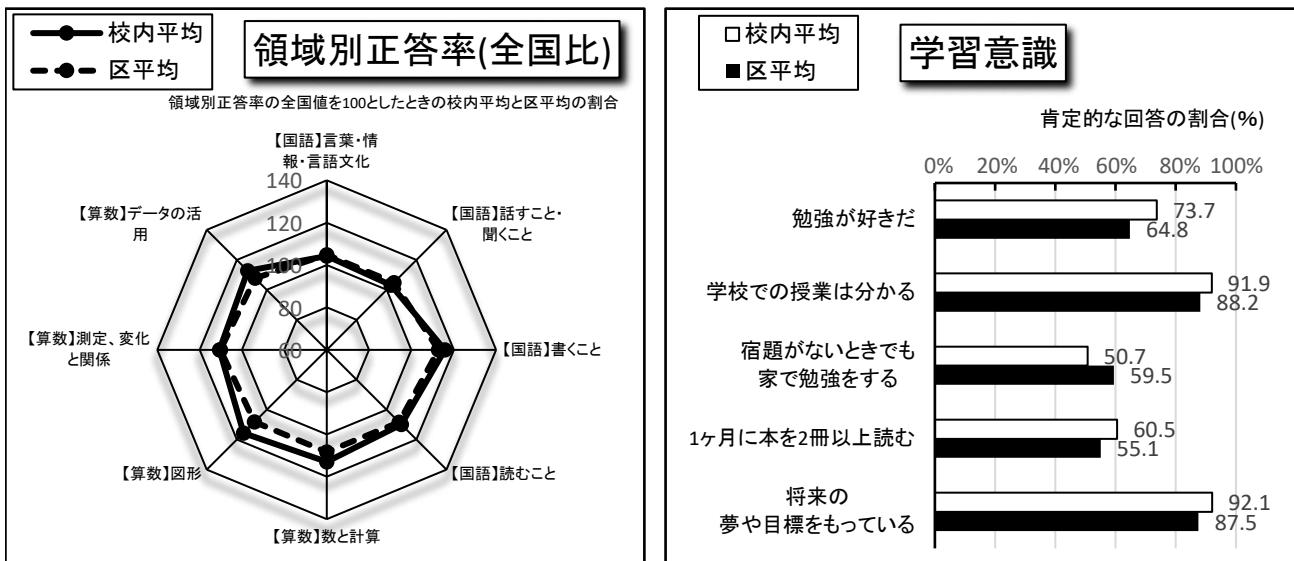
「学習定着度調査」分析結果

- 前年度の結果と比較すると、全校の通過率は国語（97.1→97.1）算数（98.4→95.4）と、算数が3.0ポイント下回った。しかし2教科ともに全学年で通過率90%を超えるなど、授業改善、パワーアップタイム、放課後補充教室、ステップ学習の取り組みの成果が表れている。
- 全校の平均正答率は、国語のポイントは上がったが、算数のポイントは下がっている。学年別に見ると、2年生、3年生、4年生が前年度の正答率を下回っている。
- 国語は、領域別に見ると「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。話の内容の中でキーとなる言葉をメモする力を育成していく。また、設問別に見ると、全学年で「文章読解」、特に「記述式」の設問の正答率が低い。問題で問われていることを的確に読み取る力、キーになる言葉やセンテンスを読み取れる力を育成していく。
- 算数は、文章問題の題意を的確に捉えることが引き続き課題である。数字に印を付けたり、キーとなる言葉に線を引いたりする技能を定着させ、活用力を高める必要がある。
- 意識調査では、「宿題がないときでも家で勉強をする」が前年度より約5ポイント下がっている。また、「将来の夢や目標をもっている」が区平均を下回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 週1回の放課後補充教室の取り組み（管理職含む教職員全員で取り組んでいる）
 - ・既習内容の定着が十分でない児童が対象。
- 週2回、始業前の時間を使ったパワーアップタイムの取り組み
 - ・A I ドリルの活用（家庭学習でもA I ドリルを活用できるよう授業内でも活用している）
 - ・初見音読や、短い文章の読解問題など、読解力を向上させるための取り組み。
- ステップ学習の取り組み（管理職含む教職員全体で取り組んでいる）
 - ・区学力調査の結果を基に、学年ごとに指導重点課題を分析し、学習材を選定する。習熟度別に指導を行い、当該学年の学習内容の定着率を高められるようにする。
- 全員が目標値を通過できるよう全教職員が共通意識をもって日々の授業に取り組む。
- 自主学習の取り組み（内容の自己決定、家庭での学習時間の確保など）
- 読書時間の確保（年3回の読書旬間の設定、図書館を利用した調べ学習の推進など）

北三谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.8	92.9	91.7	100.0	86.4	95.5	90.9	93.9	86.7	91.1	87.9	84.8
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.7	88.9	90.5	95.2	85.3	94.1	86.5	90.4	83.3	77.8	80.4	89.1
平均正答率(R7)	78.1	82.6	88.3	94.4	84.0	88.6	81.6	79.2	72.5	84.4	71.6	69.8
平均正答率(R6)	72.1	77.0	86.5	91.5	83.2	90.2	74.2	78.6	65.7	71.4	63.5	66.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の通過率は昨年度より4.1ポイント上がった。領域別正答率は、「言葉・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」において、9学級中5学級が区平均を下回った。多様な言語表現に触れる機会やメモを取りながら聞く機会などを意図的に取り入れ、段階に応じた取り組みをしていく。

【算数】学校全体の通過率は昨年度より4.0ポイント上がった。領域別正答率は、「測定、変化と関係」において9学級中3学級が区平均を下回った。算数科の見方・考え方の素地を養い、具体物を用いた活動などを効果的に取り入れてより理解を深めていく。

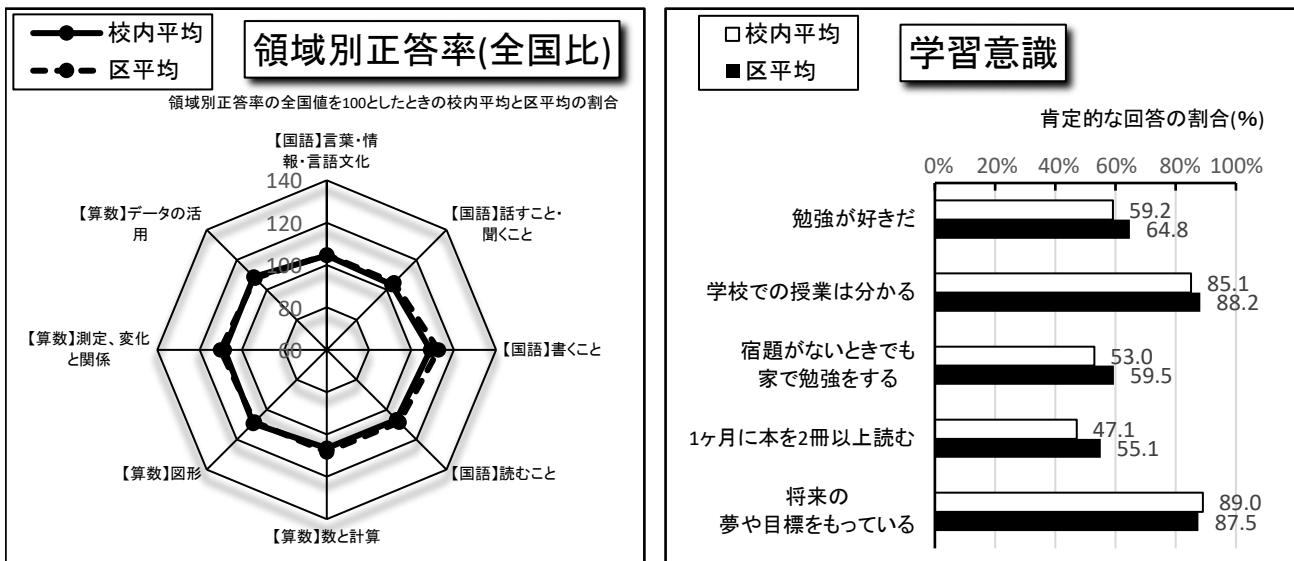
【学習意識】

「勉強が好きだ」は2年連続の上昇が見られ、区平均を大きく上回っている。一方で、「宿題がないときでも家で勉強する」は、昨年度よりも上昇は見られるものの未だに低いため、家庭との連携を図り、自主学習などへの取り組みを推奨していく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 管理職による授業観察、教科指導専門員制度の活用を通して、「北三谷スタンダード」に基づく授業改善と共通実践を徹底する。
- 各学力調査などの結果を分析し、全体的な傾向や個々の状況の把握に努め、定着の十分でない学習内容について、週4日間のパワーアップ2(放課後学習)を計画的に実施し、個への支援を充実させる。
- 東京ベーシック・ドリルを年3回実施・分析し、算数の計算スキルの確実な定着を図る。
- 家庭学習がんばる週間を年間2回設定し、家庭と連携を図りながら家庭学習の習慣化を図る。
- 読書活動の推進として、各学年目標数値を設定した上で、週4日間のパワーアップ1(朝読書)に取り組む。また、年2回の読書旬間においては本の紹介活動などに取り組む。
- 語彙の習得をねらいとした校内掲示を年4回に分けて掲示し、様々な言語表現に触れさせる。

栗島小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	89.2	84.8	93.8	93.8	92.1	97.4	89.5	92.1	88.2	80.4	83.9	67.9
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.2	85.4	87.2	94.9	83.3	91.7	86.0	84.0	81.1	73.1	83.9	87.5
平均正答率(R7)	77.3	77.4	85.6	90.0	88.0	90.8	76.9	78.3	72.7	79.8	70.2	58.8
平均正答率(R6)	73.0	77.6	87.7	90.0	84.5	90.5	73.3	77.9	65.3	73.6	66.2	67.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○区平均との差についての分析

区平均正答率と校内正答率を比べると算数・国語共に同レベル程度であるが、学校全体としては昨年度より定着度が下がっている。

○自校の課題となる点・伸ばしていきたい点

算数の通過率が昨年度比0.6ポイント下回った。R5年度より算数の通過率・平均正答率共に下がり続けている。学習内容の理解が不十分なまま進級する児童が増えている。また、学習意識調査で「学校での授業は分かる」と答えた児童が昨年度比7.5ポイント、「勉強が好きだ」は12.5ポイント下回った。教師が足立スタンダードに基づいた授業を行うよう校内で取り組んでいるが、十分でない事がうかがえる結果である。教員一人ひとりが教材研究をしっかりと行う時間を確保し、互いに授業を参観し合い授業力を高めていくことで、児童の学びへの意欲や学習定着度を高めていきたい。

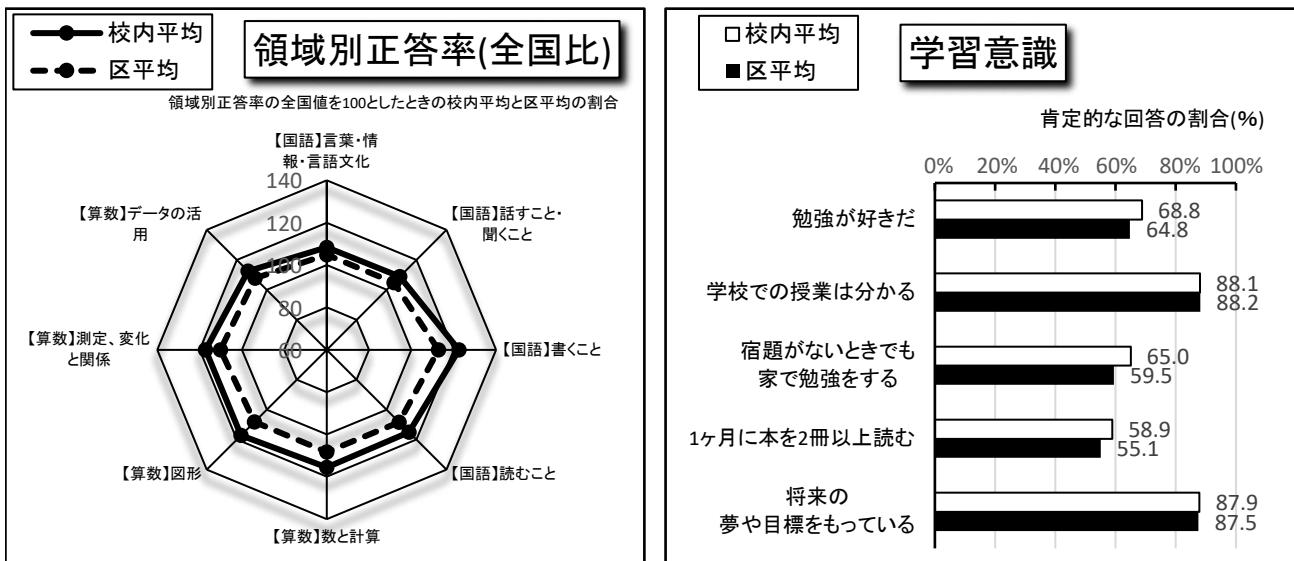
学校による学力向上への主な取り組み

【朝学習・昼学習・放課後補習の充実】国語では、詩の暗唱や読書を通して語彙力の向上を図り文章読解問題や漢字練習に取り組み学力向上の充実を図る。週に3回朝・昼学習の時間を活用する。算数では、A I ドリルに取り組む時間を確保し、知識・理解の定着を確実なものとしていく。算数の基礎学力を向上させるため、全学年全児童を対象に毎週水曜日に放課後補習を30分程度行う。国語と算数の復習を基本に学力定着の基盤をつくる。

【教科学習、習熟度別指導、個別学習の充実】国語では、対話的な学びの充実を図る。授業展開においては実際の対話だけでなく、話題の設定や情報の収集、構成の検討など学習過程における児童一人ひとりの思考を大切にしていく。算数では、1年生からの習熟度別授業に加え、そだち指導がない学年は学習支援員による個別指導を行い、下位層児童の学力向上をめざす。低学年の間に個々のつまずきを把握し早期解消し、高学年に向けて苦手意識を軽減させる。

【家庭への啓発】「よくわかる栗島小学校」を各家庭へ配付し、家庭への啓発をしている。また、子どもたちには、規則正しい生活と家庭学習の習慣が身につくよう指導を続けていく。

栗原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	93.5	94.2	92.2	100.0	91.5	98.3	98.2	100.0	98.0	87.8	88.5	85.2
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	86.0	87.8	88.1	91.5	93.0	96.5	88.2	88.2	78.1	81.3	83.6	81.8
平均正答率(R7)	82.5	84.4	88.9	94.9	87.7	91.5	88.6	87.2	77.5	80.5	74.4	72.6
平均正答率(R6)	77.7	80.0	87.6	88.6	89.1	92.8	77.3	77.1	67.5	74.2	71.5	70.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

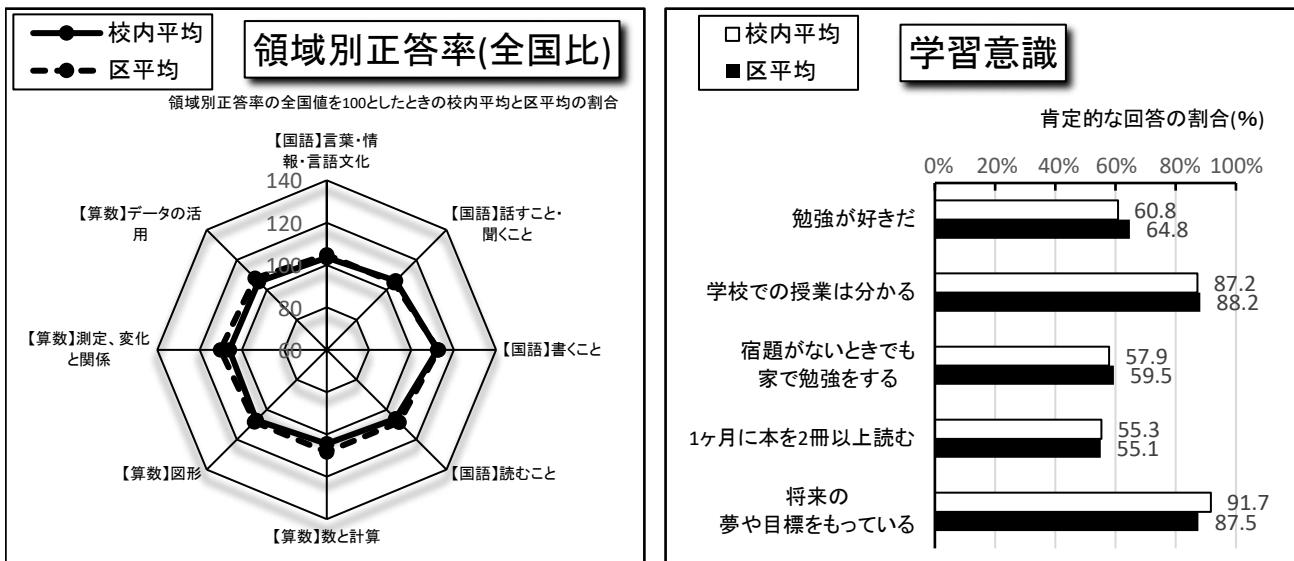
「学習定着度調査」分析結果

- ・本校の領域別正答率は、全領域で区平均を概ね上回っており、特に国語の【書くこと】では区平均を大きく上回る結果となった。一方で、国語の【言葉・情報・言語文化】や算数の【データの活用】は、区平均とほぼ同程度であり、引き続き重点的な指導が求められる。
- ・学習意識については、【将来の夢や目標をもっている】と答えた児童は87.9%と高く、自分の進路について意欲的な姿勢が見られる。また、【学校での授業は分かる】と回答した割合も88.1%と区平均と同程度で高水準であった。一方で、【1ヶ月に本を2冊以上読む】は58.9%と、他の項目と比べてやや低い結果となった。読書の習慣化や読書量の増加が今後の課題である。
- ・設問の難易度にも左右されるが、通過率、平均正答率とともに、昨年度より増加している。特に4年生は昨年度に比べ国語も算数も10ポイント以上増加している。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・領域ごとの結果を分析し、個々の児童が自分の課題を把握できるようにするとともに、AIドリルを活用し家庭学習でも自分に合った問題に取り組めるよう指導する。
- ・放課後学習教室やサマースクールを計画的に行い、つまずきを早期解消できるよう支援する。また、その際には学習状況のデータをもとにそれぞれの児童に必要な内容を学習できるようにする。
- ・基礎学力の定着を図るため、パワーアップタイムや年6回の百マス計算大会を実施し、算数に対する関心や集中力を高める。
- ・自由進度学習を推進し、児童自身が学習の進み具合を振り返ることで主体的に学ぶ力を育てる。
- ・読書活動を充実させるために、学校での読書時間を確保するとともに、年間の目標冊数(ページ数)を設けるなど、意識の向上を図る。

栗原北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.7	81.5	86.0	88.4	93.4	96.7	90.4	84.6	84.1	79.5	84.4	64.9
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.4	79.9	91.2	93.0	86.5	88.2	82.2	71.7	77.3	72.0	86.4	76.7
平均正答率(R7)	77.8	75.2	82.6	86.3	88.4	90.6	83.1	78.4	69.8	74.2	70.8	59.2
平均正答率(R6)	73.9	74.8	89.6	89.0	87.6	89.8	71.7	73.4	64.2	68.9	65.8	61.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

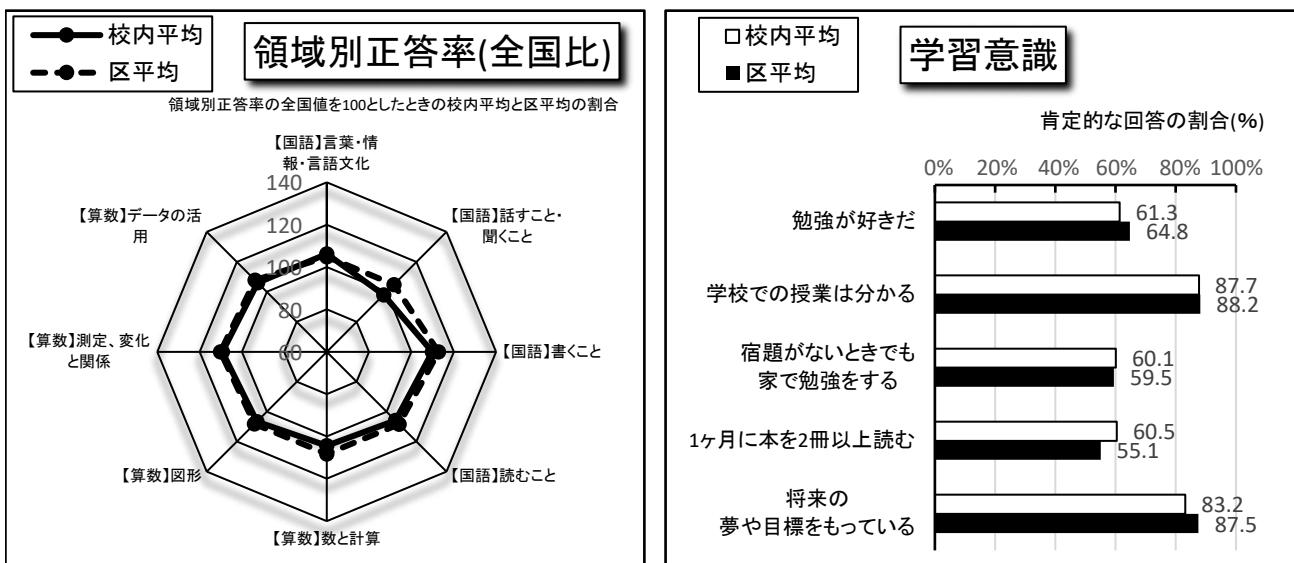
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体では、国語、算数ともに前年度より通過率も平均正答率も上がった。
- ・学年ごとに見ると、3年生、4年生、5年生は国語・算数ともに前年度より通過率も平均正答率も上がった。5年生、6年生の算数は通過率が80%を下回っており、既習事項が十分に定着していない児童が見られる。
- ・「1ヶ月に本を2冊以上読む」という問い合わせに肯定的な回答をした児童の割合は区平均を上回っている。しかし、「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」「宿題がないときでも家で勉強をする」という問い合わせに肯定的な回答をした児童の割合は、区平均を下回っている。自主的に学習する児童の育成が課題である。
- ・算数の「数と計算」や「測定、変化と関係」、国語では「読むこと」の領域で区平均を下回った。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・「足立スタンダード虎の巻」を軸とした学習者主体の授業を全教員が実施する。特に伝え合い、認め合いの活動を授業に日常的に取り入れた授業改善を図る。
- ・普段の授業や家庭学習でA I ドリルを活用して、児童一人ひとりに応じた内容で自主的に学習できるように取り組んでいる。家庭学習では正答率の下限を各学年で決めて、その正答率を超えるまで取り組ませている。
- ・週に2回、放課後学習を実施している。学力定着度調査の結果をもとに児童個々のつまずきを把握して、そのつまずきに応じた内容で全教員が指導を行っている。
- ・週2回朝学習の時間を15分確保して、国語や算数の基礎的な内容の習熟を図っている。A I ドリルも活用して、できなかった問題は放課後学習で取り組ませるなど、理解が深まるようしている。週1回は、前週の家庭学習で正答率の低い問題の解説を行っている。
- ・年間を通して「読書マラソンカード」に読書の記録を残す。また、年2回の読書週間を実施して、全校で読書に取り組む機会を設ける。
- ・夏季休業中にサマースクールを10日間実施して、国語や算数の基本的な内容の定着を図る。
- ・九九検定を3年生以上で実施して、九九の確実な定着を図る。

弘道小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	84.5	82.7	79.3	79.3	87.1	90.3	71.8	76.9	90.7	86.0	96.2	80.8
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	74.3	74.2	84.6	81.5	60.5	76.9	82.9	85.4	67.9	62.1	76.1	65.2
平均正答率(R7)	77.9	77.6	80.9	83.3	84.9	83.1	70.1	70.2	74.3	79.0	82.1	75.3
平均正答率(R6)	71.9	73.2	88.1	87.8	74.7	84.8	73.7	77.0	66.1	66.1	65.6	59.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

通過率は、前年度と比べると学校全体で10.2ポイント上がった。学年ごとの比較では3年生が26.6ポイント、5年生が22.8ポイント、6年生が20.1ポイント上昇した。領域別に見ると区平均と比べて大きな差は無いが「話すこと」「聞くこと」に課題が見られる。

【算数】

通過率は、前年度と比べると学校全体で8.5ポイント上がった。学年ごとの比較では3年生が13.4ポイント、5年生が23.9ポイント、6年生が15.6ポイント上昇した。領域別にみるとほぼ区平均と変わらないが、「数と計算」の領域に課題が見られる。学力の二極化がうかがえる。

【意識調査】

意識調査の5項目中「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」の2項目で肯定的な回答の割合が区平均を上回った。「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」「将来の夢や目標をもっている」の項目ではわずかに区の平均を下回った。

学校による学力向上への主な取り組み

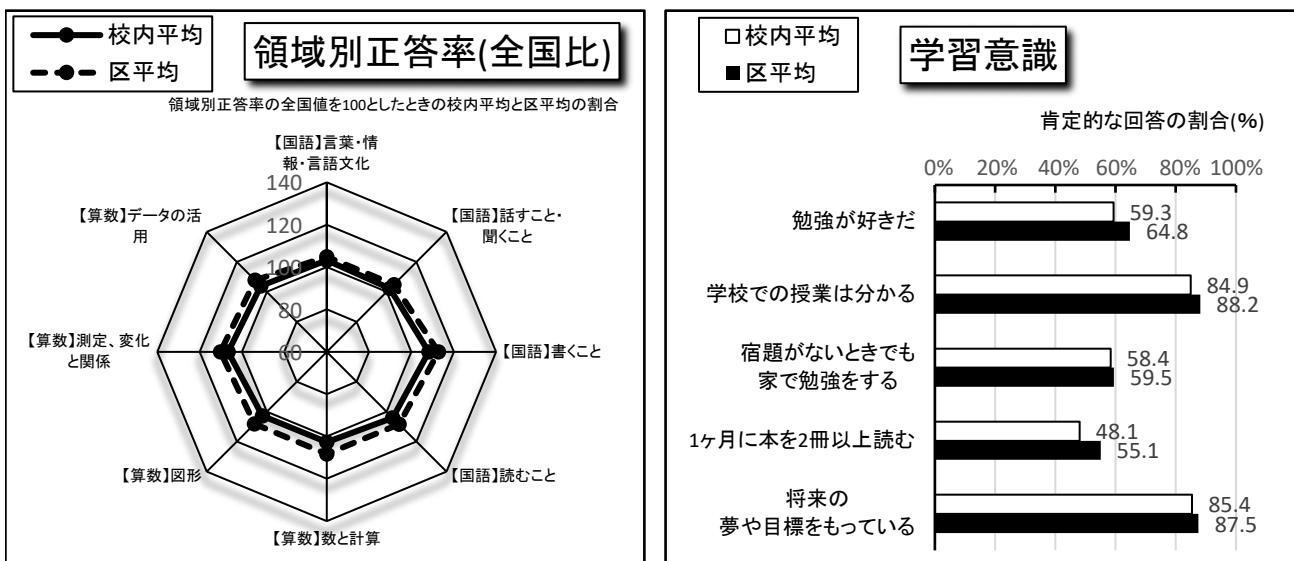
1 日常的な授業・取組の充実

- ①日常授業に重点を置き、校内研究、小中連携授業研究、教科指導専門員による教師の授業改善、足立スタンダードの効果的な活用に取り組む。
- ②東京ベーシックドリル診断テスト、A I ドリルを活用し、定期的な学習の診断を行う。
- ③日常の授業改善（校内研究会や学力向上会議を通して、全教職員で取り組む）。
- ④手元に読みかけの本を携帯させ、年間読書目標達成率を70%以上等の取組を継続する。

2 始業前・放課後の活用、家庭学習の充実

- ①朝のパワーアップタイム、放課後補充教室でのテストやプリントの誤答の確実な直し、特に算数では課題のある学習内容についてA I ドリル等を活用し、基礎学力の定着を図る。
- ②始業前や放課後の補充指導の充実（データに基づきA I ドリルを活用）。
- ③「家庭学習の手引き」を全校配布し、休日の自主学習ノート1日×2ページを行う。
- ④A I ドリルを活用した家庭学習の充実（弱点を分析し、補充を行う）。

弘道第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	83.0	79.2	78.2	89.1	79.1	93.2	92.3	87.2	78.3	63.0	89.4	63.8
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	72.7	66.9	55.1	53.1	76.7	81.4	73.5	75.5	78.0	58.0	79.3	68.4
平均正答率(R7)	77.2	75.6	80.0	87.6	84.6	88.3	80.1	79.2	70.1	67.6	73.9	59.7
平均正答率(R6)	69.0	68.7	73.5	74.1	84.3	87.2	65.4	69.3	64.0	63.6	63.1	57.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

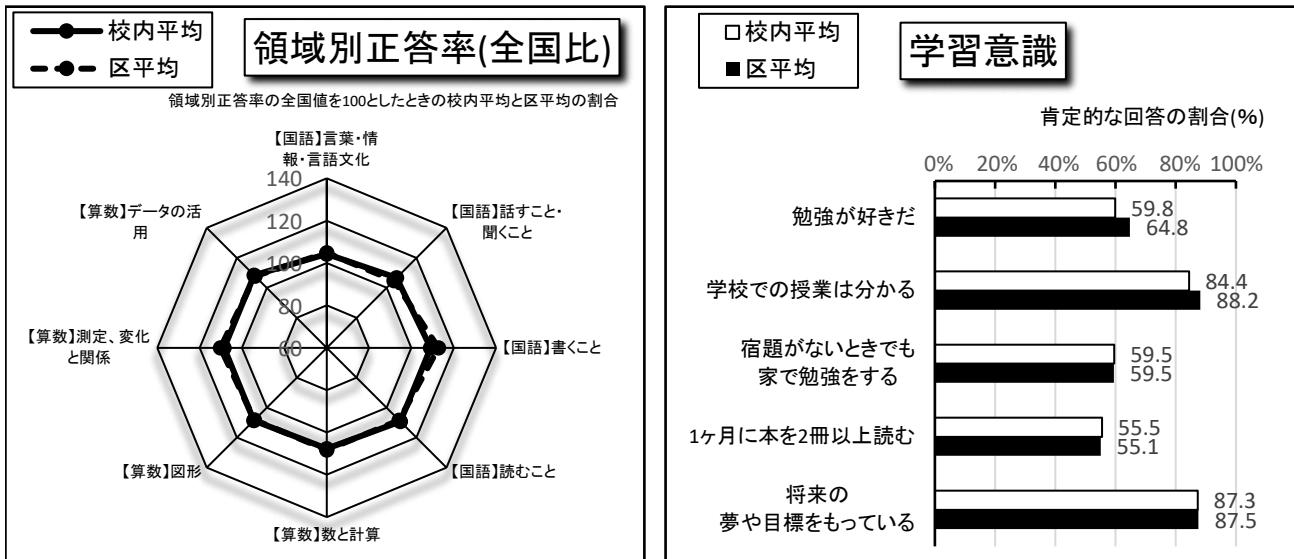
「学習定着度調査」分析結果

- 令和7年度の学力向上アクションプランの目標値である通過率80%に、国語は達することができたが、算数では達することができなかつた。国語の通過率83.0%、算数の通過率79.2%という結果で、目標としていた数値をほぼ達成することができた。
- 通過率が80%を上回っているのは、2年生の算数89.1%、3年生の算数93.2%、4年生の国語92.3%、算数87.2%、6年生の国語89.4%である。下回っている学年や教科については、2年生の国語78.2%、3年生の国語79.1%、5年生の国語78.3%、算数63.0%、6年生の算数63.8%であった。特に5、6年生の算数が目標との差が大きかつた。しかし、平均正答率を見ると、すべての学年で目標値を上回り、学力が二極化している実態が分かる。
- 意識調査においても区平均と比べてすべての項目で下回っていた。「勉強が好きだ」は-5.5、「学校での授業は分かる」は-3.3、「宿題がないときでも家で勉強をする」は-1.1、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は-7.0と下回り、自発的に学習する習慣がない児童が少なくないことが分かる。学力だけでなく学習に対する意識の向上も必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「指導力向上中核校」として国語科の「書く」指導について研究を行っている。文を書くことを肯定的に考え、「相手」「目的」「場」の意識を明確にし、伝えたいことをはっきりさせる指導を行っている。研究6年目の今年度は、モデル文やイメージマップなどの手立てを工夫し、推敲しやすくすることに重点を置いている。書く力の向上を目指し、書くことへの抵抗を減らしていく。
- これまでの「学力ポートフォリオ研修会」で蓄積してきたクラス・学年・個に応じた課題をもとにし、効果的に解決を図る授業づくりや補習の仕方を探っている。
- 「パワーアップタイム」を火・木・金の朝学習で設定している。算数は東京ベーシックドリルを中心に既習事項をプリントで確認し、国語では漢字練習に取り組んでいる。
- 「読書量の向上」をめざし、読書通帳の活用や年2回の読書旬間、1~4年生は毎月の読み聞かせを行っている。読書強化期間に留まらず、目標冊数を達成した児童への表彰を毎月行うことで、児童の読書への意欲を向上させられるようにしている。

江北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	89.0	84.8	85.7	87.6	85.0	91.1	96.4	87.6	95.0	87.0	83.3	70.4
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	81.6	76.3	82.6	89.7	79.5	81.2	82.9	83.8	77.6	58.9	86.6	63.4
平均正答率(R7)	79.3	79.1	84.5	86.9	83.1	89.4	85.3	79.1	74.0	79.9	72.4	63.4
平均正答率(R6)	74.1	74.5	86.0	88.3	83.9	87.3	71.2	75.8	65.0	62.1	64.5	58.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【平均正答率・通過率】

学校全体として、昨年度よりも通過率、平均正答率ともに上回った。また、全国の平均正答率・通過率の結果と見比べると、上回る学年が多くなったが、区と比較すると、同等か下回る学年や教科があった。国語の領域別平均正答率を見ると、ほとんどの学年が区の結果より下回るか同等であり、特に、「書くこと」や「活用」の問題に課題が残る結果であった。しかし、漢字の読み書きは区の結果よりも同等か上回る結果となり、毎月行われた校内漢字コンテストの取り組みの成果だと言える。また、算数では、昨年度の課題であった「図形」領域の平均正答率が区の領域別平均正答率よりも上回る学年が多く、他の領域も上回ることができていた。

【学習意識】

全体的に、区の平均と同等であった。しかし、「勉強が好きだ」、「学校での授業は分かる」は、区の平均より大きく下回った。この結果から、授業改善を行い、楽しい授業展開だけではなく、できる喜びを味わわせることが必要だと感じた。

学校による学力向上への主な取り組み

【漢字・算数コンテストの実施】

漢字・算数コンテストを年間5回実施する。漢字では、当該学年で学習する漢字を確実に習得させる。算数では、単元のテストや学力調査の結果を受けて、課題把握し問題を作成し、基礎力の定着を図る。満点の児童は毎月、全校朝会で表彰する。

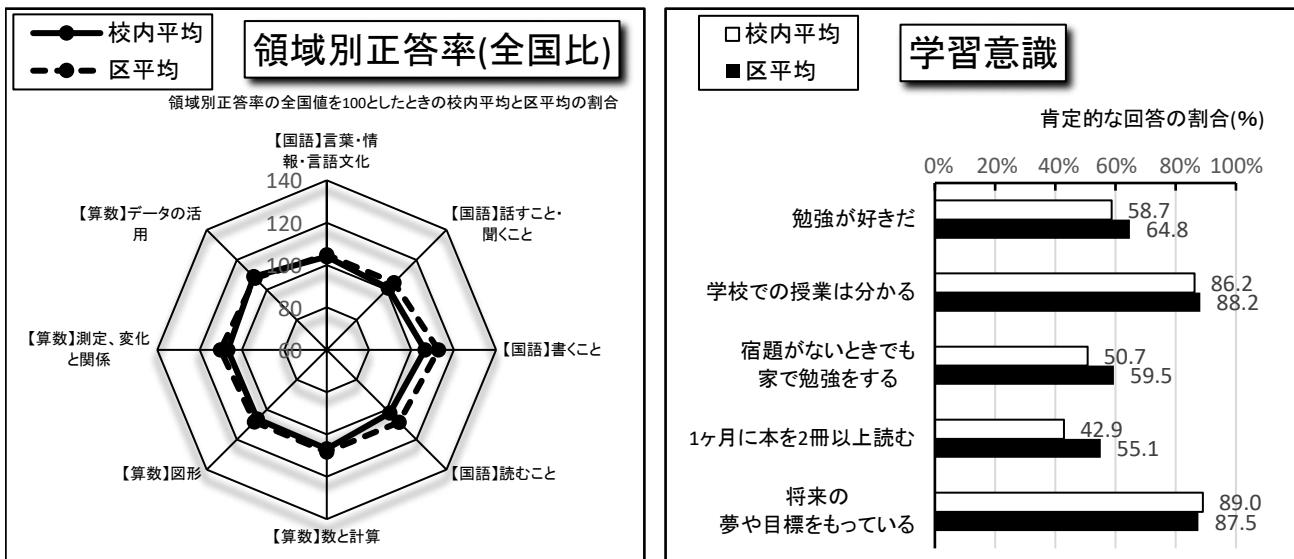
【朝読書の実施】

朝読書の時間を設定し、読書に親しむ環境を整える。さらに、読書記録を行い、1万ページ以上読むこと(低学年は100冊)ができた児童を表彰する。

【自主学習ノートの推進】

自主学習ノートにも取り組み、自分自身が興味関心をもつたことに関する調べ学習や自分の得意なことや苦手な学習の復習、授業やテストの予習復習など、自分で課題を決めて取り組む。担任が一人ひとりのノートを確認し指導や助言を行い、学習の質や児童の意欲の向上を図る。自主学習ノート5冊終わらせることができた児童を表彰する。

古千谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	84.3	83.2	78.3	93.3	85.7	87.9	77.8	81.1	85.9	74.4	95.2	81.0
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.8	84.1	86.5	92.1	76.5	82.7	82.9	86.8	86.9	86.9	72.6	72.3
平均正答率(R7)	76.8	78.3	82.9	88.4	86.8	88.1	74.8	74.5	67.9	74.2	73.3	68.8
平均正答率(R6)	73.9	77.8	89.5	89.1	81.2	88.4	70.8	77.8	67.8	76.5	62.1	60.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体としては、正答率は昨年度を上回り、通過率では国語のみ上回ったが、昨年度とは出題や目標値も異なり、数値も平均であるという観点を留意しなくてはならない。

○学校全体でみると、昨年度より通過率は国語が3.5ポイント上回り、算数が0.9ポイント下回った。正答率でみると国語が2.9ポイント上回り、算数が0.5ポイント上回った。

○国語では3・5・6年生が通過率80%を超えることができた。算数では2・3・4・6年生が通過率80%を超えることができた。

○領域別正答率でみると、国語の書くこと、読むことが区平均を下回っている。算数は、概ね区平均と同等であった。

○「1ヶ月に本を2冊以上読む」に肯定的に回答する児童の割合が、前回よりも1.1ポイント下がった。

○「将来の夢や目標をもっている」に肯定的な回答をした児童の割合が80%を超えていることから、多くの児童が自分自身の将来を考えることができていると考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

学習成果からの考察は、各児童が学びの状況を確認できる機会であり、教員の指導が評価される側面もある。したがって、これを契機として児童は学習への再認識を行い、教員は更なる指導方法の改善に向かうことが重要である。そこで、次のような取り組みを行う。

① 「S P表分析等によるポートフォリオ」

個々の学習状況(学力調査・単元テスト・小テストなど)を記録して個人データを残す。

② 「補充学習の充実」

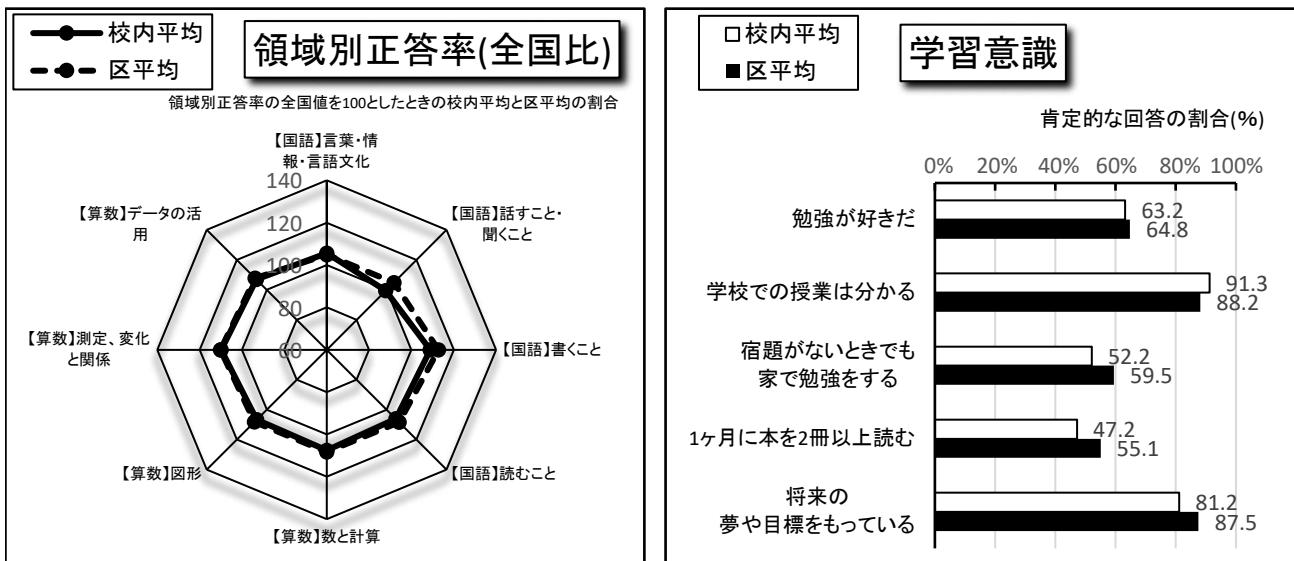
教育課程編成で時間割を改定し、週に3回全校一斉でA Iドリルに取り組む機会を設定。

個人データをもとに状況に即した教材の提示。放課後の「古千谷塾」の実施。

③ 「授業力向上への取り組み」

校内研究やO J Tによる授業力向上への研鑽を継続し、勉強が好き・授業が分かる児童の比率を上げられるように取り組む。

皿沼小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	89.7	87.4	74.1	81.5	100.0	96.0	90.0	83.9	93.0	97.7	89.8	79.6
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	75.5	80.8	93.1	100.0	73.3	83.9	91.1	95.6	64.8	75.9	64.8	61.1
平均正答率(R7)	76.5	77.1	77.2	80.9	91.0	90.2	79.3	77.4	74.0	82.4	71.0	65.4
平均正答率(R6)	67.8	73.3	91.1	95.4	84.8	88.3	74.7	83.0	56.0	70.2	57.7	52.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

<意識調査>

○…成果 ●…課題

- 「勉強が好きだ」の項目は、過去4年右肩上がり、かつ区平均を上回り、その差も年々開く傾向で推移してきた。しかし、今年度7.2ポイント下落し、区の平均も下回った。なぜ下落したのかを早急に調査分析して対策を講じる必要がある。
- 「学校での授業は分かる」の項目は、同じく右肩上がりで推移てきて、今年度も1ポイント以上伸びた。つけたい力を明確にするなど授業改善の取り組みの成果と考えられる。

<国語>

- 通過率においては、前年度比+14.2ポイントと大きく向上した。「話すこと・聞くこと」以外の全領域で、全国比を上回っている。前述した、つけたい力を明確にした授業、つけた力を次の単元で活用する意識が育った成果と言える。

<算数>

- 通過率は、前年度比6.6ポイント向上した。どの領域もバランスよく全国平均を超えており、昨年まで苦手としていた四則演算も克服している。「九九検定」「繰り下がり検定」などで、底上げを図った成果が表れた。

学校による学力向上への主な取り組み

<国語>

- 昨年全学年分作成した「系統的共通指導事項」を基に、各単元でつけたい力を明確にした授業を実践してきた。今年は、そのつながりを矢印でつなぎ可視化したものにバージョンアップして授業準備に活用している。

- 「書く力」育成のため、日記などの取り組みを開始した。

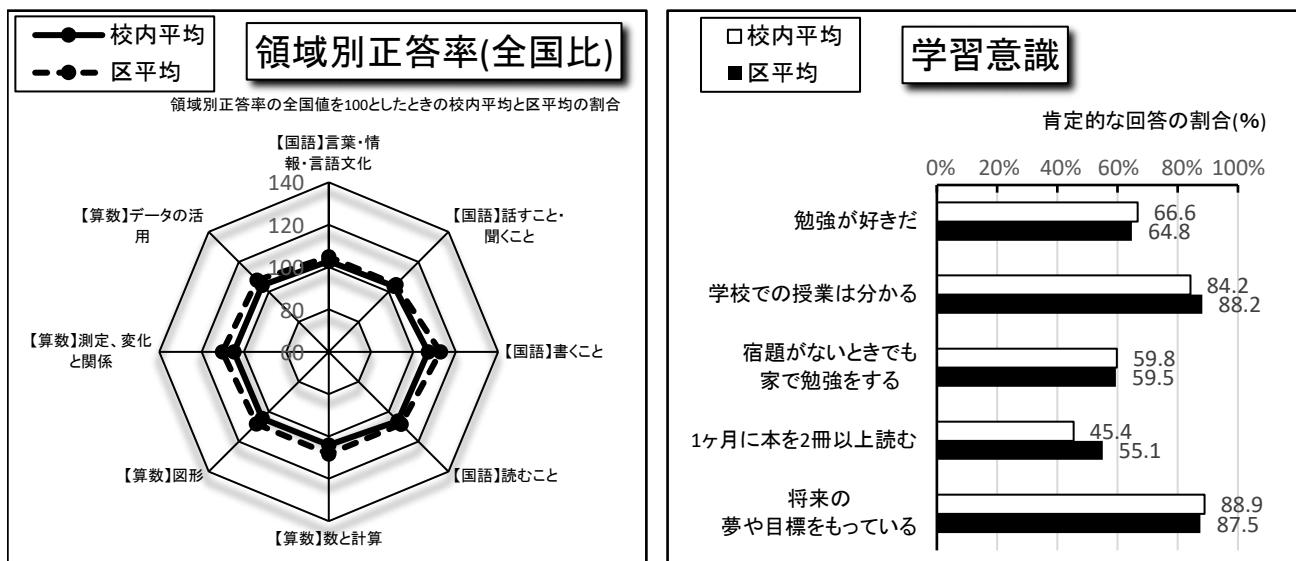
- 「漢字」の習得・定着のため、全校で漢字プリントを作成し、取り組みを始めた。

<算数>

- 「繰り上がり検定」「繰り下がり検定」で、どちらか、または両方に合格していない児童が全校で47名いることが第1回の検定で判明した。個人面談中の補習などで定着を図る。

- 各単元における「共通指導事項」が徹底され、成果が挙がっているので継続する。

鹿浜五色桜小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.7	81.1	94.0	96.0	83.7	87.8	88.5	82.0	75.8	71.0	87.2	74.7
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	73.3	77.1	77.8	88.9	68.3	78.7	69.4	79.0	81.3	72.5	69.3	72.0
平均正答率(R7)	76.2	74.1	87.5	92.1	84.8	85.5	79.4	73.4	64.4	71.4	73.6	61.9
平均正答率(R6)	67.7	72.1	84.1	88.9	78.4	86.1	65.4	75.4	64.2	68.9	58.4	55.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】通過率は昨年度比で、+12.4ポイントと大きく上昇した。特に、「読むこと」に関しての向上が見られる。昨年度のモジュール時間や放課後教室での文章読解に関する取り組み、校内研究での指導方法の検討による授業改善の成果と見られる。

【算数】通過率は、昨年度比で4.0ポイント上昇した。しかし、学年ごとに苦手な領域が見られる。低学年はどの領域も区平均と比べてプラスではあったが、特に基礎的な計算の力を高め、中・高学年へつなげたい。中学年では、图形と測定、高学年では測定とデータの活用についての課題が見られるため、今後も継続して重点的に対策を施していく必要がある。

【学習意識】「勉強が好きだ」と答えた児童は昨年度同様区平均を超えた。さらに、「宿題がない時でも家で勉強をする」と答えた児童は区平均を超えて、昨年度よりポイントが上昇した。児童の学習への意欲の高まりを感じる。一方で、「学校での授業は分かる」と答えた児童は区平均を下回った。授業の改善を図ると共に、一斉指導では分からなかった児童に向けて、少人数での丁寧な補習授業や個別の指導の充実を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

○モジュール(朝学習)での取り組み

漢字や、意味調べなどの言語に関する学習や、文章の読み解きプリントなどの「読み」に関する指導に取り組み、基礎的な国語力の補強を図る。

○放課後補習教室(さくら教室)の実施

学力調査やワークテストの結果からC・D層の児童を対象に少人数指導を行い、基礎・基本の徹底や弱点の克服を図る。

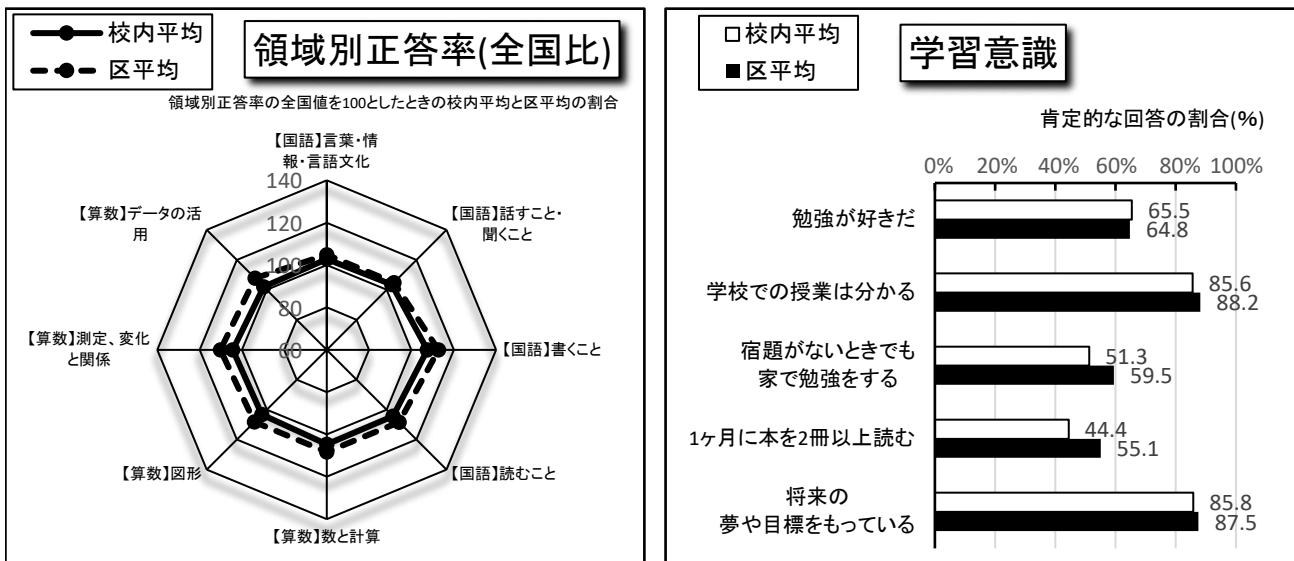
○国語科の校内研究の実施

昨年度に続き、今年度も文章読解の指導方法について校内研究を行い、授業改善を図る。

○読書活動の推進と語彙力の向上

年2回の読書時間の実施や、図書ボランティアや図書支援員による読み聞かせを行う。図書館を利用した調べ学習なども行い、本に触れる機会を増やし、語彙力の向上を図る。

鹿浜第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	84.3	82.6	80.9	89.9	83.3	89.4	82.4	85.9	89.6	79.2	85.1	67.6
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.7	80.7	83.5	84.7	85.7	89.4	80.5	84.4	75.0	71.1	77.6	72.4
平均正答率(R7)	77.2	76.1	82.7	87.8	85.7	86.8	77.7	74.5	71.0	75.4	71.1	59.9
平均正答率(R6)	74.0	75.6	87.9	87.0	86.3	89.7	70.5	76.2	63.9	66.6	63.5	60.7

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

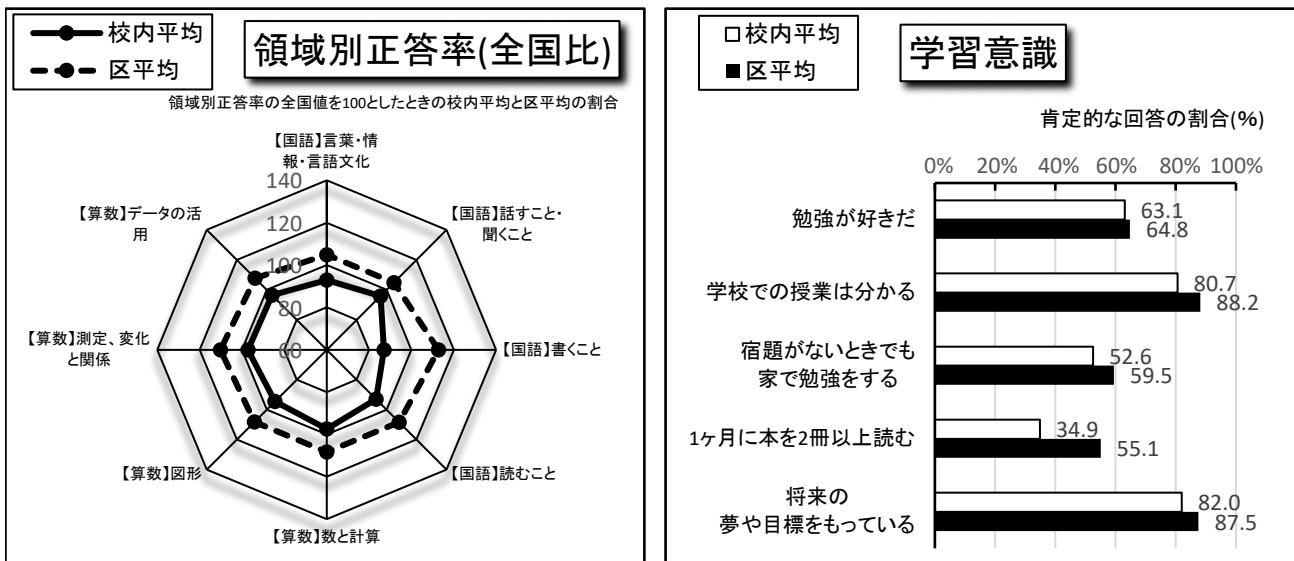
「学習定着度調査」分析結果

- 学習意識調査の結果より：区平均を上回っているのは、「勉強が好きだ」の項目であり、本校の65.5%の児童が日々の授業を通して、学ぶ楽しさを実感できていることが分かった。ICTを活用した授業実践は今後とも行っていく。しかし、区の平均に比べ「宿題がない時でも家で勉強をする」は-8.2ポイント、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は-10.7ポイントと大きく下回っており、与えられた課題にだけ取り組むのではなく、主体的に学習に取り組もうとする姿勢を育てていく必要がある。また、図書館支援員と連携し、読書活動の充実を図り、本を読むことの楽しさに気付かせていくことも重要である。
- 平均正答率、通過率の結果より：昨年度に比べ平均正答率、通過率とともに上回っている。4・5年生は国語、算数の両方で昨年度の通過率を上回っており、特に5年生においては、国語+14.6ポイント、算数+8.1ポイントと大きく上回った。2・3年生の国語においては、昨年度よりも平均正答率が下回っており、授業の中で語彙を増やす活動を意図的に取り入れるとともに、音読や読書活動を通じて読解力の向上を図っていく必要がある。6年生に関しては、算数の通過率は昨年度に比べ大きく下回っているが、平均正答率の変化はわずかである。中学校進学を見据え、学習のつまずきを分析しながら計画的に復習を行っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習「パワーアップタイム」：朝の時間を活用して基礎学力の定着を目的に、漢字・計算・読書を行う。年間を通して月毎の学習内容を定め、計画的に学習をすすめる。
- 放課後学習「プレイバックタイム」：学習の定着を図るため、月・火・木・金曜日の放課後に行う。教室では担任と既習の復習を行い、別室では副担任の見守りのもと自主学習を行う。
- 足立スタンダードを踏まえた授業の実施：「めあて」を明確にし、一人ひとりがしっかりとと考え、児童同士で学び合う課題解決型の授業を実施する。小中連携を通して、連携校同士で授業についての共通理解を図り、どの学校も同じ流れで授業を行っていくことで、中学校進学時に起こりえる問題である、「中一ギャップ」に備える。
- ユニバーサルデザインの取り組み：児童がどの教室でも落ち着いて学習を行えるよう、「めあて」「振り返り」などの掲示物を統一し、全教室（特別教室を含む）で使用する。

鹿浜未来小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	69.4	71.5	71.0	76.8	71.9	89.1	70.8	66.7	64.5	58.1	68.8	62.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	58.9	62.8	63.5	67.2	61.2	73.5	44.6	60.0	56.0	52.0	70.0	61.7
平均正答率(R7)	69.5	71.5	79.0	82.5	81.2	86.9	68.3	65.2	56.1	64.7	63.7	55.9
平均正答率(R6)	63.2	64.5	77.4	79.1	74.5	81.1	53.8	60.6	53.7	56.1	59.6	51.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率（全国比）】

すべての領域で区平均を大きく下回っている。特に国語では「書くこと」、算数では「数と計算」「图形」に課題がある。

【学習意識】

すべての項目で区平均を下回っているが、昨年度と比較して「勉強が好きだ」の項目は2.4ポイント、「学校での授業は分かる」の項目は4.2ポイント、「宿題がないときでも家で勉強をする」の項目は、6.3ポイント上回っている。

【通過率】

昨年度と比較して、国語は10.5ポイント、算数は8.7ポイント上回っている。

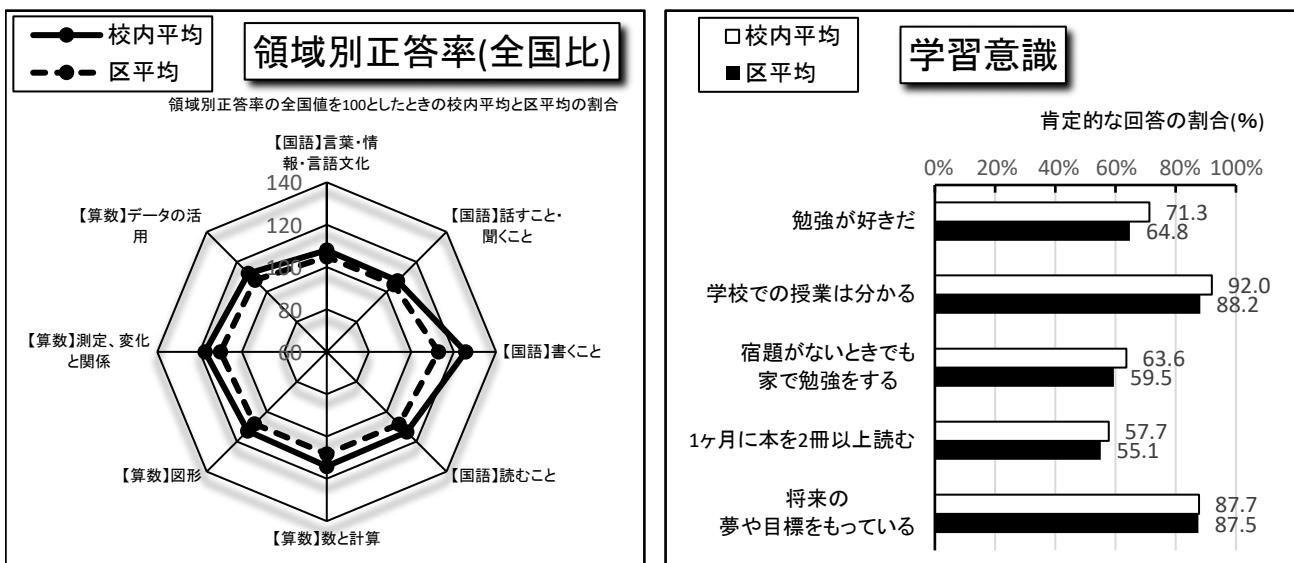
【上記から課題となる点】

国語では、自身の表したい思いや内容を文で表現したり、完成した文を推敲したりすることに課題がある。算数では、四則演算を活用した問題解決、図形の面積・体積の求め方の理解が十分と言えない。

学校による学力向上への主な取り組み

- 学習意識のすべての項目が、区の平均を下回っていることから、まずは児童が意欲的に学習に取り組めるような導入や学習教材の工夫、実態に応じた指導内容・方法を工夫していく。
- 朝の「モジュールタイム」で、新出漢字の学習に取り組み、習得した漢字を活用した熟語を調べることで、児童の語彙力を増やせるようにしていく。
- 校内研究では、児童の課題である「書くこと」について、I C Tや協働学習（エキスパート法）を活用することで、苦手な児童にも文章の書き方を身につけさせていく。
- 算数の授業では、足立スタンダード虎の巻に則った授業展開を行い、児童自身で最適の方法を模索し、問題を解決できる授業を展開していく。
- 放課後の「未来タイム」では、区調査のS P表分析を基に、抽出児童の個別の課題に対して、効果的な復習を行い、課題を確実に解決していく。
- 授業とは別に、A I ドリルで毎月取り組まなければいけない問題数を学年に応じて設定し、学校内外での児童の学習時間を確保していく。（A I ドリルの有効活用）

島根小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.2	93.0	95.5	98.5	93.1	98.6	87.2	88.4	89.0	89.0	92.4	92.4
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	86.9	84.2	86.7	94.6	90.1	87.7	87.6	91.0	84.3	75.9	85.9	73.9
平均正答率(R7)	82.0	83.5	89.2	92.5	88.5	92.3	81.1	78.0	73.5	81.2	81.6	78.9
平均正答率(R6)	76.7	78.1	89.0	91.0	88.2	89.9	75.7	81.9	69.9	71.7	67.4	63.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

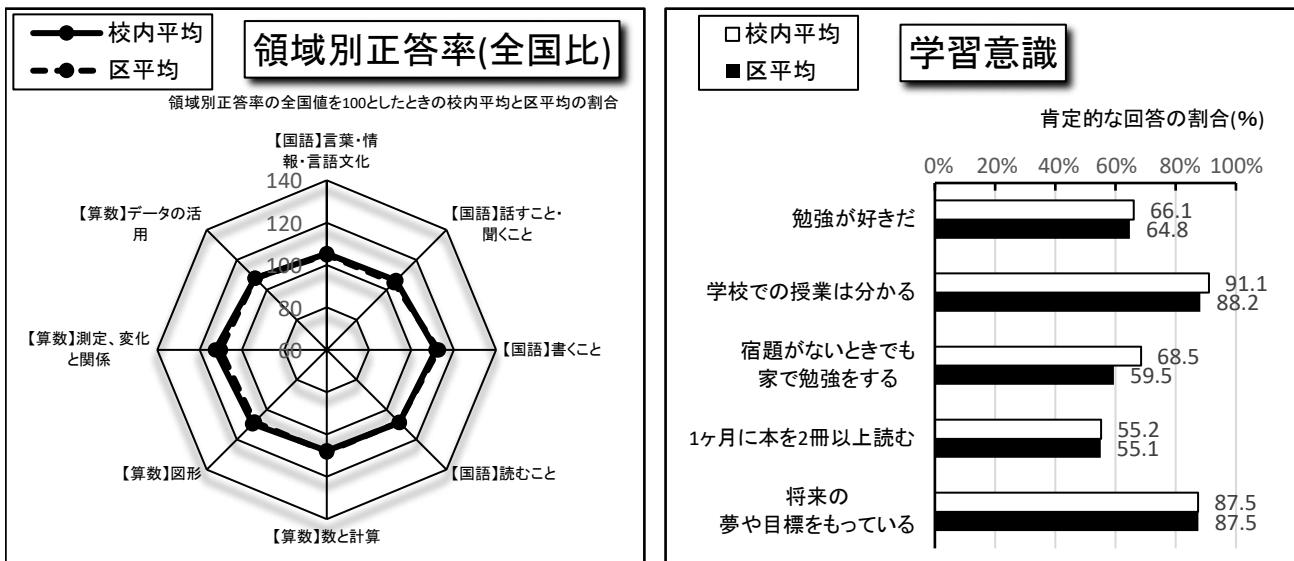
「学習定着度調査」分析結果

- 各学年において、平均正答率が国語・算数ともに目標値を15ポイント以上、上回った。授業改善、朝学習、放課後補習、そだち指導などの取り組みの成果が表れている。
- 通過率は国語が全ての学年で85%以上となっており、基礎的な学習内容を多くの児童が身につけたと考えられる。ただし、国語の言葉・情報・言語文化問題の誤答や未記入が多い傾向にあり、漢字の筆順や正しい書き取り、文章を的確に読み取るための言葉の理解、語彙力の向上が課題として表れたので、今後も繰り返し指導していく。
- 算数は、「活用」に課題がある。文章問題を的確に捉えられるよう、半具体物や数直線図に表すこと、言葉に線を引くなど解決の糸口を見つけてから答えを出すことを指導していく。また、発展的な問題にも取り組ませて活用する力を身につけられるようにする。
- 学習の意識調査では「将来の夢や目標をもっている」は、区平均より0.2ポイント、昨年度の校内より2ポイント上回っている。達成感を味わわせ、頑張っていることに意味付けしてきたことで、昨年度より上げることができたので、引き続きこれからも行っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全学年の対象児童へ、毎週火・木曜日に30分間しまねっ子タイム（放課後補充教室）を行う。学習のつまずきを解消するために、対象児童に合わせた課題を準備し、国語と算数の復習を基本に学力定着を図る。
- 朝学習において、国語は漢字学習、言語事項に関するプリント学習、算数はA I ドリルや東京ベーシックドリルを活用し、学力向上を図る。
- 読書活動の推進として、各学年の目標数値の設定、年2回の読書旬間、おすすめの本カード作成を行う。本に親しみ、幅広いジャンルの本を手にとり、本を好きになる児童を育てる。
- 児童の主体性を育てるために、児童がやってみたいと思う課題や導入を工夫し、「できた」「わかった」を実感できる授業を実践する。特に算数は、習熟度別指導で児童の実態に合った授業を開催し、児童の基礎基本の定着を図る。また、児童が得た知識を知恵に高め、自分の力として活用できるよう、I C Tを活用して、考えを比較・検討する場面を多く設けるよう校内の研究を推進する。

新田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.9	87.6	85.5	89.3	89.1	88.4	85.9	89.7	90.3	92.8	88.1	78.7
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	86.8	84.3	86.6	95.1	81.6	87.3	94.2	88.3	86.5	75.4	84.5	77.6
平均正答率(R7)	79.1	79.6	85.1	87.0	86.2	86.8	77.2	75.9	74.8	83.8	75.8	69.3
平均正答率(R6)	75.9	77.8	89.7	91.3	84.1	89.0	77.2	80.7	68.6	71.2	67.4	64.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

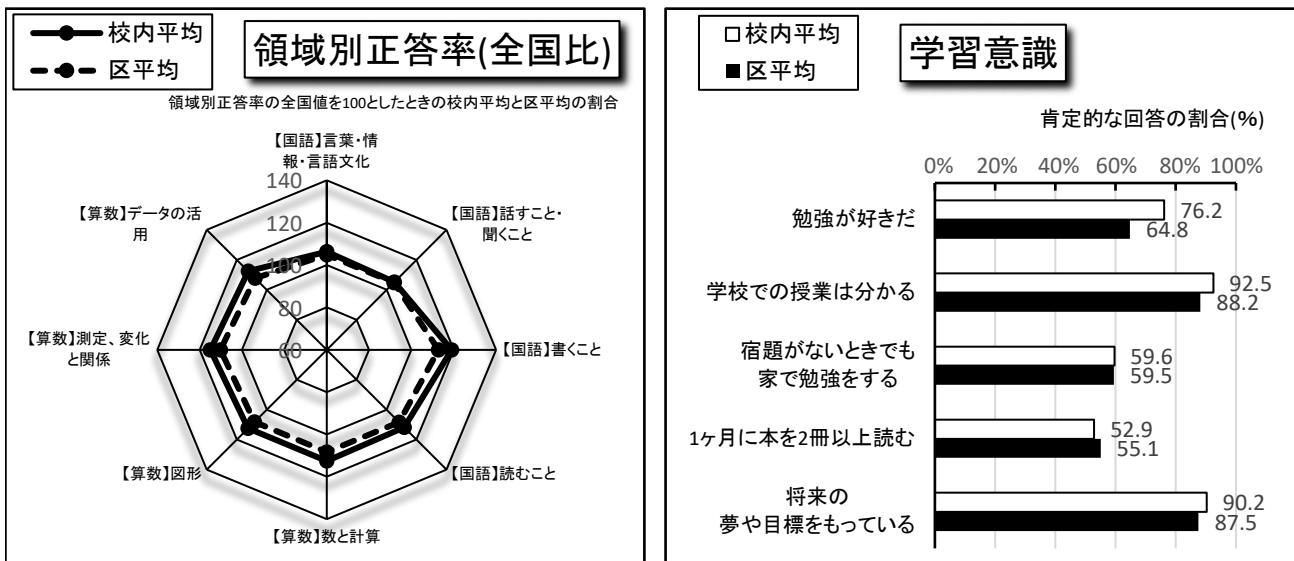
「学習定着度調査」分析結果

- 国語…全領域、おおむね区平均を上回っている。
- 国語は、領域別に見ると「書くこと」「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。話の内容の中で大切な言葉をメモする力を育成していく。どの学年も「文章読解」「記述式」の正答率が低い。実態や発達段階に応じた、書くことに慣れ親しむ活動を積み重ねていく。
- 算数…全領域、おおむね区平均を上回っている。
- 算数は、文章問題の題意を的確に捉えられるよう、数字に印を付けたり、キーとなる言葉に線を引いたりするスキルを定着させ、活用力を高める必要がある。
- 学習意識調査では全項目、区平均を上回っている。
「勉強が好きな児童」「宿題がなくても家で勉強をする児童」は約7割である。
- ・児童生徒が主体となる学び、新しい学び方へシフトを行う(I C T利活用、多様な学び方)。
- ・学校図書館活用計画を見直し、読書量の確保、読み聞かせなどの充実を図る。
- ・発達段階や実態に合わせた学習の展開、児童自身が選択できる自主学習の推進をする。

学校による学力向上への主な取り組み

- A I ドリルを活用する(授業内で活用し、家庭学習でもA I ドリルを活用する)。
- I C Tを活用した協働的な学習や学習記録を行い、利活用の日常化を図る。
- 読書時間を確保する(年3回の読書旬間の設定、図書館を利用した調べ学習の推進など)。
- 日頃の学習において、特に支援が必要な児童へは内容や量を調節して課題解決に臨む。
- 高学年において、教科コンテストを月に1回行い、単元ごとの知識や技能の定着を図る。
- 朝学習、補充教室においては、授業でつまずいている学習内容について遡って取り組む。
- サマースクールでは、対象者を絞り、補習を計画的に行い基礎学力の底上げ定着を図る。
- 生徒が児童の学習を支援する、小学部の教員が中学部の生徒を指導するなど、小中一貫教育校としての特色を活かしていく。
- そだち指導(3・4年生)を通して、児童の学びの速度に合わせた指導を積み上げる。
- 家庭学習の習慣化を図る。1年生から6年生までの系統的な内容を考慮し、各学年家庭学習の課題や実施方法を工夫し、取り組みの一層の徹底を図る。

関原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.1	92.6	90.3	97.2	85.5	90.3	95.1	95.1	89.3	93.3	95.0	85.2
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	87.1	87.7	82.8	96.9	88.0	90.4	87.1	92.9	85.5	74.2	92.1	82.5
平均正答率(R7)	80.2	82.9	85.8	91.4	85.5	88.3	84.0	81.0	70.9	82.9	78.3	72.8
平均正答率(R6)	77.6	80.1	87.3	92.3	88.2	91.5	75.9	79.8	68.1	74.3	69.4	63.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○前年度の結果と比較すると、全校の通過率は国語(87.1→91.1)、算数(87.7→92.6)と、2教科ともにポイントが向上した。特に高学年の通過率の伸びが著しい。「足立スタンダード虎の巻」に基づく授業改善、全校一斉の漢字テストや九九検定などの取り組みの成果が表れている。

○全校の平均正答率は、2教科ともにポイントが向上した。通過率同様、特に高学年の正答率が大きく上がっている。低学年からの基礎・基本の積み重ねによる定着が図られていることが分かる。

○領域別に見ると、国語では「読むこと」「書くこと」、算数では全ての領域で区平均を上回っている。国語の「話すこと・聞くこと」の領域には課題があり、話の内容の中で要となる言葉を判断し、メモをとる力を育成する必要がある。

○学習意識の回答では、「勉強が好きだ」「学校での授業が分かる」の項目で肯定的な回答をする割合が区平均を上回っていて、授業改善と共に実践の成果が表れている。

学校による学力向上への主な取り組み

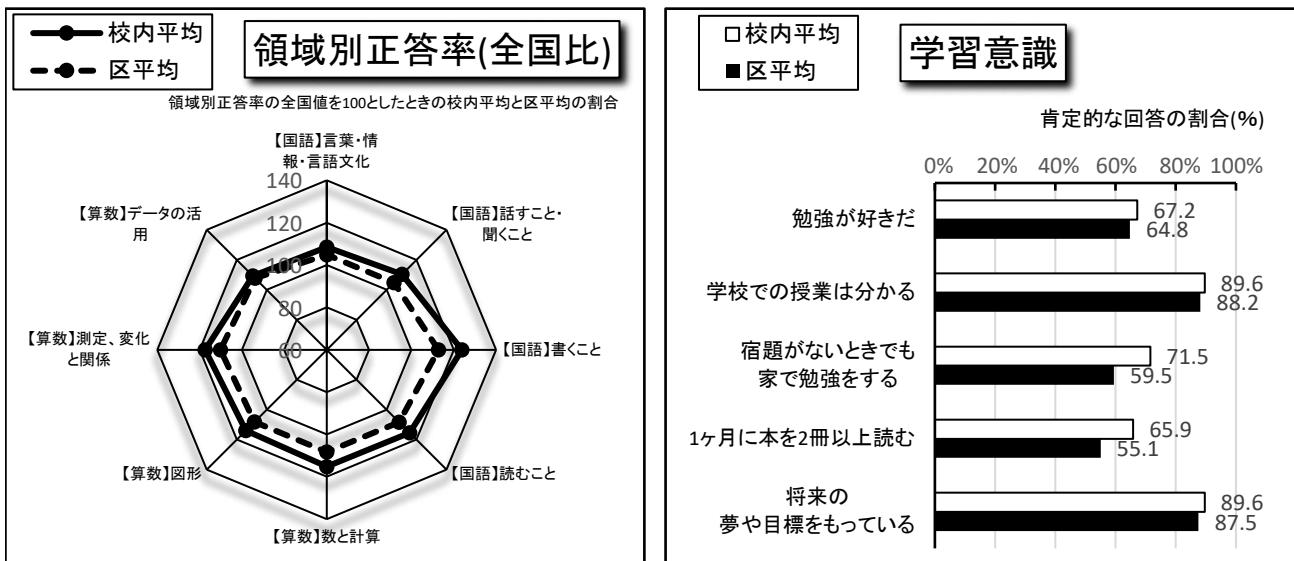
○指導力向上

- ・本校から大仙市へ派遣された教員による研修を年間を通して行い、「足立スタンダード虎の巻」に基づく授業改善と共に実践を全教員が徹底する。
- ・「1日に1時間以上、授業でICTを効果的に活用すること」に全教員が取り組む。

○基礎的・基本的な学力の定着

- ・朝のパワーアップタイム(漢字練習、文章読解、MIM、計算練習)を実施する。週に1回「AIドリル活用の日」を設定し、個のつまずきの軽減を図る。低学年では、MIMの練習プリントに繰り返し取り組み、特殊音節の取得や読みの流暢さを育む。
- ・月に1回全校一斉の漢字テストや、半年に1回「日常生活できちんと既習漢字が使えるか」を確かめるテストを行うことで、漢字の定着を図る。
- ・2~6年生対象の九九検定、5、6年生対象の区、都道府県名検定を実施し、学習意欲の向上や基礎学力の定着を図る。

千寿小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	92.7	91.8	92.7	97.6	96.0	95.2	95.1	96.5	86.7	85.5	94.1	86.8
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	86.0	86.8	85.3	93.8	88.3	89.0	83.7	88.6	81.8	77.0	91.4	86.3
平均正答率(R7)	82.2	83.4	89.4	92.7	89.5	91.8	88.0	83.9	72.6	77.7	78.8	77.2
平均正答率(R6)	77.4	79.9	88.0	91.7	88.7	90.3	73.6	77.0	68.8	74.0	72.5	71.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○領域別正答率は全て区平均を上回っている。学力向上のために実施している取り組みの成果と課題を分析し、今後も改善をめざす。

【国語】書くことは4年続けて区平均を上回っている。毎月1回、全校で取り組んでいる書く力を育てるパワーアップタイムによる成果であると考える。

【算数】データの活用の領域は昨年に引き続き学力の伸びが見られない。足立区教育委員会学力向上中核校として、研究している算数科の実践を日々の授業に生かす。

○正答率が昨年度より全学年上昇している。通過率も全学年上昇しているが、6年生は国語+2.7、算数+0.5と伸び悩んでいる。放課後学習教室や算数少人数授業、サマースクールなどの場面を活用し、学力の基礎・基本の定着を図る。

○学習意識「学校での授業は分かる」は、区平均88.2%を1.4ポイント上回った。週1回の朝の読書タイム、週3回以上の本の触れ合い時間を設けることで「1ヶ月に本を2冊以上読む」は、区平均55.1%を10.8ポイント上回った。

学校による学力向上への主な取り組み

○A I ドリルやドリル教材を計画的に活用し、反復練習に取り組ませる。児童の取り組み状況を分析することで、初期の段階におけるつまずきの解消を図る。タブレット端末を使用し、一人ひとりが設定した課題を調べ、まとめ、発表する学習を計画的に取り組ませる。

○テーマを決めた書く力を育てる活動を全学年で毎月1回実施し、視点を明確にした上で書く力の育成を図る。

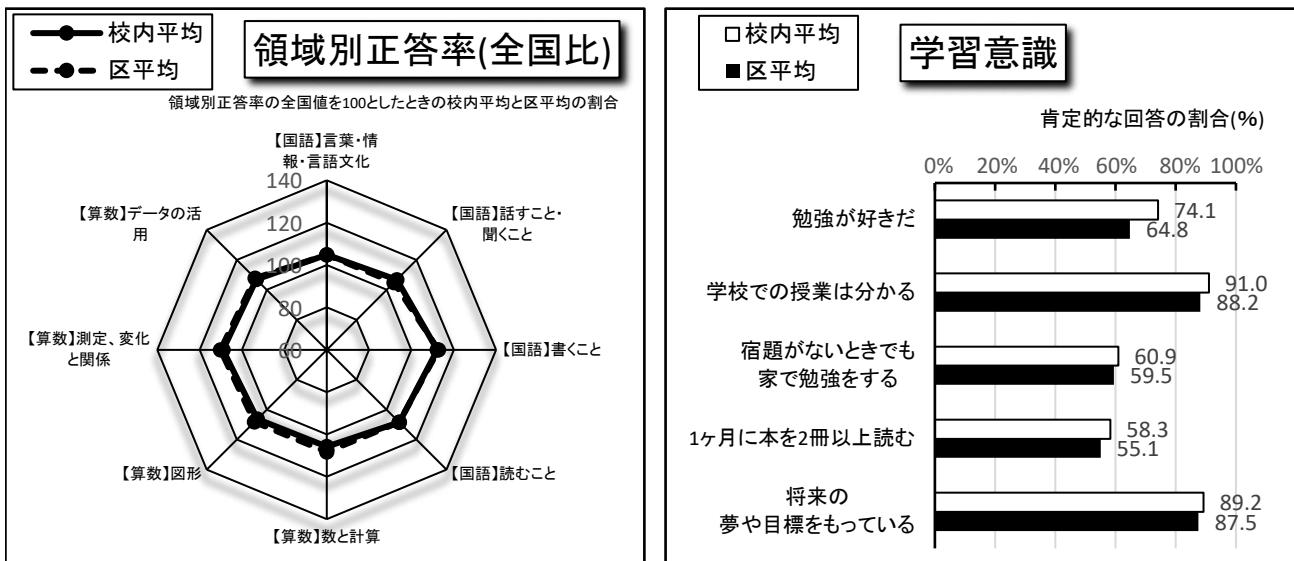
○1年生を対象に、多層指導モデルM I Mを毎月1回、音読力チェックを年に2回実施し、児童が流暢に読めるよう指導に生かす。

○家庭学習の充実を図る。2年生以上の児童に週1回以上、自主学習の課題を出し、実生活の中から問い合わせを見いだし、情報を集め、整理し、表現できる力を育成する。

○今年度は週3回以上本に触れさせる機会をつくった。学年に応じて冊数やページ数を具体的に示した読書の目標を設定し、読書週間の確立を図る。

○年間4回、前学年の学習の確認テストを行い領域ごとの基礎・基本の定着を図る。

千寿桜小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	86.9	85.5	86.5	91.0	84.7	94.1	87.7	80.0	84.9	86.0	91.1	74.7
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.1	83.1	84.1	87.8	67.9	82.1	90.3	83.9	84.4	81.8	87.1	80.0
平均正答率(R7)	79.4	78.7	85.6	86.0	85.3	88.7	79.1	72.8	71.8	78.5	77.8	68.7
平均正答率(R6)	75.2	77.4	86.1	86.8	79.9	86.9	73.6	77.0	71.4	76.7	68.5	63.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

1 平均正答率・通過率からの分析

- ①令和7年度も昨年度同様に全学年で、国語・算数の平均正答率が目標値を上回った。学力向上策の継続した取り組みの成果である。
- ②経年変化で通過率をみると、算数は3年生が昨年度（2年生）から6.3ポイント、国語は4年生が昨年度（3年生）から19.8ポイント、6年生が昨年度（5年生）から6.7ポイントと大きく上がっている。授業などで改善を図ってきた成果を見る。
- ③通過率80%未満となった6年生の算数は、「平均」「表」「小数の計算」の単元で区の平均正答率を下回っている。今後の指導の重点とし、改善を図っていく。

2 学習意識調査からの分析

- ①肯定的な回答の割合が、どの項目も区平均を上回っている。継続して意識を高めていく。
- ②昨年度と比較すると「1ヶ月に本を2冊以上読む」が4ポイント、「宿題がないときでも家で勉強をする」は10ポイント下がっている。主体性を育む取り組みを再度工夫する。

学校による学力向上への主な取り組み

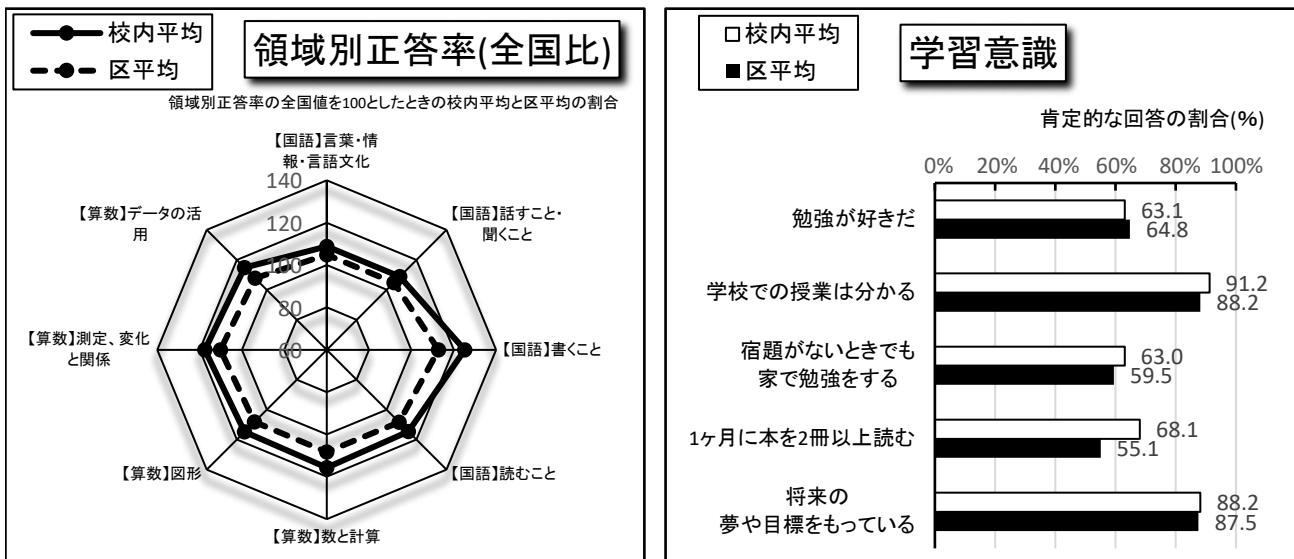
1 基礎学力定着のための学力向上策

- ①算数少人数習熟度別指導（1、2年生）
- ②朝のモジュール学習（言語指導）（火・水・木・金 8:25～8:40）
- ③「桜☆学習コンテスト」計算・漢字・ローマ字・都道府県等（長期休業明け年3回実施）
- ④A I ドリルなどのタブレット端末の活用
- ⑤放課後補習教室（会議のない日の放課後）
- ⑥サマースクールでの個別指導（長期休業中10日間程度）

2 読解力・思考力・判断力・表現力等の育成のための取り組み

- ①読みのつまずきを解消するための取り組み
- ②単作文（100文字程度）の実施（教科領域を問わざあらゆる場面で）
- ③自主学習の取り組み（2年生以上：宿題とは別に自ら考えた課題で家庭学習を行う）
- ④年3回の「読書月間」と「図書館を使った調べる学習コンクール」の全員参加

千寿常東小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.1	91.9	92.6	94.1	92.5	93.8	89.7	92.3	86.8	86.8	93.3	92.1
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	87.8	89.4	89.0	92.7	86.7	90.7	86.4	83.8	89.4	89.4	87.2	89.5
平均正答率(R7)	83.3	84.6	87.5	91.7	89.9	92.5	82.3	80.1	76.2	81.6	81.7	80.4
平均正答率(R6)	78.6	81.1	89.3	90.5	86.5	89.3	76.7	78.4	74.4	82.0	70.3	69.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語科】昨年度比で通過率は3.3ポイント上昇し、90%を超えることができた。特に「書くこと」については区平均を大きく上回っている。一方で「話すこと・聞くこと」「言葉・情報・言語文化」に関しては平均並みであるため、聞く姿勢の徹底とメモを取る機会の設定、図書館の活用促進などに取り組む。

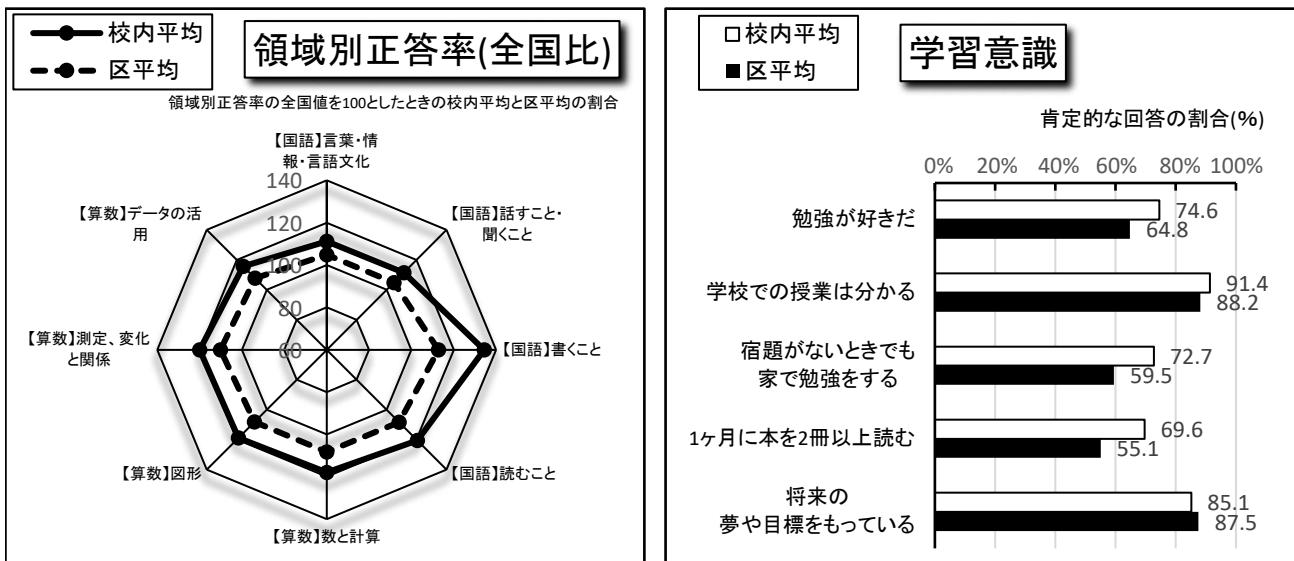
【算数科】昨年度比で通過率は2.5ポイント上昇し、90%を超えることができた。全体としては上がっている学年が多い反面、5年生がやや低く、C、D層への働きかけが課題である。

【意識調査】「勉強が好きだ」の項目に関して、区平均を1.7ポイント下回った。学ぶ楽しさを感じられる授業改善と主体的に学ぶ意欲を高めるための工夫が課題である。他は区平均を上回っているが、高学年にも月2冊以上の読書を促していく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・授業力向上：足立スタンダード虎の巻を軸に、問題解決的な授業実践でICTを活用しながら「分かる授業」を行う。
- ・言語力育成：「話す・聞く、読む、書く」力の向上を目指して、短作文や俳句に取り組む。
- ・九九検定：管理職が、2年生から5年生を対象に、100秒以内に正確に九九が言えているかを検定する。
- ・朝学習、パワーアップタイム：国語は読み解プリント、短作文や漢字、MIM、読書を行う。算数は東京ベーシックドリルやAIドリルを活用して、個に応じた学習を行う。
- ・放課後学習教室：学年・専科教員によるワークテストの実施や間違えた問題の見直し、終了していない課題などの補習を行う。
- ・夏季パワーアップ教室：AIドリルや学習プリントなどを活用し、学習内容が未定着な児童への補習、個別指導を行う。

千寿第八小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	96.1	96.6	98.6	100.0	95.7	98.6	92.4	92.4	96.4	97.6	97.5	95.1
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	93.3	91.1	95.8	98.6	89.9	92.4	95.2	91.8	92.6	86.6	93.3	86.7
平均正答率(R7)	85.7	86.5	90.4	93.6	90.5	93.7	87.0	83.4	81.1	85.5	83.1	80.4
平均正答率(R6)	80.9	82.6	93.1	94.1	88.8	92.3	77.8	82.1	72.9	76.2	76.1	72.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の通過率は96.1%で、昨年度の93.3%と比べ2.8ポイント上昇した。平均正答率は学校全体で4.8ポイント上昇し、全ての項目において区平均を大きく超えている。ただ4年生の通過率は、昨年度より2.8ポイント低下しており改善が必要であるが、日常的に読解問題や短作文などに取り組んだ成果が着実に表れている。

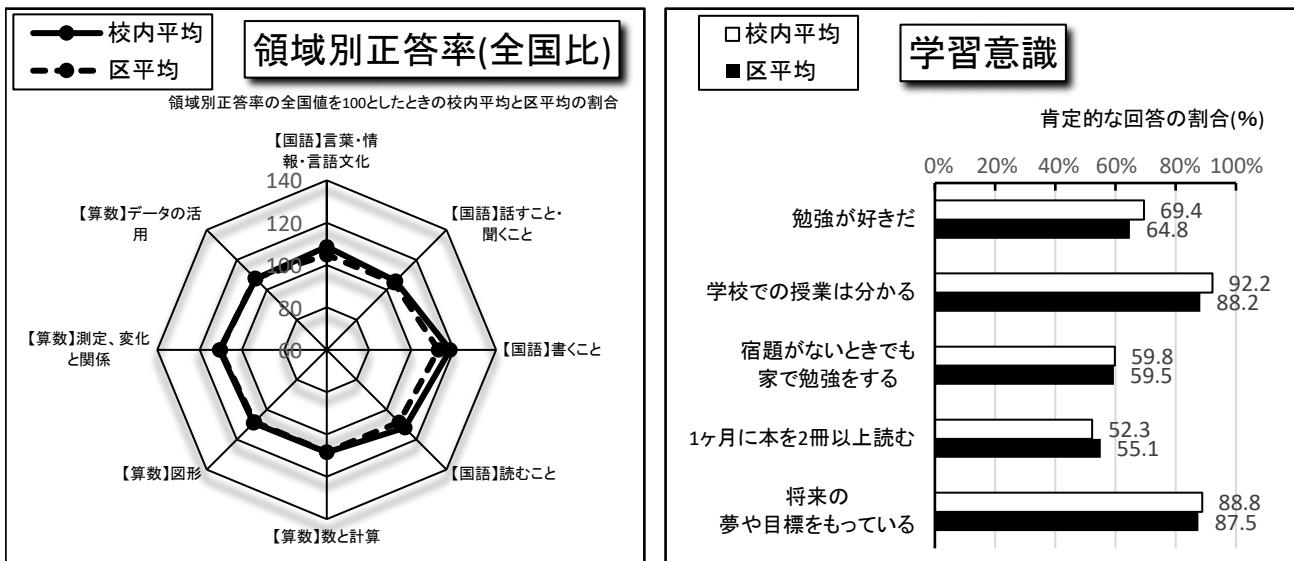
【算数】学校全体の通過率は96.6%で、昨年度の91.1%と比べ5.5ポイント上昇した。2年生の通過率は昨年度より1.4ポイント上昇し100%を達成した。平均正答率も学校全体で3.9ポイント上昇し、86.5%となった。昨年度から引き続き「問題解決的な学習の充実」をめざし授業改善を進めたことにより、児童に数学的な考え方がある程度身につき、課題解決力などを高めることにつながったのではないかと考える。

【学習意識】概ねほぼすべての項目において区平均を超えており、「将来の夢や目標をもっている」については、区平均を2.4ポイント下回っている。この結果から、特別活動などにおいて将来の夢や目標につながる活動を充実させ、キャリア教育の推進を図っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「ジャンプタイム」 …漢字・読解問題・100マス作文を実施し書く力と読む力の向上を図る。
- 「朝のチャレンジタイム」 …発声練習・マス計算を実施し表現力と計算力の向上を図る。
- 「放課後補充教室」「夏休み補充教室」 …学力調査結果を基に定着が不十分な児童の個別指導の充実を図る。
- 「学習がんばり週間」 …家庭学習(15分間×学年)を実施する。
- 「そだち指導」 …そだち指導員による3・4年の個別指導を実施し基礎学力の定着を図る。
- 「読書活動の充実」 …朝読書や年3回の読書月間、読書目標の設置などにより本に親しむ機会を多く設ける。
- 「問題解決的な学習の充実」 …算数を中心にして授業改善を図り、数学的な考え方などを一層高め、課題解決力、思考力・判断力・表現力を高める。
- 「体験的な活動の充実」 …多様な知見的な活動によって、学びに向かう力を向上させ、自ら積極的に学ぶ意欲や態度を高め、将来への夢や目標を育んでいく。

千寿双葉小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.0	87.1	95.4	96.9	93.2	93.2	90.1	93.0	90.2	84.1	87.2	72.2
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.3	81.4	74.1	82.8	89.2	90.5	88.9	86.4	72.5	61.3	90.3	87.5
平均正答率(R7)	80.8	78.4	89.2	92.6	87.8	87.3	84.0	78.4	76.4	79.5	73.7	62.5
平均正答率(R6)	75.2	77.3	83.3	86.6	87.4	90.4	77.1	80.3	62.8	65.9	71.6	69.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○通過率

・国語91.0%（昨年度比+7.7ポイント）・算数87.1%（昨年度比+5.7ポイント）
領域別正答率は、国語の「話すこと・聞くこと」、算数の「データの活用」が区平均と同等程度である。今後の指導の重点として、定着させていく。

○通過率80%を下回ったのは、6年生算数72.2%となっている。定着が不十分な「単位量あたりの大きさ」の改善を図っていく。同集団での昨年度との比較では、5年生の算数以外、全学年で上回っている。指導の成果である。引き続き、定着を図る。

○学習意識

「学校での授業は分かる」では、9割を超えており。一方「宿題がないときでも家で勉強する」は区平均と同等、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は区平均を下回っている。この結果から、自主的に学習すること、読書の習慣をつけることが課題である。読書の習慣については、年1回の読書週間での「好きな本の紹介」等の取組を通して、関心を高める。

学校による学力向上への主な取り組み

○相互参観、教科指導専門員制度活用した「足立スタンダード虎の巻」に基づく授業改善。

○朝学習（15分間）を週3回実施

- ・漢字：5問から10問のテスト
- ・計算：東京ベーシック・ドリル（年3回）
- ・A I ドリル：前学年までの範囲、ワークブック（週1回）
- ・聞き取り書き取りチャレンジ：児童朝会の校長講話の短作文（月1回）

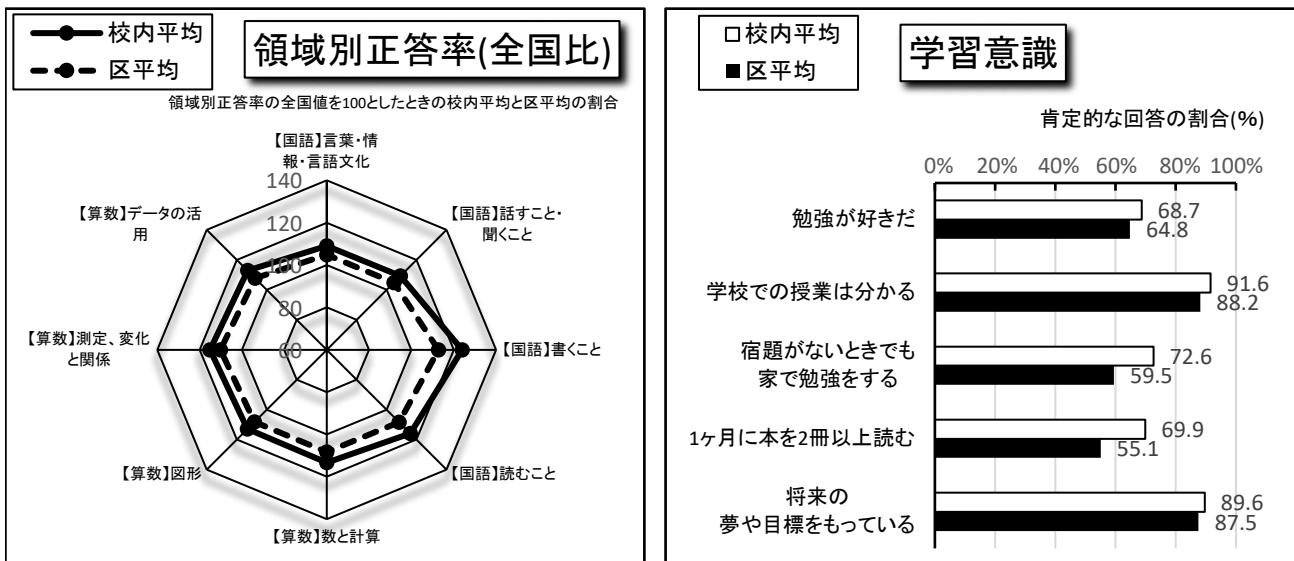
○家庭学習：音読、漢字、算数、自主学習（家庭学習の手引き）、A I ドリル

○新聞活用

- ・記事やコラムについて感想や考えを書く。
- ・知らせたい記事を選び、朝のスピーチで発表する。
- ・読書の代わりに新聞を読む。

○放課後学習：学力定着度調査の結果や日常の学習の中で課題となる内容への取組（随時）

千寿本町小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	90.5	89.5	92.5	94.3	83.6	85.2	91.2	89.5	90.0	88.3	95.2	90.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	86.8	80.4	81.5	75.4	81.4	84.7	88.5	82.0	90.9	77.3	91.7	83.3
平均正答率(R7)	83.5	83.4	87.5	90.1	85.6	87.0	82.9	80.0	79.9	83.6	83.0	78.8
平均正答率(R6)	78.8	78.6	86.7	84.8	83.6	84.9	77.1	80.6	76.7	73.9	72.2	71.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

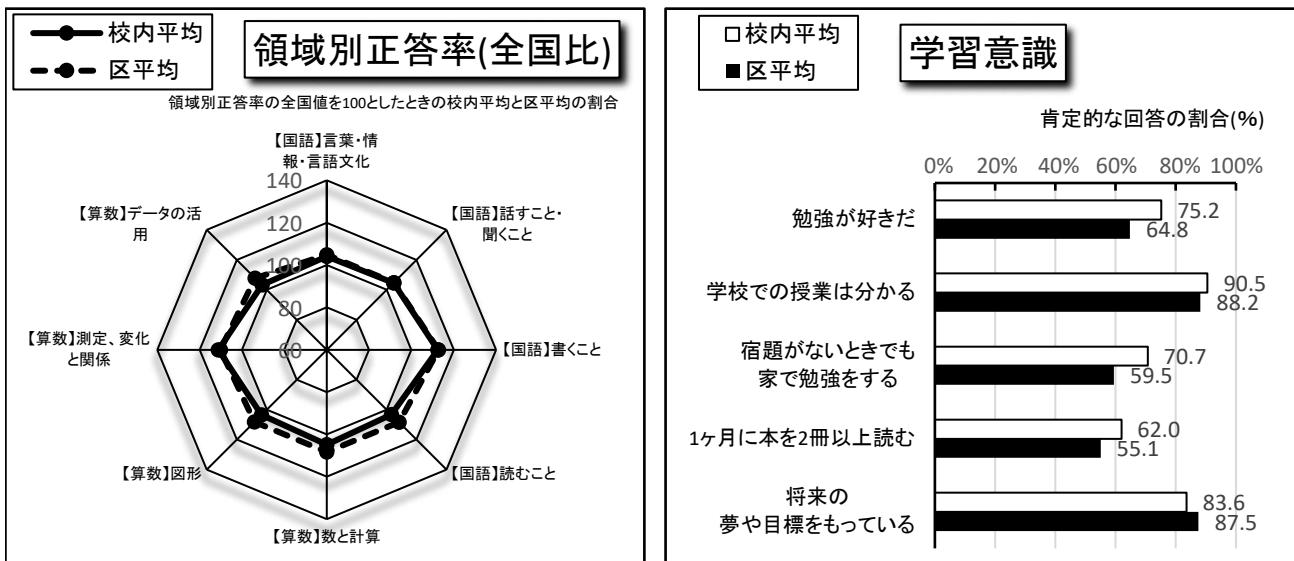
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体では、目標値に対する通過率が国語、算数ともに約9割となっていること、平均正答率が約83%であることから、基礎的・基本的な学習内容の定着は良好であると考えられる。同一集団の平均正答率を経年比較すると、高学年は上昇傾向であるが、中学年は3年生の算数以外、横ばいか低下しており、課題が明らかとなった。
- 算数の3領域の校内平均に上昇が見られた。これは、昨年度は3年生以上の算数科習熟度別指導が復活したことや、計算力に課題のある児童を対象にした放課後個別指導、朝学習の時間にA Iドリルを活用して計算力の確認を定期的に行なったことが成果として表れていると考える。
- 学習意識の項目で、肯定的な回答の割合が9割と7割の設問があった。後者の要因として、学習に向かう心構えや学習意欲の差（指示待ちの受け身だったり安易な方に流れやすかつたりなど）が日頃の児童の様子から考えられ、授業改善を図ったり児童の主体性を育てたりする取り組みを、全校体制で進めていきたい。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習（本町タイム）：国語（言語活動の充実）、算数（計算力の向上）、体育（体幹づくりや体力の向上）を行っていく。
- ・言語活動の充実：①月1回の俳句作り ②「季節の詩」の音読・暗唱 ③月1回「天声子ども語」の視写（3年生以上）など
- ・算数：A Iドリルを活用し、月末に計算力の確認
- ・体育：姿勢タイム（1分間）、縄跳び、持久走など
- 放課後個別指導（ミラクルタイム）：計算問題を中心に反復練習（週1回）を行う。
- 暗唱発表会（年2回）を行い、これまでの学習の成果を発表し合う。
- 百人一首大会を開き、言語に対する理解を深める。（後期）
- 九九検定（2年生対象）を12月と2月に行なう。
- 年間4回の読書週間を行い、本に親しむ機会を設ける。
- タブレット端末を効果的に活用した授業を展開していく。

竹の塚小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	83.2	83.7	71.4	77.1	80.4	89.1	91.4	88.6	86.8	84.2	85.4	79.2
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.6	81.4	84.0	88.0	85.2	88.9	89.5	89.5	79.6	75.5	82.1	71.4
平均正答率(R7)	77.5	77.0	79.8	84.2	83.7	83.2	84.8	76.5	68.1	75.9	74.6	69.1
平均正答率(R6)	74.1	75.1	85.9	87.4	87.3	90.6	74.8	77.2	65.7	70.9	67.7	62.5

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

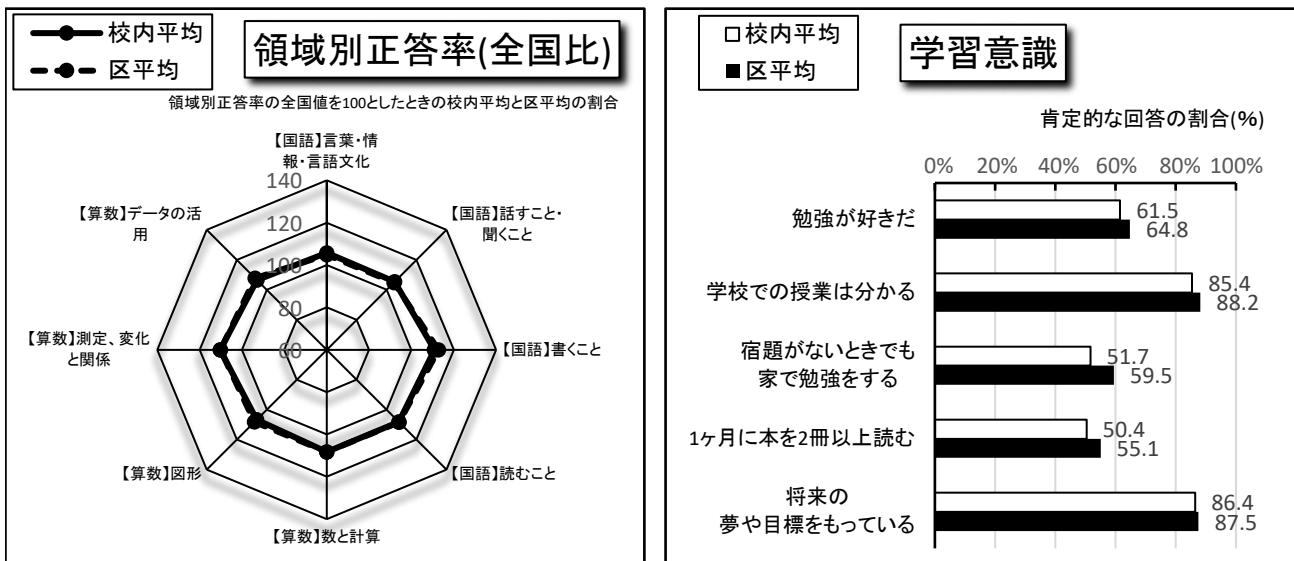
「学習定着度調査」分析結果

- 通過率は、国語が83.2%、算数は83.7%であり、昨年度と比べ国語は0.4ポイント減少し算数は2.3ポイント増加した。算数は、パワーアップタイムや放課後教室の取り組みの成果があげられる。国語においてはA I ドリルの活用が不十分であることが課題としてあげられるものの、国語、算数ともに83%を上回っており学習内容の定着が図られているといえる。
- 学習意識の「勉強が好きだ」は、75.2%と区平均より10.4ポイント高い。「学校での授業はわかる」は、90.5%と区平均より2.3ポイント高い。「宿題がないときでも家で勉強する」は、70.7%と区平均より+11.2ポイントと大きく上回っている。
- 「1ヶ月に本を2冊以上読む」は、62.0%と区平均より6.9ポイント高い。パワーアップタイムで読書時間を設け、図書委員会による読書週間など、読書活動の充実の効果が得られた。
- 「将来の夢や目標をもっている」では、区平均より3.9ポイント下回っていた。今後、児童の自己肯定感が高まる活動や、キャリアノートを活用し児童一人ひとりが目標を立てて活動に取り組めるようにしていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 教師の授業改善：教員相互の授業観察、教科指導専門員の指導の充実と活用を図る。学力調査の分析と実態把握を通じた個に応じた授業実践。校内研究を通じた教師のI C Tの指導力の向上。校内における若手教師の研修を年8回実施する。教科指導や板書の書き方、I C Tを活用した指導法などについて研修を受け、若手教師のスキルアップを図る。
- 個に応じた指導の充実：児童一人一台端末環境を通してA I ドリルを積極的に活用し、指導の充実を図る。放課後教室では、担任や専科教員が連携し学校が一体となって、児童の弱点を克服することを目的として個別最適な指導を行う。
- 小中連携教育事業を通じた指導の一貫性の確保：連携小中学校とともに「自分でめあてを立てて、主体的に取り組むことのできる児童・生徒」「自分の考えを積極的に表現できる児童・生徒」を目指し、I C T環境を活かした共通実践事項を実施していく。

辰沼小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.8	84.9	92.3	98.5	86.7	90.1	91.4	91.4	86.6	79.3	83.1	67.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.3	80.6	78.9	86.3	87.3	95.8	84.7	82.4	78.6	67.1	72.0	69.3
平均正答率(R7)	78.9	78.8	86.6	92.4	88.2	89.4	83.3	80.1	69.4	75.2	72.2	62.2
平均正答率(R6)	74.0	76.0	85.1	88.3	87.8	92.3	73.4	76.4	65.7	69.4	60.8	56.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の平均正答率は78.9%で、前年度よりも4.9ポイント上がっている。通過率は、87.8%で、前年度よりも7.5ポイント上がっている。すべての学年が通過率80%を超えており、本校が計画した目標に到達している。しかし、高学年になるほど、上位層と下位層の差が広がり、通過率は高まっていても、平均正答率は70%前後になっている。

【算数】学校全体の平均正答率は78.8%で、前年度よりも2.8ポイント上がっている。通過率は、84.9%で、前年度よりも4.3ポイント上がっている。2~4年生が通過率90%を超えている一方で、高学年は通過率が伸び悩んでいる。既習事項を理解できていないまま高学年になっている児童が多いことから、中学年での指導の見直しや基礎・基本の徹底が必要である。

【意識調査】学習意欲などにおいて、前年度までの調査とほぼ変わりがない。区平均より若干低いことから、今後も教員の授業力向上と、家庭と連携しながらの学習習慣の確立が必要である。一方で、読書における項目が前年度より、8ポイント上がっている。朝読書や、区立図書館の本の貸し出しの推進をしてきた結果といえる。

学校による学力向上への主な取り組み

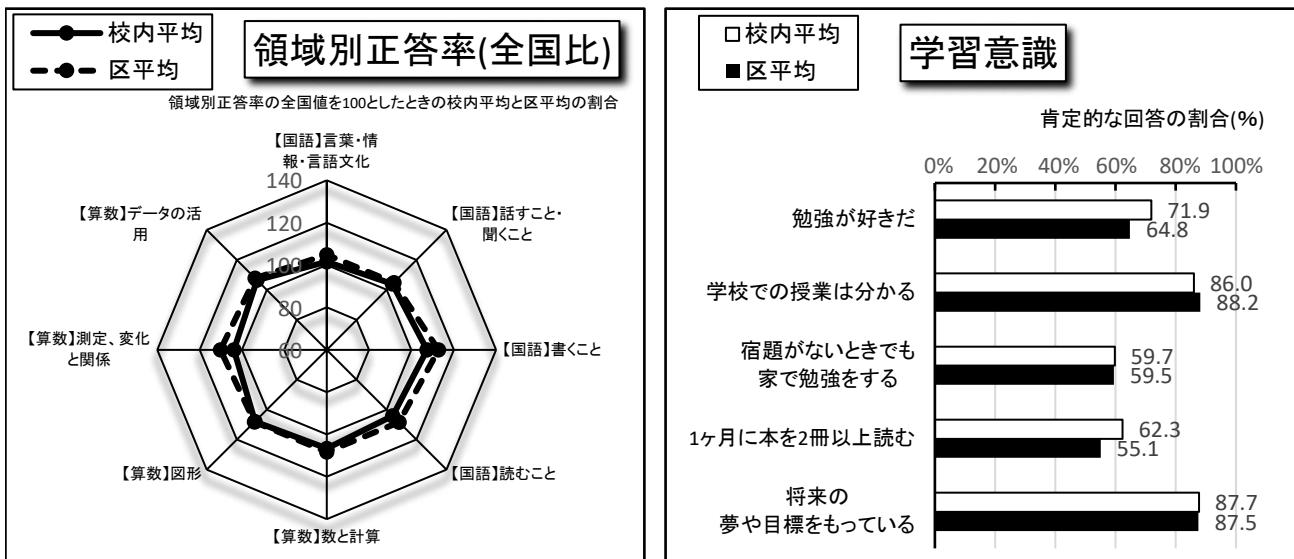
○教員の授業改善

- 足立スタンダード虎の巻に基づく問題解決を中心とした授業を実践する。子どもが考える時間を保証することで、考えを粘り強く引き出し、学びに導く指導を行う。すべての教員が年間1回以上授業を公開し、相互の授業観察を行う。若手教員などは、教科指導専門員と月1回程度、授業研究を行い、授業力の向上を図る。

○基礎学力向上のために

- 毎月、漢字検定・計算検定を行い、その月に身につけるべき学習事項をはっきりさせ、全員が合格するまで、個別指導を行いながら学習をすすめていく。
- 朝学習で、区調査の過去問題やふりかえりプリントに取り組み、スマールステップができるようになった感覚を掴ませる工夫をする。
- A I ドリル(キュビナ)やパソコン教材の活用を推進、週1回の放課後学習教室(辰沼塾)やそだち指導を行い、基礎・基本を徹底し、中学年でのつまずきの改善を図る。

寺地小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	83.7	86.7	94.3	92.5	83.3	89.6	80.4	92.9	76.7	85.0	85.1	72.3
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.7	76.6	78.7	80.0	83.0	86.8	81.7	80.0	81.6	55.1	91.8	78.7
平均正答率(R7)	76.3	78.2	86.3	89.0	82.1	83.5	77.3	77.6	68.1	78.2	72.2	64.8
平均正答率(R6)	73.9	73.6	81.7	84.8	86.3	89.2	73.0	74.9	64.8	64.0	68.2	61.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

区平均との差についての分析

- 平均正答率を区平均と比較すると、算数は同等か下回り、国語は全学年が下回っている。
- 平均正答率を学年別で見ると、3年生を除く全学年で昨年度より上回っている。
- 学習意識調査を見ると、「勉強が好きだ」と回答する児童が9.7ポイント上昇し、区平均を上回った。一方で、「学校での授業は分かる」と回答した児童は5.5ポイント下降し、区平均を下回ったことから、学習意欲は向上したもの理解が不十分だと考える。
- 学校全体の通過率を見ると、国語は昨年度と同等で、算数は昨年度よりも10.1ポイント上昇した。

【本校の課題】

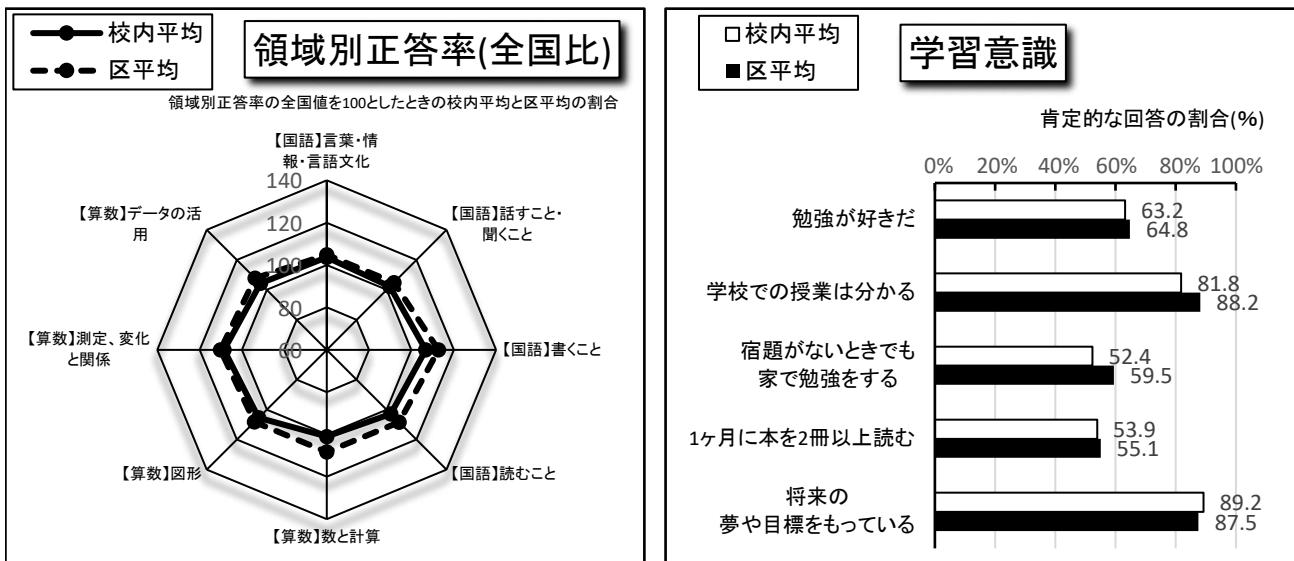
- 基礎的な学習内容の定着と自ら学ぶ意欲の向上

学校による学力向上への主な取り組み

基礎・基本の定着を軸に、教員の授業力向上を目指す。

- 朝学習では、A I ドリルを活用し、自分で課題を決めて取り組む。
- ワークテストの間違い直しを徹底して行う。
- 家庭学習でA I ドリル等での復習に取り組む。
- O J Tや校内研究を通し、足立スタンダードを軸とした「児童が分かる授業」を全教員が確實に行うことができるようとする。
- 学習では振り返りを必ず行う。児童が評価規準にそって、客観的に学びの行程や身についた力を振り返り、次時へのめあてをもって学習する習慣を身につけることができるようとする。
- 理解の低い児童について、個別指導に力を入れたり家庭と連携したりして改善を図る。

舍人小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	83.6	80.3	74.6	85.7	84.2	87.7	84.1	84.1	90.7	84.0	83.1	64.3
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.5	81.4	78.7	83.6	85.5	88.0	90.1	93.0	79.8	67.9	83.1	77.5
平均正答率(R7)	76.4	75.1	81.5	85.1	84.6	84.6	77.0	73.9	71.3	78.7	72.8	61.9
平均正答率(R6)	73.7	75.4	85.7	88.5	85.2	89.7	75.9	82.6	65.5	65.3	64.8	61.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

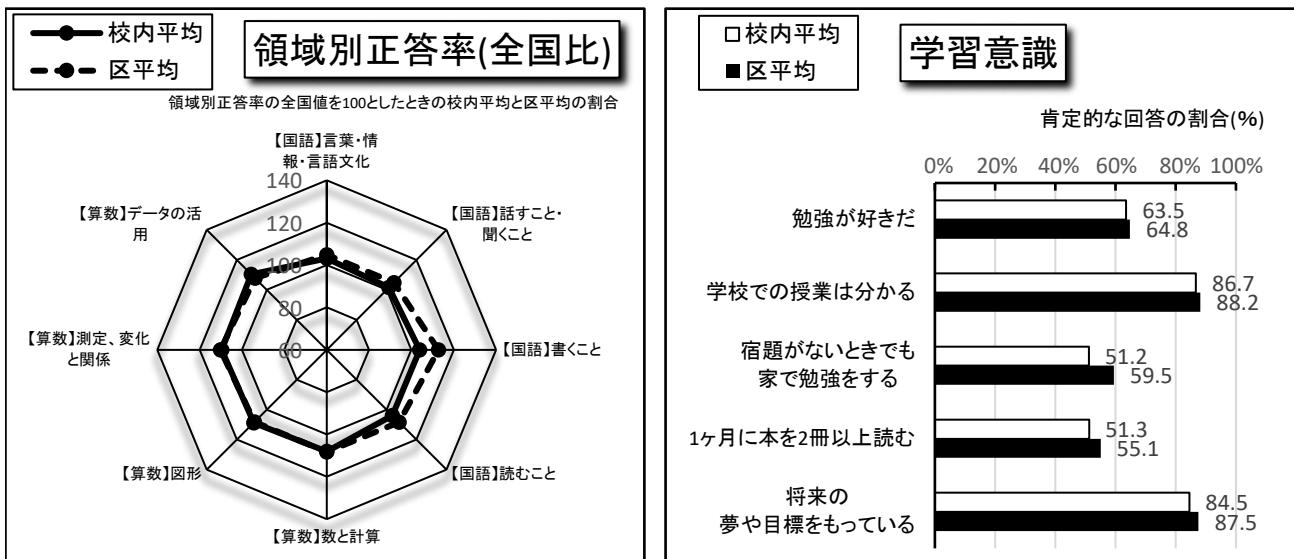
「学習定着度調査」分析結果

- 国語：領域別正答率で見てみると、全領域で区平均を下回った。通過率と平均正答率は昨年度よりもやや上昇した。今後も個々に応じた指導の充実が必要である。
- 算数：領域別正答率で見てみると、概ね区平均と同等であるが「数と計算」領域は若干下回っている。通過率、平均正答率ともに昨年度より若干低下しているものの、経年変化で見ると、3年生は通過率が上昇している。今後も個々の児童の習熟度を踏まえた授業改善が必要である。
- 学習意識調査：「勉強が好きだ」という項目では、63.2%、「学校での授業は分かる」は81.8%の児童が肯定的な回答をしているが、区平均を下回っている。昨年度と比較し、区平均との差は縮まったが、今後の児童の学習意欲の向上や基礎学力の定着につなげるために引き続き、児童から「できた」「分かった」という言葉が出るような授業展開、授業改善をしていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「パワーアップタイム」：週2～3回、A I ドリル、国語読解プリント、音読を行うことで、正確に素早く計算する力や読む力・表現力の向上を図る。
- 「M I M指導」：低学年では、年間を通してM I M指導を行い、読む力の向上を図る。
- 「放課後学習教室」「サマースクール」：学習調査の結果を基に、つまずきの見られる子どもへの個別指導を行う。A I ドリルを活用し、学力の定着・向上に取り組む。
- 「家庭学習チェックウィーク」：年2回、1週間家庭学習(10分間×学年+10分)の状況を調査し、家庭学習の定着と自ら学びに向かう力の育成を図る。
- 「I C Tを活用した授業の充実」：児童の考えを共有したりグループで課題に取り組んだりすることができるよう、「Google for Education」を活用した授業改善を図る。
- 「読書活動の充実」：1年間で低学年は50冊、高学年は5000ページの読書目標を達成できるように、読書量調査を行い、児童の「読む力」の育成を図る。

舍人第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	84.8	86.4	85.1	92.5	78.9	86.8	89.6	87.0	87.7	91.4	82.4	74.3
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	77.6	79.5	72.4	75.0	77.0	86.5	84.5	87.3	73.6	77.8	80.5	71.4
平均正答率(R7)	76.5	79.7	82.2	88.2	83.3	86.9	79.4	78.9	71.8	84.3	69.6	63.8
平均正答率(R6)	72.4	76.2	82.1	84.0	82.8	88.8	74.2	79.0	63.8	73.8	63.5	60.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【全体】 学校全体の通過率は、国語、算数いずれも8割を超えており、学年別の通過率、平均正答率とともに、昨年度に比べ上昇傾向にある。朝学習の時間を設け、有効活用するために曜日ごとに教科や実施する内容を決めて学校全体で取り組んだ成果といえる。

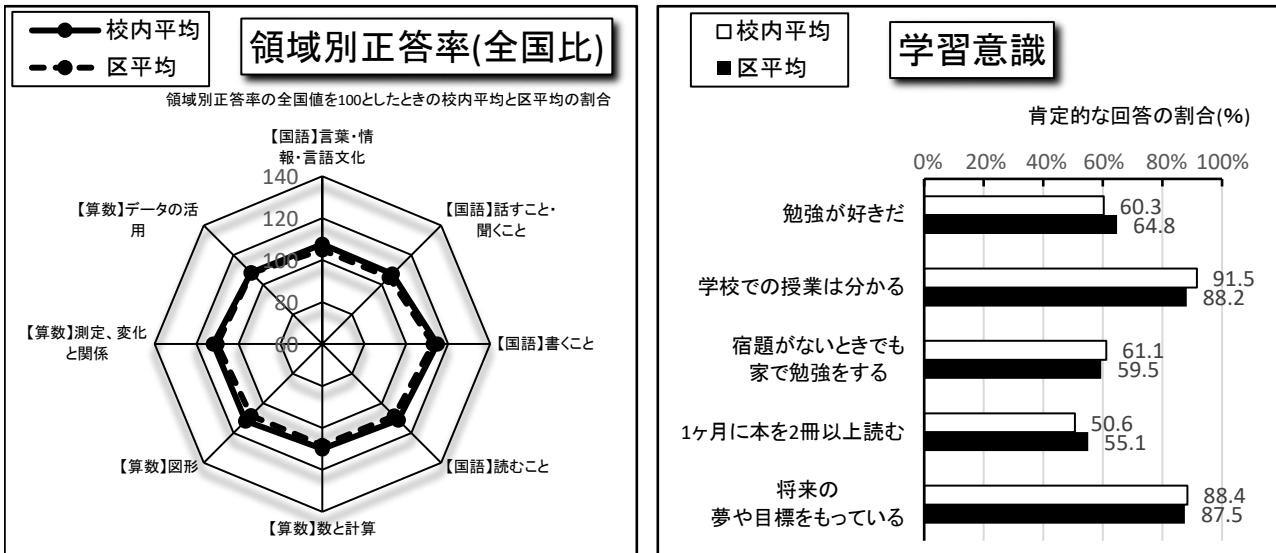
【国語】 領域別正答率を見てみると、言葉・情報・言語文化の領域が区平均と同等なのに対して、他は区平均を下回っている。日頃から聞く力を伸ばすとともに、語彙を拡張し、言葉を適切に活用する取り組みを行っていく。

【算数】 領域別正答率を見てみると、どの領域も区平均と同等である。平均正答率を見ると、3、4年生が昨年度と比べそれぞれ1.9ポイント、0.1ポイント減少している。学習が抽象的な内容へ変化しつつあることが原因と考えられる。高学年になることを見据えて、既習内容の復習学習や放課後補充学習を行い、知識の定着に努める。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「朝学習」：現学年の漢字・計算などの基礎的・基本的な学習内容の確実な定着をめざして週2日、全児童に取り組ませる。
- 「家庭学習強化週間」：家庭と連携を図りながら、家庭学習の習慣化を図る。
- 「M I M指導」：低学年では、年間を通してM I M指導を行い、読む力の向上を図る。
- 「サマースクール」：学力調査の結果をもとに、つまずきの見られる児童へ指導を行う。
- 「学校図書館の活用」：図書支援員を活用し、並行読書の実施、蔵書の充実、図書ボランティアによる読み聞かせの実施等を行い、読書活動を推進する。
- 「I C Tの活用」：タブレット端末を活用した学習を行うことで、児童が考えを共有したり課題に取り組んだりする力の向上をめざす。A I ドリルの活用により、個に応じた学習の充実を図る。
- 「放課後補充学習」：短時間で児童のつまずきに重点を置いた個別指導を行う。

中川小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	93.8	89.3	91.3	91.3	90.0	97.5	95.3	93.0	92.7	78.0	98.1	87.0
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.8	88.5	92.3	100.0	85.7	90.5	74.4	86.0	92.9	87.5	74.1	81.5
平均正答率(R7)	81.2	80.8	87.2	87.9	88.0	89.3	81.8	78.2	73.3	80.0	78.8	73.4
平均正答率(R6)	75.1	77.1	90.3	90.3	88.0	87.8	73.4	78.9	71.7	77.4	63.2	61.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

学校全体の通過率が93.8%と昨年度比で10ポイント上がった。学年別では、3・4・6年生が昨年度を上回り、4・6年生は大きく改善した。2・5年生は昨年度を下回った。学校全体では、書くことのパターンⅢ判定(C-D層の差が大きい場合)が多く出た。昨年度までの指導の成果が上位層から広がってきてていることが分かる。今年度は、D層への個別指導を通じた支援が必要である。

【算数】

学校全体の通過率が89.3%と昨年度比で0.8ポイント上がった。学年別では、3・4・6年生が昨年度を5ポイント以上上回ったが、2・5年生は下回った。領域別で見ると、2年生では「測定」および「データの活用」、5年生では「数と計算」について手立てが必要である。

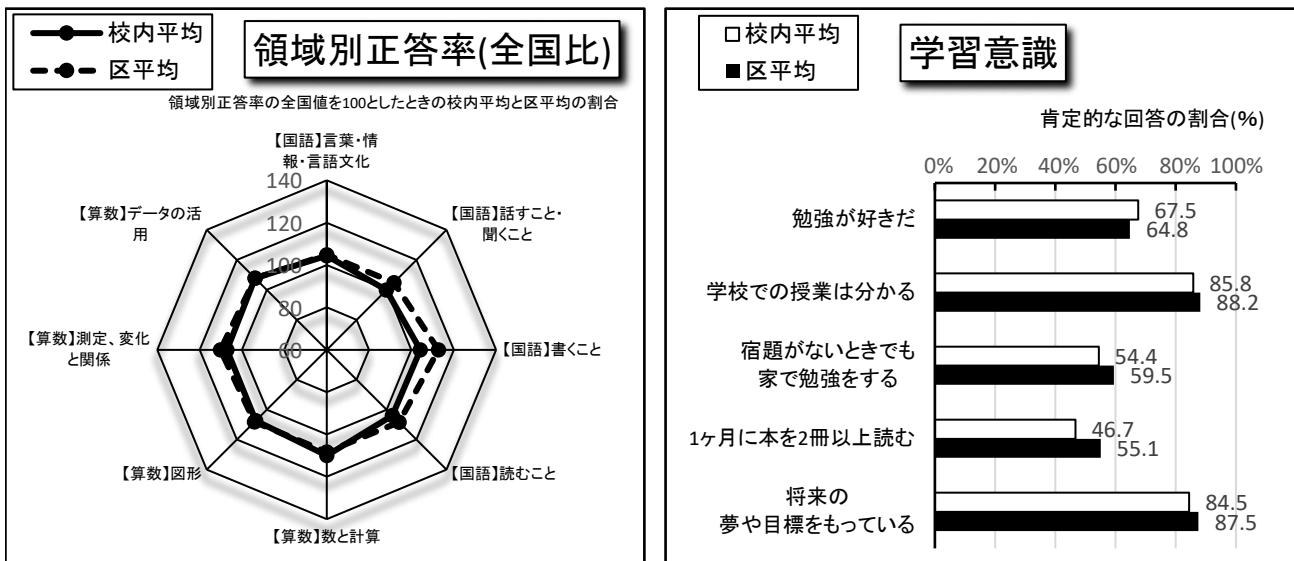
【意識調査】

課題であった「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目は、昨年度を3.8ポイント上がったが、今年度も区平均を下回っているため、引き続き読書冊数の増加に向けて取り組む。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習…読解・計算・漢字の基礎学習を行う。
- 補充学習（放課後・長期休業中）…児童のつまずきにポイントを絞った個別指導を行う。
- 漢字キング…前期は前学年、後期は現学年の漢字で検定を行い、合格者を表彰する。
- 読書…読書時間を設定する。図書委員会やボランティアによる読み聞かせを行う。
- ニュース見つけた（高学年）…要約する、自分の考えをまとめることをねらいとして、新聞から興味のある記事を選び、内容と自分の意見をまとめる。
- 自主学習（1年生後期～）…児童がノート1ページ分の学習内容を決めて、週3回程度取り組む。学習内容に合わせたプリントを選び、活用できるようにする。
- 校内研究…「自分の思い・考えを豊かに表現する児童の育成」をテーマに年4回の研究授業を行い、表現力を育てるための授業展開や指導方法を研究する。
- 共通理解…全教員が足立スタンダード虎の巻を基にした授業を徹底する。

中川北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.6	85.3	80.8	98.1	89.1	85.5	86.3	86.3	82.1	79.1	89.7	79.3
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	79.9	88.3	83.6	96.4	83.1	92.2	82.5	84.4	74.6	84.7	74.6	83.3
平均正答率(R7)	76.2	78.6	85.5	94.1	85.6	83.6	77.4	74.0	66.5	76.8	72.0	71.6
平均正答率(R6)	72.9	79.5	85.6	90.2	86.1	90.8	70.7	79.9	61.3	73.7	62.6	65.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】記述式の正答率はC層D層で50%以下と、A層と50ポイント以上の差が出ている。全学年で「書くこと」に課題があり、「話すこと・聞くこと」においては、令和6年度から特に4・6年生のポイントが下がった。活用の問題に関しては、定着に二極化が見られる。

パターンIII (C-D層の差が大きい) の領域で一部児童が未定着であることが考えられる。

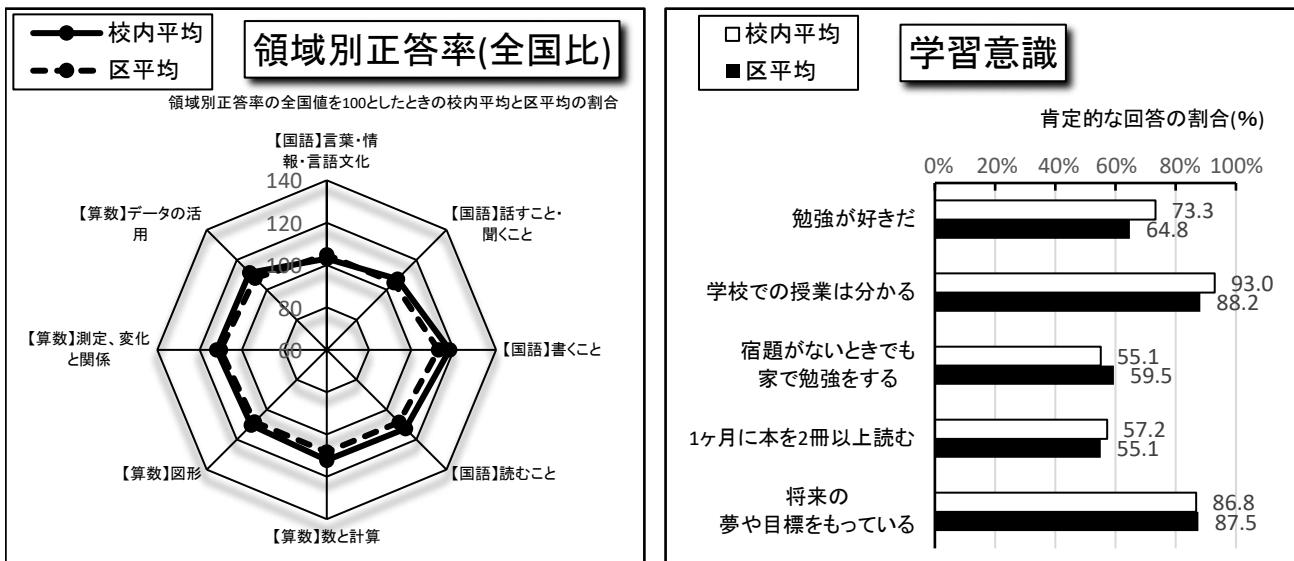
【算数】2年生は活用の問題で正答率が全国よりも28.7ポイント上回っている。さらに、偶数学年は図形の領域で84%以上の正答率があり、特に6年生は図形の問題の正答率が高く90%を超えており、3年生は箱のつくりで条件に合った作図や、形に合った面の数の数え方に課題があり、5年生も図形の領域で、対応する角の位置関係や角度の測り方に課題がある。

【意識調査】「勉強が好きだ」は区平均を超えるが、その他の項目で区平均を下回っている。「学校での授業は分かる」は85.8%ではあるが、学習定着に結びついてはいない。めあてと正対した学習の振り返りを大切にし、しっかり定着させる必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・国語では「書くこと」の取り組みにおいて、校内研究のテーマとして年間6本の授業研究を行い、授業改善に活かす。
- ・算数では計画されたモジュール学習の時間を活かし、四則計算や九九を中心に基礎・基本の定着を図る。
- ・年間に3セットの読解力向上プリントを実施し、解き方や書き方、ポイントなどの解説を徹底する。また、年間3回の学力調査過去問を実施し、実施後は、つまずきのある内容を重点的に復習する。
- ・モデルとなる板書を共有したり、「共学週間」を通して互いの授業を参観し合うことで、授業改善に取り組む。
- ・児童が安心して学習に臨めるよう、学習規律の共通理解を図り、足立スタンダードに基づく授業を実践する。
- ・学校図書館利活用推進校として読書活動に力を入れ、読書量を増やす取り組みを行う。

中川東小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.6	89.8	85.7	91.8	84.4	91.1	92.9	97.6	81.3	79.2	95.2	90.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	77.9	86.0	69.6	87.0	87.5	100.0	70.8	93.8	85.4	82.9	78.7	68.1
平均正答率(R7)	79.4	82.1	85.8	89.6	87.1	88.3	85.8	84.2	62.4	75.4	80.9	75.2
平均正答率(R6)	71.9	77.1	81.0	85.4	87.7	93.4	66.8	80.2	70.0	78.1	60.0	55.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【意識調査】「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」は昨年度の調査よりも5ポイント近く上昇しており、前向きに学ぶ意欲が育まれていることが分かる。本校の課題は、自主学習に対する意識の向上であるといえる。「将来の夢や目標をもっている」の設問でも区平均を下回っていることから、子どもが興味関心を広げ、探究的な学習を積み重ねていく必要がある。

【国語】全ての学年で通過率が8割を超えており、領域別正答率も昨年度に比べて上昇していることから、国語の学力は向上していることが分かる。朝学習や放課後補習教室など年間を通して取り組みが成果に結びついている。言葉の領域は正答率が低いため、A I ドリルを活用し理解を深めていく必要がある。

【算数】学校全体の通過率は前年度よりも3.8ポイント上昇しており、5年生以外の学年で通過率は9割を超えている。5年生の子どもたちは前学年時の通過率は9割を超えていることから、昨年度の学習に課題があることが分かる。区学力調査や日々の単元テストを分析し、学年全体で課題領域について指導を行うことで学力の向上を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

【基礎学力定着に向けた学力向上施策】

昨年度まで2年間取り組んだ校内研究で培った授業のスタイルを全学年で共通実践する。

児童が主体的に学ぶことができるようにするため、問題設定を工夫したり、めあての文言を児童から引き出したりするなど、主体的な学びを展開することで学力を高めていく。

①パワーアップタイム（国語・算数・読書） 週3日 朝 8：20～8：35 15分間

②花丸教室（放課後補習教室） 週2日 放課後 15：15～15：45 30分間

→ 区学力調査や単元テストのポートフォリオを活用 未習熟の児童を抽出して実施

③がんばろう家庭学習週間（家庭との連携） 毎月1回 宿題+自主学習の推進

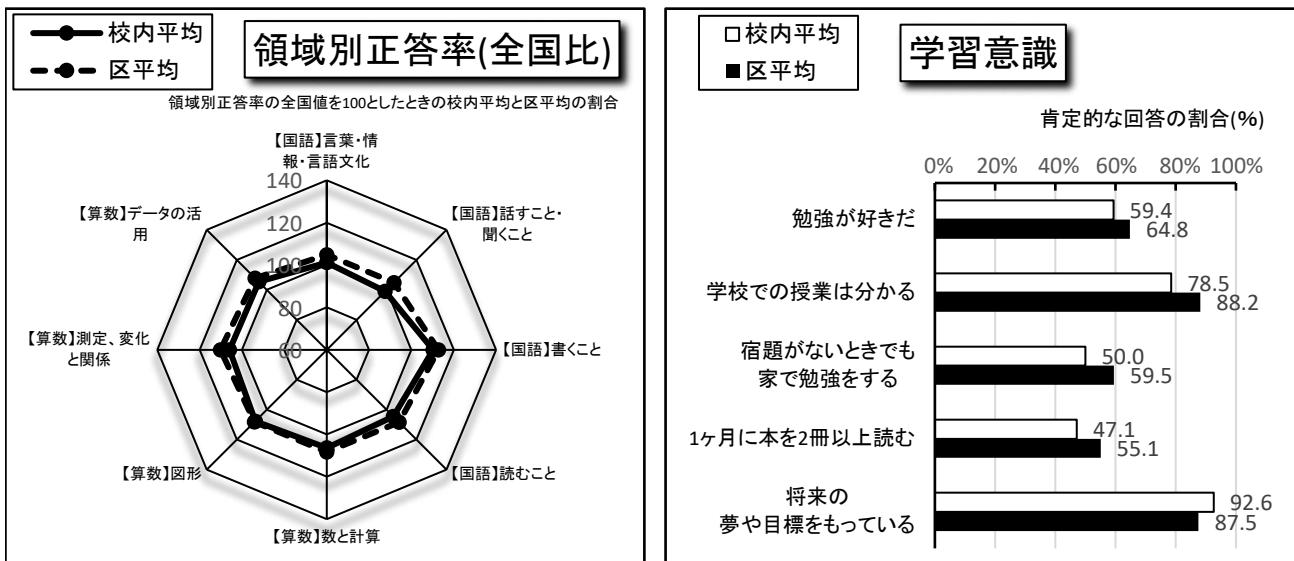
④I C Tを活用したオンライン学習

→ A I ドリル・デジタルM I M・キーボー島などの学習ツールを活用

⑤読書月間 年3回（6月・10月・2月）

⑥「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加推奨（3～6年生）

中島根小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	81.3	84.1	83.7	95.3	82.0	90.0	82.1	84.6	89.2	86.5	69.2	61.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	68.1	57.1	61.0	70.7	71.4	62.8	74.4	65.1	64.3	41.9	68.9	49.2
平均正答率(R7)	76.3	78.5	86.8	92.2	83.2	88.8	77.2	74.9	66.7	78.2	68.5	59.2
平均正答率(R6)	65.3	62.6	79.6	83.3	77.9	78.1	67.3	66.9	55.5	53.3	56.6	46.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体で国語および算数の平均正答率および通過率ともに令和6年度と比較すると、平均正答率、通過率ともに10ポイント以上伸びている。算数の通過率においては、27ポイントも上がっている。しかし、6年生が他の学年よりも平均正答率、通過率ともに低いことが課題であるが、令和6年度よりも上昇をしている。

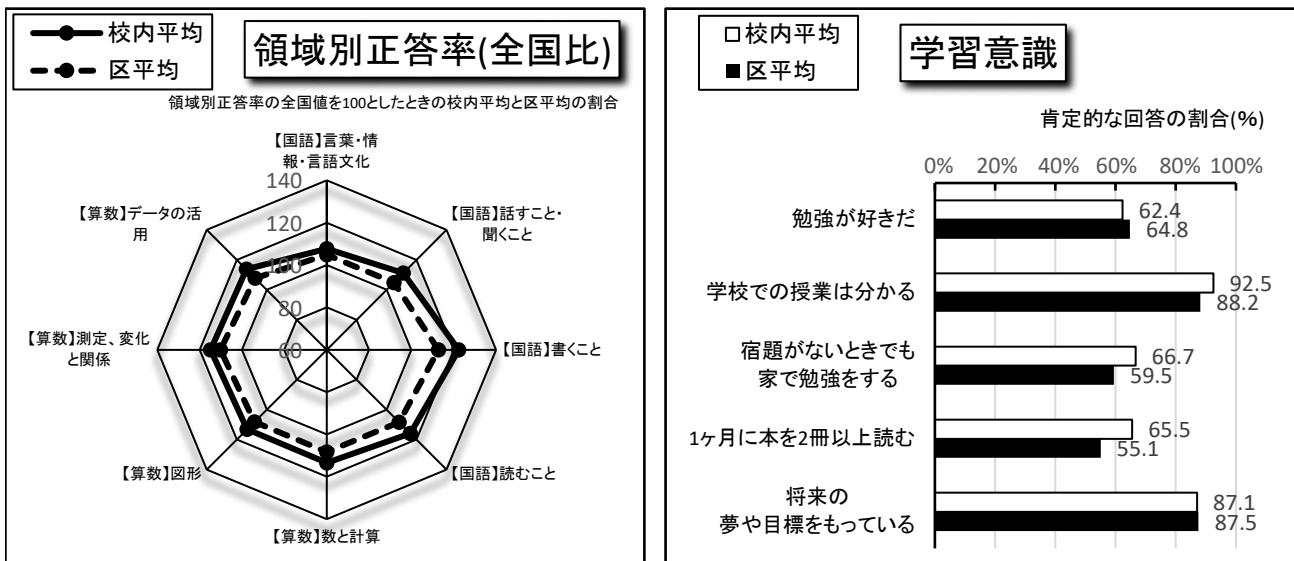
令和3～6年度と平均正答率、通過率が低下している状況が続き、児童の基礎・基本の定着が課題であった。しかし、令和5・6年度と下記の学力向上への主な取り組みにより、着実に児童の基礎・基本が定着してきた。その結果が、令和7年度の上記のデータである。

学習意識を見ると、ほとんどの項目で区平均を下回っている。「勉強が好きだ」の項目では、5.4ポイント下回っており、学習自体に苦手意識をもつ児童が多いことがわかる。また、「宿題がないときでも家で勉強をする」項目も9.5ポイント下回っており、自ら進んで学習しようとする意識が低いことがわかる。来年度に向けて、意識を高め、さらなる基礎・基本の定着を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

- 授業力向上…年間を通して、全学級担任などを対象にした教科指導専門員による授業観察を行い、国語と算数の授業改善を行っている。特に算数授業研修会を設定し、年間4回実施してきたことで、指導技術の向上を図っている。さらに、小中連携研修により、低・中・高学年・専科などにおいて系統立った指導法の追究を行うことを通じて、教科研究や指導力の向上を図っている。
- 朝学習の充実…朝の20分間（パワーアップタイム）に①区学力調査に向けての練習問題、②既習学習の問題などの取り組みを主として実施している。
- 放課後補習教室の充実…放課後補習教室（週3回）で、区学力調査や単元ごとのワークテストの結果を基に抽出した児童に補習学習を行っている。指導時間を30分間とし、指導体制は全教員で行い、未定着の学習事項を中心に学習に取り組んでいる。長期休業中の補習教室でも抽出児童を対象に基礎的な学力の定着を目指し45分×2回の補習を行い、学力の向上を図っている。

長門小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	90.4	89.2	100.0	100.0	96.7	96.7	87.2	84.6	89.5	89.5	83.3	80.6
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	89.4	86.2	90.3	93.5	92.5	92.5	85.4	100.0	89.2	67.6	89.7	76.9
平均正答率(R7)	82.0	82.1	90.4	93.7	91.4	92.1	83.8	80.1	75.9	83.6	76.4	69.9
平均正答率(R6)	78.0	78.0	89.3	90.6	88.5	90.7	75.0	83.8	72.5	71.3	69.8	59.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の平均正答率は82.0%で、前年度よりも4ポイント上がっている。通過率は90.4%で昨年度比+1ポイントである。2年生の通過率が100%であったが、学年が上がるにつれて少しずつ通過率が下がっている。未定着領域の洗い出しを行い、児童の実態を再度把握し指導・改善が必要である。

■全学年で「知識技能」の定着を図り、「言葉・情報・言語文化」の領域において指導の見直し、復習が必要である。

【算数】学校全体の平均正答率は、82.1%で、前年度より4.1ポイント上がっている。通過率は89.2%で前年度よりも+3ポイントであった。

■学校全体として、平均正答率、通過率ともに上がっているが、下位層の児童には基礎・基本の未定着が見られるため、指導法改善とともに、補充学習の充実を図る必要がある。

【意識調査】「学校での授業は分かる」の肯定的回答が90%を超えている。これは、「分かる授業」をめざして授業改善に取り組んできた結果であると考えられる。また、「宿題がないときでも家で勉強をする」の項目では、区平均よりも7.2ポイント上回った。読書指導に力を入れ、自分で課題を見つけて学習に向かう指導の成果が表ってきたと考えられる。

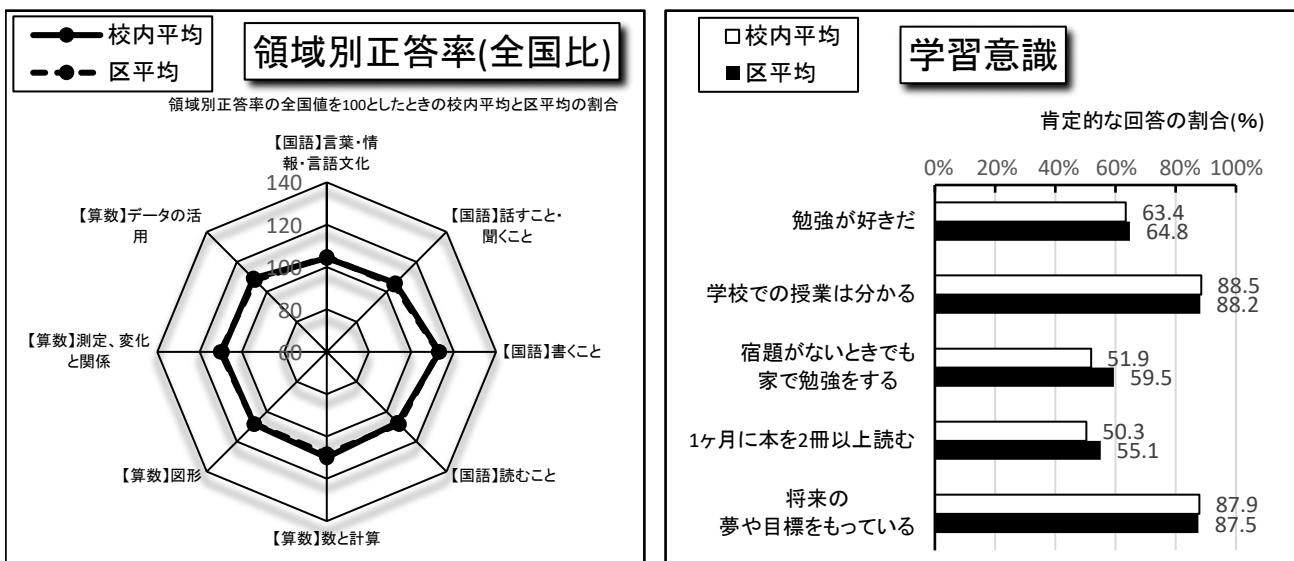
学校による学力向上への主な取り組み

◇授業力向上:教科指導専門指導員の指導とともに管理職の授業観察、校内OJTを通して教員一人ひとりの授業力向上に務め、基礎・基本の定着と読解力の向上を図る。

◇基礎・基本の定着と個別指導の充実:MIMの結果、学力調査の結果分析より児童の実態を的確に把握し、未定着領域の多い児童を中心に意図的計画的に補充学習を実施する。また、そだち指導とも連携を図り、中学年でのつまずきの解消ができるよう日々の授業改善に努める。AIDリールにおいて児童の実態に合わせたワークブックを作成し、課題に取り組ませることで効果的な支援を行う。

◇読書指導の充実:読書パスポートを作成し読書への意欲を高めるとともに、朝読書の時間を設定し、月に1度は全教職員の読み聞かせ指導を行い読書に親しませ、語彙力、読解力を高めていく。

西新井小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.8	87.3	80.5	84.1	90.8	93.1	86.8	92.1	85.2	86.4	85.3	80.0
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.9	76.1	77.4	83.5	82.4	83.8	82.7	78.3	81.6	72.4	80.7	62.7
平均正答率(R7)	78.9	80.5	82.6	86.7	87.7	90.2	82.7	80.5	70.7	80.5	73.1	66.4
平均正答率(R6)	74.2	73.2	85.6	86.1	85.1	87.2	72.2	74.0	67.1	69.1	65.4	55.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

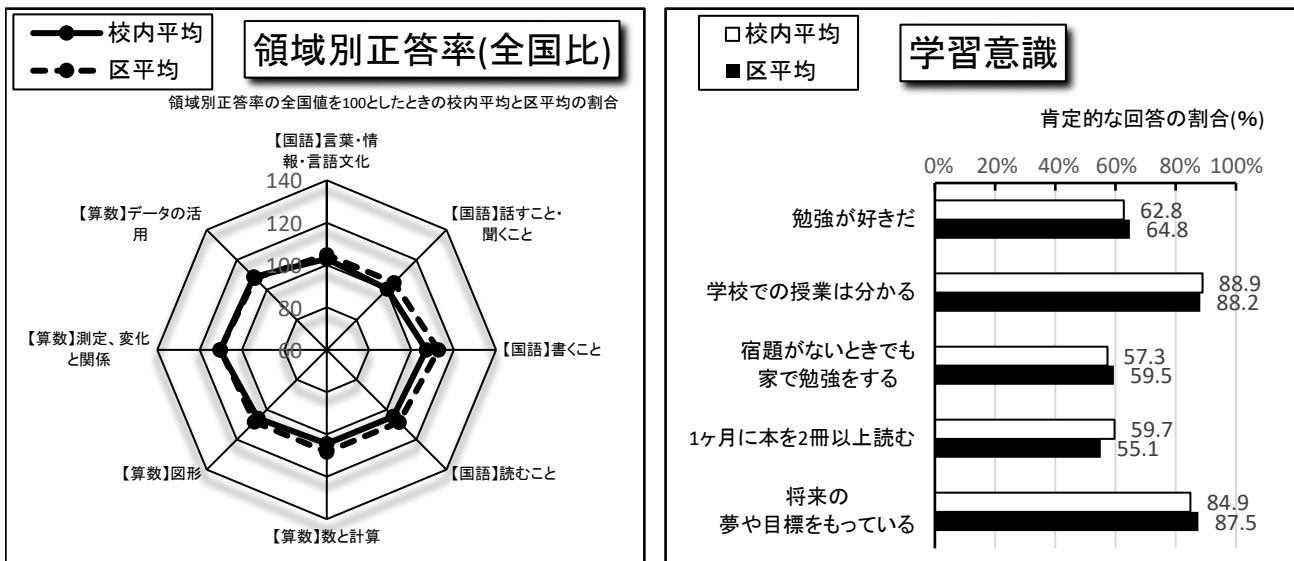
「学習定着度調査」分析結果

- 国語科、算数科とともに、平均正答率が昨年度から向上している。また、3、4、5年生においては、区の平均正答率を上回っている。
- 通過率においては、全ての学年で80%を上回った。また、学校全体でも、昨年度と比較して国語科で4.9ポイント、算数科で11.2ポイント向上しており、改善傾向が見られる。
- 3、4年生の算数科では、通過率が90%を上回った。日常の授業に加えて、朝学習やそだち指導の機会を活用して、基礎・基本の確実な定着に取り組んできた結果が表れている。
- 2年生においては、通過率が80%を超えたものの、区の平均値と比較して、国語科が-6.7ポイント、算数科が-8.3ポイントと低かった。平均正答率や意識調査の結果でも、区の平均値より低いことから、学年全体を対象とした対応が必要である。
- 6年生においては、国語科の通過率と算数科の平均正答率が、区の平均よりも1~2ポイント程度低かった。言語事項の理解や四則計算の定着などに課題がある児童に対して、個別の支援が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 週2回の朝学習の時間を活用して、既習の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。AIドリルを活用して、国語科や算数科における直近の既習内容の復習を行う。また、書く活動にも重点を置き、漢字の書き取りや100マス計算などの基礎的な内容の反復練習にも全校を取り組む。
- かけ算九九を2年生以上の全ての児童が習得するように、学校全体で取り組む。全ての児童を対象にした「かけ算九九チャレンジ」を定期的に行い、達成した児童には認定証を渡すなどして、意欲や達成感を育みながら取り組む。
- 今年度の学力の改善傾向の要因の一つとして、昨年度から「児童が主体の学び」を意識した授業を全学年で実施してきたことが考えられる。教師主導の教え込みではなく、児童が自ら学ぶ学習活動を今年度も継続、発展させていく。
- 高学年においては、読解力向上のため、読書やNIE（新聞活用学習）に週1回朝の時間を活用して取り組む。

西新井第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	82.5	81.0	74.5	90.2	87.5	89.6	76.4	70.9	90.0	82.0	85.4	72.9
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	81.9	78.1	75.0	77.1	87.0	81.5	83.3	89.6	84.0	84.0	80.0	61.7
平均正答率(R7)	77.2	78.0	80.3	87.6	82.8	89.1	73.9	71.0	73.9	81.0	75.9	65.1
平均正答率(R6)	74.8	73.8	82.0	83.1	85.3	87.6	73.5	77.5	72.7	75.9	65.4	53.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○国語:昨年度と比較すると、平均正答率は2.4ポイント、通過率は0.6ポイント上回った。領域別正答率で見ると、区平均とほぼ同水準であるが、「書くこと」「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。要点をまとめ、表現する力を高めるために、授業の中で、めあての問い合わせの答えを児童が考えてまとめを書く問題解決的な授業スタイルを全学年で実施している。

○算数:昨年度と比較すると平均正答率は4.2ポイント、通過率は2.9ポイント上回った。領域別正答率で見ると、「数と計算」に前年度より課題が見られる。前年度の既習事項を授業の中で確認し、個に応じた指導を繰り返し行っている。基礎学力の定着に向けて、問題解決的な学習を全学年で取り組み、適用問題の時間を確保している。

学校による学力向上への主な取り組み

○朝学習の取り組み

- ・毎週火曜日は「A I ドリルタイム」とし、前学年に学習した算数の内容の復習を行う。
- ・毎週水曜日は「西一タイム」とし、当該学年の国語・算数の復習を行う。
- ・毎週金曜日は「読書タイム」とし、読書通帳を記録していく（月6冊、年間80冊を目標）。

○A I ドリルの活用

- ・毎週30問程度A I ドリルを活用して家庭学習の課題を出し、各教科の内容の復習を行う。

○語彙の習得

- ・1年生はM I M、2年生は音読、3～6年生は辞書の活用を通して語彙の習得をめざしている。

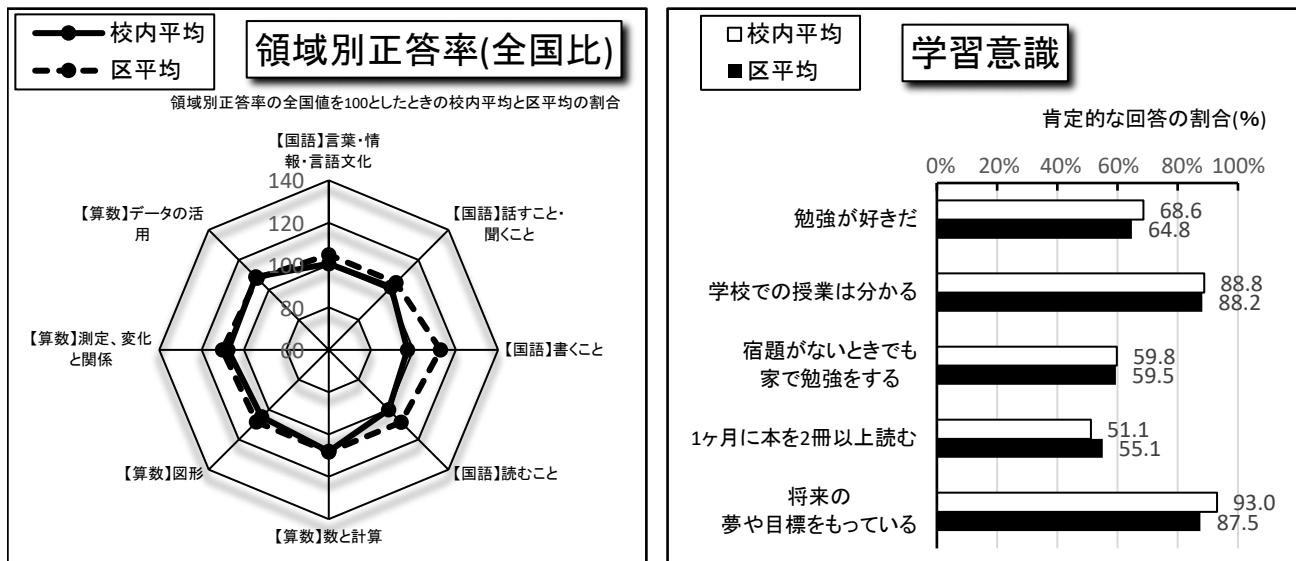
○補充学習

- ・11月、2月の年2回学力予備調査を行い、児童の定着度を調べ、未定着内容を確認し、補充学習を行う。

○「授業のフレームワーク」の活用

- ・教科ごとに指導の標準化を目指した本校オリジナルの「授業のフレームワーク」を作成し、全職員で問題解決的な学習を安定的に実施できるようにしている。

西新井第二小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	80.4	86.2	81.1	85.2	80.0	100.0	77.8	88.9	80.6	86.1	82.4	76.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.4	81.3	80.0	90.0	86.0	93.0	76.9	76.9	71.7	66.0	85.2	82.0
平均正答率(R7)	74.5	77.6	82.7	83.3	84.3	89.0	76.3	77.9	63.5	79.7	69.3	65.6
平均正答率(R6)	71.6	73.4	84.4	88.2	88.0	90.4	65.0	70.9	58.3	65.7	68.5	62.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語の学校全体の平均正答率は74.5%で、前年度から2.9ポイント上昇した。通過率は前年度と同水準を維持している。各学年の正答率は上昇傾向にあるが、4年生の通過率が前年度(3年生の時)よりも低下しているため、個別の対策が必要である。領域別に見ると、すべての領域で区平均を下回っており、特に「書くこと」の正答率が区平均を大きく下回っている。「書くこと」に関する指導方法を検討し、全学年で実施していくことが重要である。

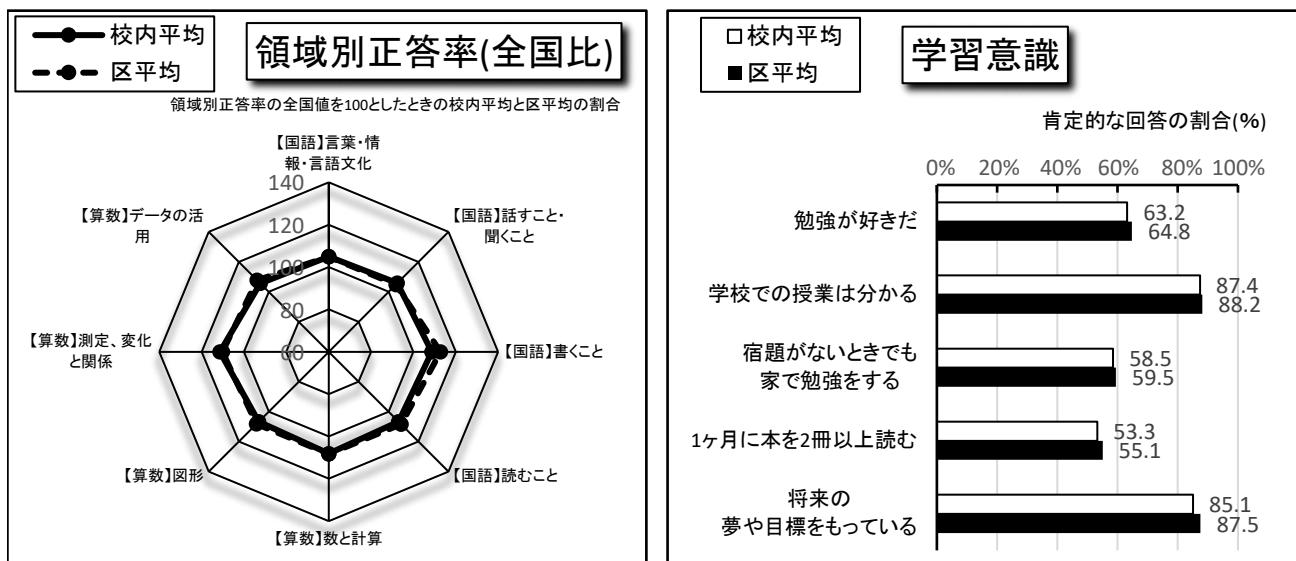
算数の学校全体の平均正答率は77.6%で、前年度から4.2ポイント上昇し、通過率も4.9ポイント上昇した。これは、昨年度の「振り返り」に焦点を当てた校内研究の成果であると考えられる。今後も習熟度別学習やA I ドリルの効果的な活用を継続し、さらなる学力向上をめざす。

意識調査の結果は概ね区平均と同水準であった。特に注目すべきは、「将来の夢や目標をもっている」児童が90%を超える、昨年度より11.7ポイントも上昇した点である。一方で、「1ヶ月に本を2冊以上読む」児童の割合が区平均を下回っている。このため、読書活動の推進に力を入れる必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードを軸に「わかる・できる」授業を実践し、基礎学力の確実な定着を図る。
- 校内研究のテーマ「進んで自分の考えを表現する児童の育成」(国語科)をテーマに、年間3回の研究授業を実施する。「対話的な学びの充実」に重点を置き、児童が主体的に思考し、表現する指導方法を研究する。
- 朝学習や放課後学習(国語・算数)を充実したり、A I ドリルを活用した小テストや練習問題で効果的に学習を支援したりする。
- I C Tを積極的に活用し、効果的な授業を展開する。
- 読書活動を促し、図書委員会や図書ボランティアによる読み聞かせを実施する。調べる学習コンクールへの参加も推進する。
- 開かれた学校づくり協議会やP T Aと連携し漢字検定への参加を促す。
- キャリア教育の充実を図り、児童が将来の夢や目標を明確に持てるよう支援する。○○教室のような体験的な活動を充実させ、社会性や実践力を育む。

西伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	86.1	85.2	86.4	88.9	85.6	84.4	88.0	88.0	83.7	82.7	87.5	81.9
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	85.8	82.3	79.8	84.5	90.3	93.5	85.9	83.8	86.7	73.3	85.9	74.1
平均正答率(R7)	78.6	79.8	85.6	87.0	84.6	85.8	82.0	79.1	69.2	78.7	75.5	69.7
平均正答率(R6)	76.2	77.3	86.8	87.7	88.4	91.1	72.8	77.3	68.8	71.8	66.7	61.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体として、目標としている通過率80%以上を達成することができた。さらに、昨年度と比較すると国語0.3ポイント、算数2.9ポイント上昇している。それに伴い、平均正答率も国語2.4ポイント、算数2.5ポイント上昇している。この結果から、昨年度から計画、実施している学力向上への取り組みや、日々の学習指導に一定の効果があったと考えられる。特に、体育健康教育推進校として、見通しや振り返りを重視した授業を実践したこと、児童に「委ねる」時間を意図的に設定したことなどが各教科の学習にもよい影響をもたらしたと考えられる。

しかし、学習意識の結果を見ると、肯定的な回答の割合が全項目において区平均を下回っている。特に「1ヶ月に本を2冊以上読む」、「宿題がないときでも家で勉強する」の項目の割合はどちらも50%台という結果になっており、読書の習慣と、自分で課題を設定し学習に取り組むことについての意識が比較的低いことが分かる。

以上の事から、本校の児童には、着実に学力を身につけている児童が多い一方、読書や学習習慣の定着に課題があると考えられる。

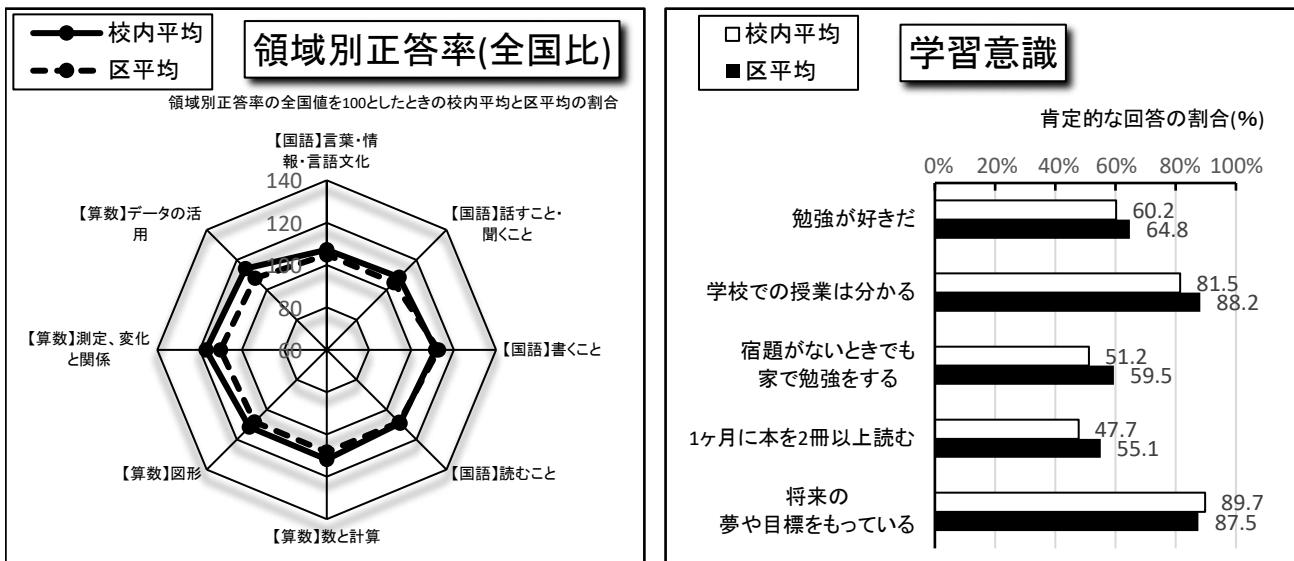
学校による学力向上への主な取り組み

上記の結果を受け、継続的に学力の定着と向上を図るために、授業では、昨年度に引き続き児童に課題や資料を選択させる「自由進度学習」や「課題選択学習」などの児童に委ねる時間の充実を図っていく。必要な情報や課題を選択し、計画的に学習に取り組むことで、自力解決をする力を育成していく。また、1単位時間当たりのICTの活用頻度を増やし、効率的に学習内容を定着させていく。

朝自習や家庭学習では、AIドリル、デジタルMIMを活用し、児童が自分の力に合わせて学習に取り組めるようにする。そして、基礎的・基本的な知識を習得できるようにしていく。

課題については、年に2回ある読書旬間を活用し、本を読む楽しさや、達成感を味わわせることで読書に取り組む習慣を身につけていく。また、読書カードに一言感想を記入する欄や保護者のコメント欄を設けることで、考えを言語化する機会を創出したり、家庭の関心を高めたりしながら、より効果的な取り組みとしていく。以上の取り組みを行い、上記の課題を解消し学力向上をめざしていく。

西保木間小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	89.6	93.4	85.3	94.3	95.7	95.7	85.7	92.9	89.7	93.1	95.2	90.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	83.1	82.3	86.4	100.0	67.9	71.4	84.6	96.2	94.1	70.6	87.1	74.2
平均正答率(R7)	80.6	83.4	85.6	86.9	89.0	89.3	80.6	79.6	71.3	85.2	78.9	75.9
平均正答率(R6)	74.0	77.9	86.8	90.2	81.8	86.3	76.3	83.0	68.4	72.5	63.0	63.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】2、5年生以外は、昨年度の通過率を上回ることができた。本年度の学校全体の通過率は昨年度と比較して、+6.5ポイントであった。課題である「書くこと」「読むこと」については、説明的文章の読み方、自分の考えの理由や根拠を記述する機会を増やすなど指導の工夫が成果をあげ、ほぼ区平均と同じである。

【算数】本年度の通過率は93.4%で、昨年度と比較すると+11.1ポイントであった。領域別でみると、課題であった「数と計算」「図形」は、繰り返し学習・課題解決型学習の指導の工夫が成果を上げた。テープ図・数直線等を活用し、根拠をもって立式するよう指導する。

【学習意識】本年度は4つの項目が区平均を下回った。昨年度と比較すると「将来の夢～」「宿題～」の2項目は、+数ポイントであったが、その他の項目は昨年度を下回った。特に「授業は分かる」は-7ポイントであった。今後も足立スタンダードを軸にした、一人ひとりの児童がわかる・できる授業を展開するように務めていくと共に、児童が自信をもって意欲的に生活が送れるよう指導・支援していく。

学校による学力向上への主な取り組み

学力推進委員会を中心に、指導改善を組織的に行う。また、家庭と連携し児童に家庭学習習慣と自主的に学習に取り組む力をつける。

【日々の授業改善】①足立スタンダードによる授業の実施 ②学習規律の定着 ③ICTを効果的に活用した授業の実施 ④AIドリルの積極的な活用 ⑤習熟度別指導の充実 ⑥ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくり ⑦算数「用語カード」の活用 ⑧管理職・教科指導専門員による授業観察と指導・助言 ⑨月1回の西保OJT研修会の実施 ⑩相互授業参観

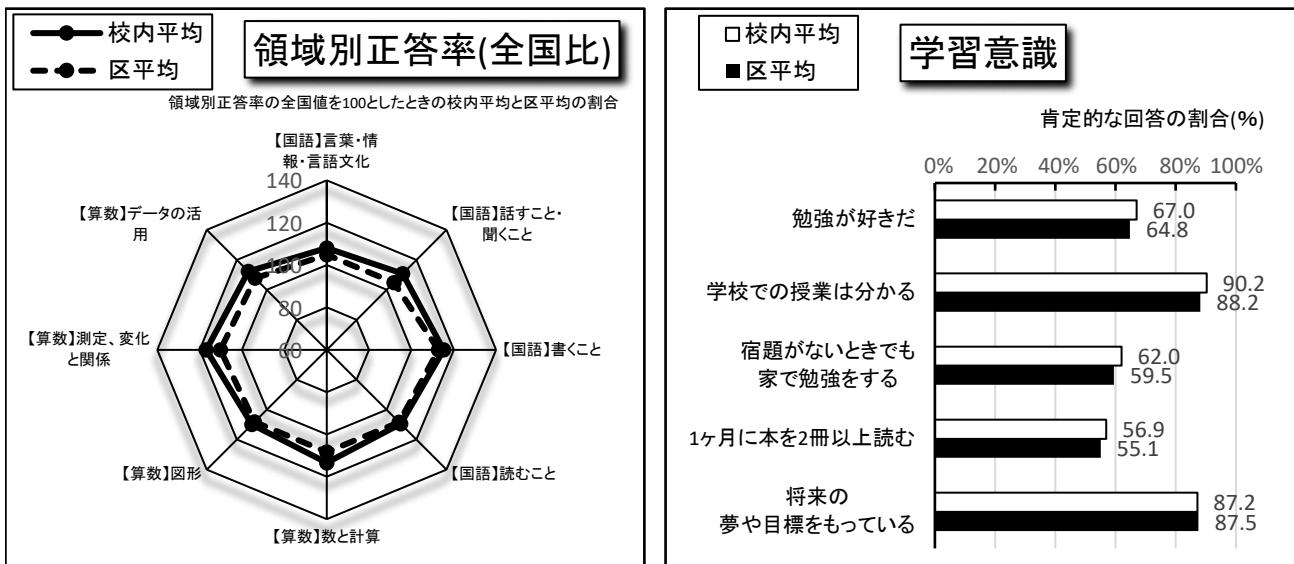
【補充学習】①月1回補充学習の実施 (学年全体のつまずきを解消する時間) ②週1回程度の放課後補充教室の実施 (副担任も指導) ③夏季休業中のサマースクールの実施 (10日間)

【朝学習】週3回の朝学習 (AIドリル2回・読むこと1回)

【家庭学習の充実】①年間3回の家庭学習週間 ②AIドリルの活用 (月300問)

【小中連携】研究主題「自分の考えをもち、表現する力の育成」①年2回の研究授業の実施 (小・中学校各1回) ②分科会による学習指導案作成と授業分析

花畠小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	90.9	93.2	81.8	93.2	94.4	97.2	96.2	94.2	88.1	88.1	93.5	93.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	87.9	90.1	100.0	91.9	83.3	80.0	79.5	90.9	89.1	93.5	90.2	96.1
平均正答率(R7)	81.1	82.8	86.1	88.5	88.1	92.1	86.3	81.9	70.0	80.4	78.4	75.3
平均正答率(R6)	76.2	80.6	92.2	89.6	85.5	87.2	72.7	80.0	68.8	78.2	68.1	72.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【通過率および平均正答率】学校全体の国語の結果は前年度比、通過率+3.0ポイント、正答率+4.9ポイントである。3年以上の通過率について経年比較すると3年生以外は前年度を上回っている。算数は、通過率+3.1ポイント、正答率+2.2ポイントである。通過率は90%まで達しているが平均正答率は低い。目標値周辺の正答率の児童が多いことによる。目標値に到達しなかった児童だけでなく、目標値周辺層の児童への指導も充実させる。

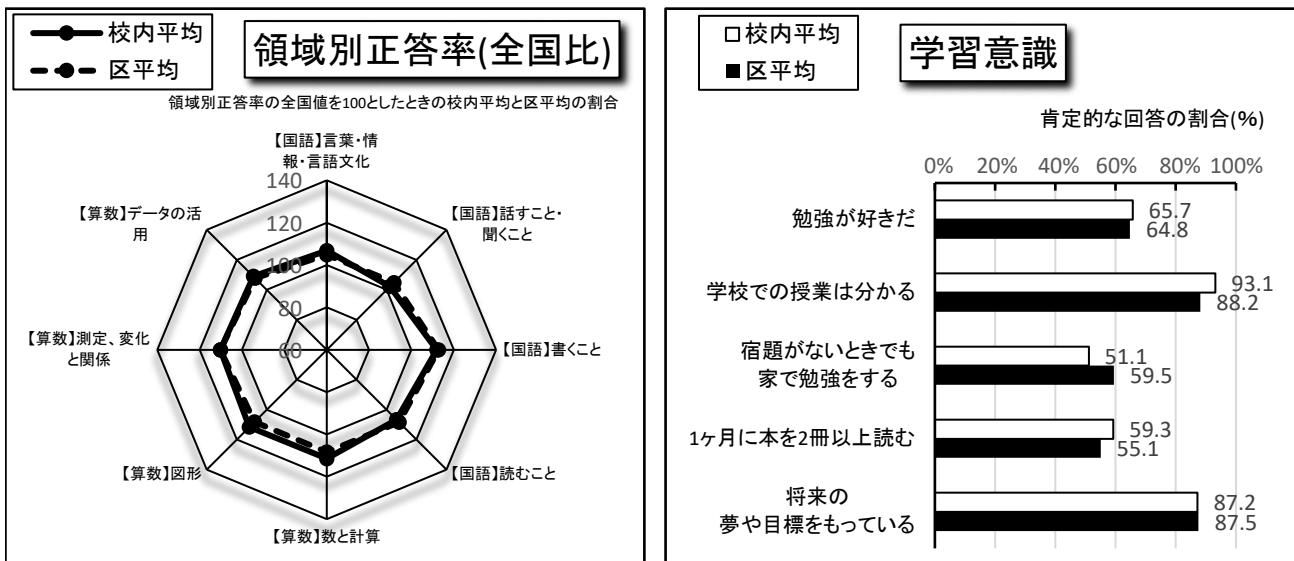
【領域別正答率】国語は「言葉・情報・言語文化」の正答率が区平均同様低い。漢字の反復学習や国語辞典・漢字辞典の活用、慣用句やことわざに親しむ機会を多く設定し児童の語彙や知識を増やす。算数は「図形」の正答率がやや低い。垂直・平行など図形に関する用語の理解を定着させる。また、作図をする機会を増やし図形の特徴や性質についての理解を深めていく。

【学習意識】「将来の夢や目標をもっている」以外の項目で区平均を上回っている。課題であつた「1ヶ月に本を2冊以上読む」が前年度比+5.6ポイントとやや成果が見られた。引き続き、読書活動の推進や授業における学校図書館の活用に学校全体で取り組んでいく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 授業改善…「足立スタンダード虎の巻」に基づいた授業を実践する。タブレット端末を効果的に活用し、児童同士で意見を交わしながら課題解決に取り組む協働的な学習に取り組む。
- 朝学習(15分間)…水・金曜日は、プリントやA I ドリルを用いてつまずきの多い内容についての遡り学習や反復学習、音読、マス計算などをを行う。月曜日は読書に取り組む。
- 補充学習(放課後・長期休業中)…学習内容の定着が不十分な児童を対象に、A I ドリルなどを活用して個別指導を行い、つまずきの早期解消を図る。
- 学びタイム…1～3年生は週1時間、4～6年生は月2～3時間、自分の学習進度に合わせた学習や課題克服のための学習、調べ学習などに主体的に取り組む。
- 読書活動…年間目標冊数やページ数を低・高学年で設定し、児童自ら記録する。6、11月を読書月間とし、学校図書館ボランティアなどと連携して推進活動を行う。
- ニュース見つけた…4～6年生が興味のある新聞記事を要約し、考えをまとめ発表する。
- 家庭学習…1～3年生は30分、4～6年生は「10分×学年」の学習に毎日取り組む。

花畠第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.1	89.8	94.0	98.0	92.3	100.0	86.4	98.3	77.5	74.6	92.5	85.2
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.4	88.7	82.4	96.1	86.7	98.3	76.5	80.0	85.7	84.5	90.0	88.6
平均正答率(R7)	77.5	79.6	86.7	91.5	88.0	92.6	81.1	83.7	64.4	71.1	76.8	71.5
平均正答率(R6)	74.5	78.2	86.7	90.3	88.1	92.4	67.8	76.2	70.1	75.1	68.1	66.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】全体の平均正答率は、77.5%で、昨年度比で3ポイント上回った。また、通過率も昨年度より3.7ポイント上回った。話すこと・聞くことに関する問題では、何について問われているのかやメモの取り方に課題があると考える。言葉・情報・言語文化の領域において、どの学年も未定着の児童が一定数見られる。パワーアップタイムなどで、メモの取り方や何を問われているのかを考えるための手がかりとなるキーワードなどを押さえ、語彙力・読解力の向上に一層努めていく。

【算数】全体の平均正答率は、79.6%で、昨年度比で1.4ポイント上回った。また、通過率も自校の昨年度より1.1ポイント上回る結果となった。見直しの徹底や足立スタンダードに基づいた授業を展開し、活用の時間を確保してきたことが数値に表れていると考える。

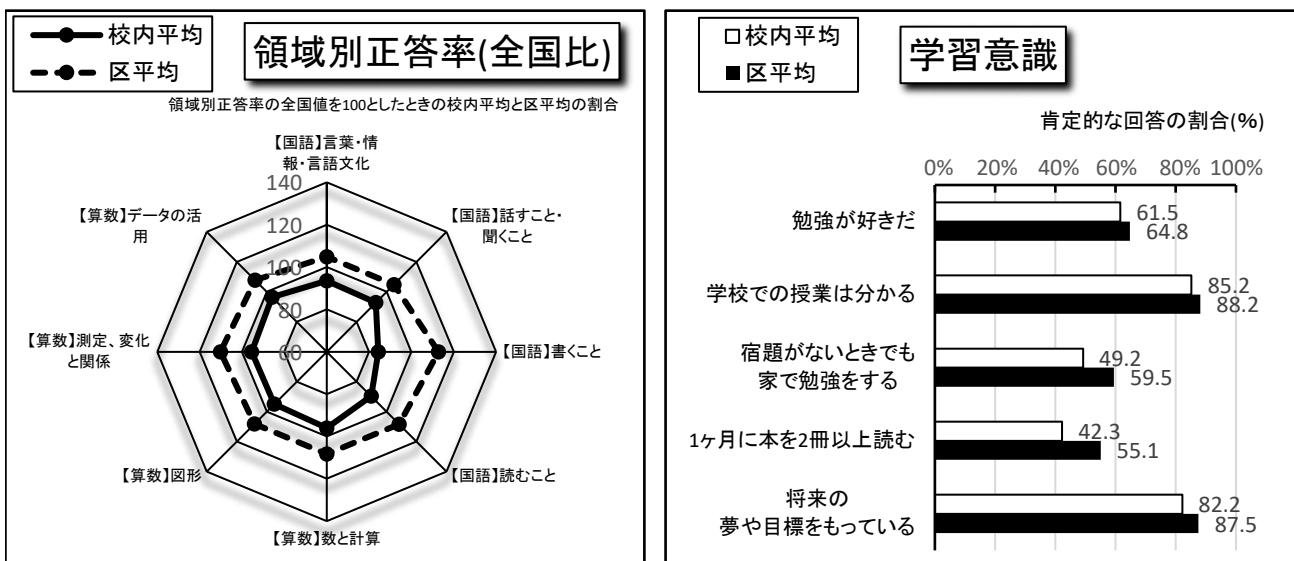
【意識調査】「学校での授業は分かる」が今年度も90%を超える全教員が授業力向上に努めている成果の表れと考える。また、ここ数年、読書への興味・関心に関する質問において区平均を下回っていたが、図書館支援員との連携や学校図書館の活用の更なる推進、読書カードの工夫や蔵書の充実等を図ったことで、区の平均値を4.2ポイント上回ることができた。

学校による学力向上への主な取り組み

◆教師の授業力向上への取り組み

- OJTのペア、グループを編成し、学習指導案検討・授業観察・事後指導を通して、足立スタンダードに沿った授業実践・改善に全教員で取り組む。校内研究で、算数の指導法を研究し、授業力向上を図る。
- 授業でのICTの効果的な活用法を学ぶ研修や情報交換を行い全教員の活用力向上を図る。
- ◆パワーアップタイム・ステップアップタイムへの取り組み・放課後補充学習の実施
- 週に1時間、国語・算数の基礎的基本的な学習の定着の時間を設定し全教員で指導を行う。
- 長期休業日前に、学力定着度テストで該当学年の学習内容の定着を確認し、実態に応じて補習計画などを見直し、実施する。また、該当学年の内容について未定着項目が多い児童を対象に、放課後や個人面談期間、長期休業中に補充学習を行い、ボトムアップを図る。

花畠西小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	68.6	67.0	47.1	76.5	62.5	59.4	83.7	79.6	62.7	63.5	77.8	57.4
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	69.7	78.4	58.1	90.3	89.7	97.4	51.0	79.6	77.4	64.2	71.7	69.6
平均正答率(R7)	67.4	68.3	70.7	80.8	75.1	74.0	75.2	72.8	55.4	67.6	67.7	56.2
平均正答率(R6)	68.0	71.0	78.8	88.3	87.7	91.8	56.4	69.2	62.7	65.1	63.8	55.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】すべての学年において、「書くこと」の領域に課題があった。4層分析の結果から、4年生は、一部の児童が未定着であるため、個別指導を充実させる必要がある。2、3、5、6年生は、定着度に二極化傾向が見られるため、児童の理解度に合わせた習熟度別指導が必要である。2～4年生は、「書くこと」の領域の設問において無回答が散見された。5、6年生は、昨年度より無回答率が減少している。

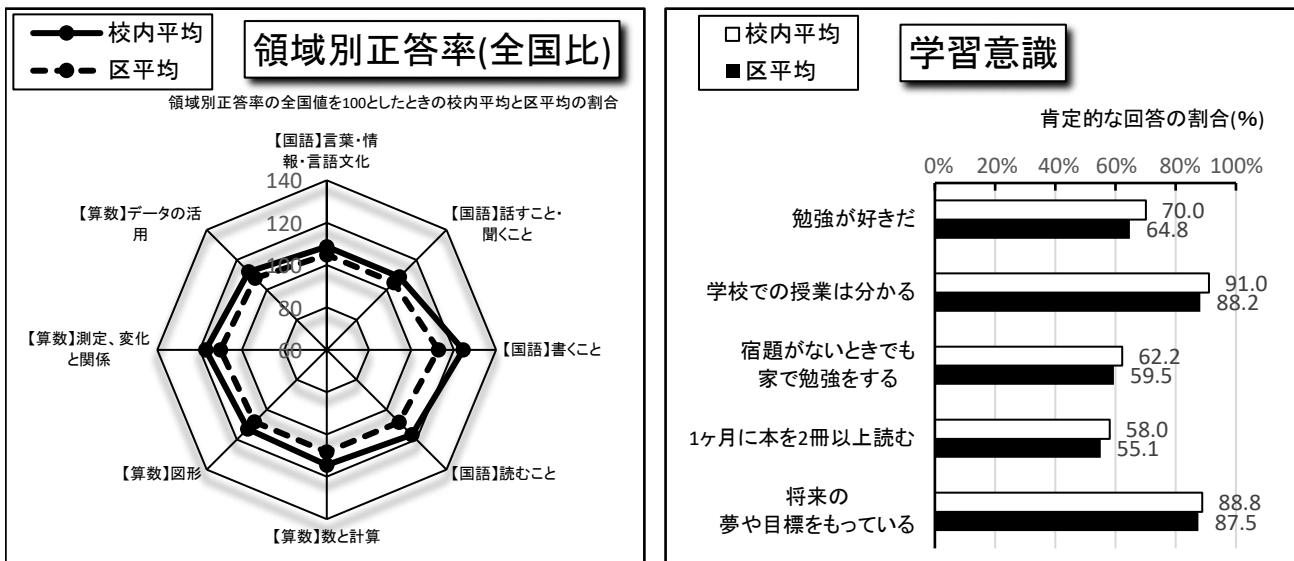
【算数】4層分析の結果、すべての学年において、一部の児童は、学習内容が十分に定着していないことが明らかになった。本調査の設問を理解するために必要な基礎的・基本的な学習内容を個別指導で徹底的に行う必要がある。中央値の結果から、国および区と大きな差がある単元は、2、3年生は平面図形、4年生は整数の計算、5年生は平面図形・立体図形、6年生は小数の計算及び割合・百分率・歩合であった。

【意識調査】意識調査の結果から、低学年の段階から、難しいことでも、失敗をおそれないで取り組むことを支援していく必要があることが分かった。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードを基にした授業改善の取り組み
 - 国語科「書くこと」の授業において、児童の理解度に合わせて「事柄の順序に沿った構成」、「段落の相互関係をふまえた構成」、「自分の意図を反映させた構成」といった学習カードを使用するなどして、習熟度別学習に取り組み、書く力を育む。
 - 算数科では、児童の状況を的確に把握することを意図し、「机間指導の視点」についてすべての教員が理解を深め、指導に当たる。また、小集団指導やヒントカードおよび指示カードなど、児童の立場に立った的確な指導を行う。
- 児童の課題を直接的に解決する取組
 - 国語科については、始業前の朝学習で「短作文」を実施し、短い時間で、自己の考えを書く習慣を身につける。設間に応じた解法について指導する授業を、月に一度実施する。
 - 算数科については、放課後の「学習タイム」で本調査の問題を活用し、定着が十分でない単元に焦点を絞り、一定期間徹底した個別指導を行う。

花保小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.9	93.2	92.3	98.9	93.0	97.2	91.1	93.7	91.9	89.5	91.4	85.7
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	89.1	87.7	89.0	90.7	89.2	91.6	94.3	90.9	89.2	87.8	82.9	75.7
平均正答率(R7)	83.0	83.9	89.0	92.9	90.3	90.1	85.9	82.4	75.9	83.9	77.0	71.0
平均正答率(R6)	78.7	79.5	90.4	91.2	87.6	91.4	80.1	81.9	72.9	75.4	65.8	59.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○領域別正答率はすべての項目において区平均より上回る。めあてをしっかり理解させ、児童にとって分かりやすい授業が行えた成果だといえる。特に算数では、全ての領域において、前年度よりも正答率が上がっている。朝学習で計算問題に取り組ませ、全校で毎年継続して続けている「九九検定」によって基礎・基本が身についてきた成果と考える。また、つまずきが大きいところは丁寧にくり返し復習させた。国語では、「書くこと」「読むこと」の領域において、前年度よりも正答率が上がっている。毎日の家庭学習での取り組みや朝学習での日々の積み重ねの結果ではないかと考える。

○平均正答率は前年度よりも全ての学年で国語もしくは算数において上回った。前年度課題となつた学習を丁寧に指導し、復習をしっかり行ったことで児童の基礎学力が定着し、正答率が上がったと考える。

○学習意識では、「学校での授業は分かる」と回答した児童が91%と区平均を2.8ポイント上回った。足立スタンダードに基づいた授業を展開し、課題解決型学習を行った成果と考える。

学校による学力向上への主な取り組み

○朝学習を週3回実施し、漢字やAIドリルを活用した算数、音読、読書に取り組む。これらの内容は水曜日5時間目「花保ステップタイム」でも行い、基礎・基本の確実な定着を図る。

○前学年・現学年の漢字や計算確認テストを年8回行い、基礎学力の定着を図る。

○2年生以上は、九九暗唱検定(100秒以内)を行う。1回で合格できなかった児童は、年2回更新検定を行う。

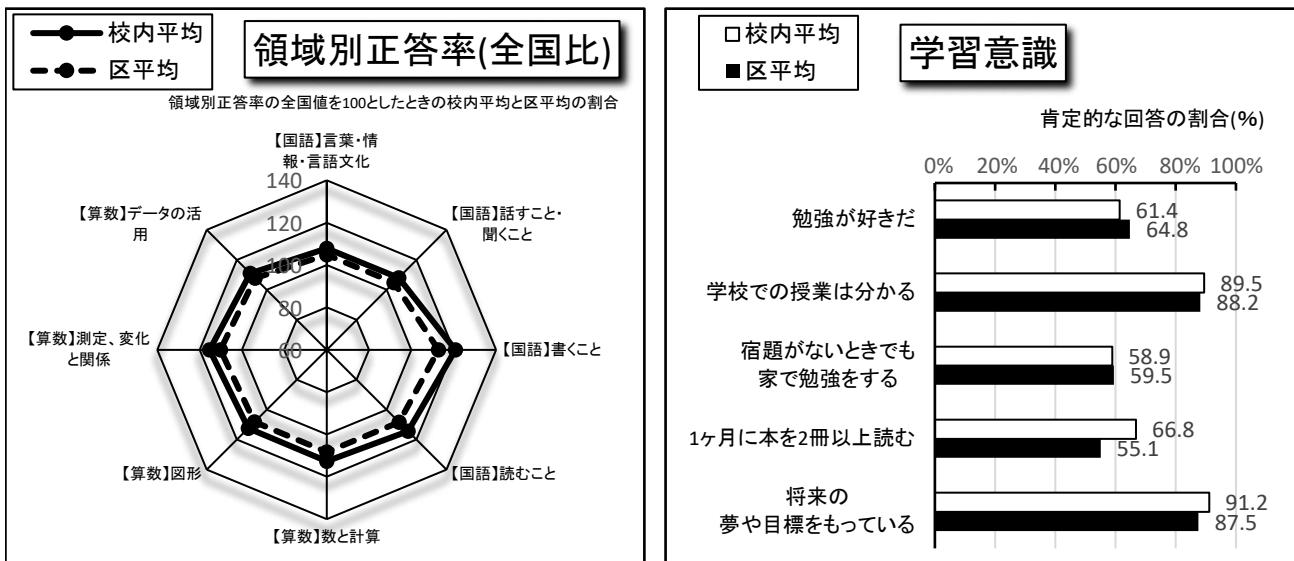
○学習内容の復習および基礎学力の定着が十分ではない児童の個別指導を放課後などに行う。

○家庭学習の時間を10分×学年以上を原則として宿題に取り組ませ、家庭学習の習慣化を図る。内容は、国語や算数、音読、自主学習を行う。なお、自主学習(2年生以上)については、調べ学習の他に、苦手な学習や力を伸ばす学習など、児童の主体性を大切にしている。

○夏季チャレンジ教室を夏季休業中の10日間実施し、基礎学力の定着を図る。児童のつまずきに合わせた学習内容を行う。

○M I M指導を1年生は月2回、2年生は月1回実施する。

東綾瀬小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.2	91.0	90.5	97.7	96.9	100.0	94.4	93.0	86.7	82.7	88.8	82.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	90.2	86.8	98.4	100.0	91.9	87.8	87.3	91.4	88.9	78.3	86.1	80.0
平均正答率(R7)	81.7	82.5	88.8	93.4	91.6	93.0	84.3	81.0	72.2	78.2	76.5	71.5
平均正答率(R6)	79.2	79.7	94.7	95.8	88.7	89.1	74.8	80.8	73.6	75.0	71.0	66.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語、算数とともに5学年で通過率は区平均を上回っている。昨年度と比べると国語は1ポイント算数は4.2ポイント上回った。

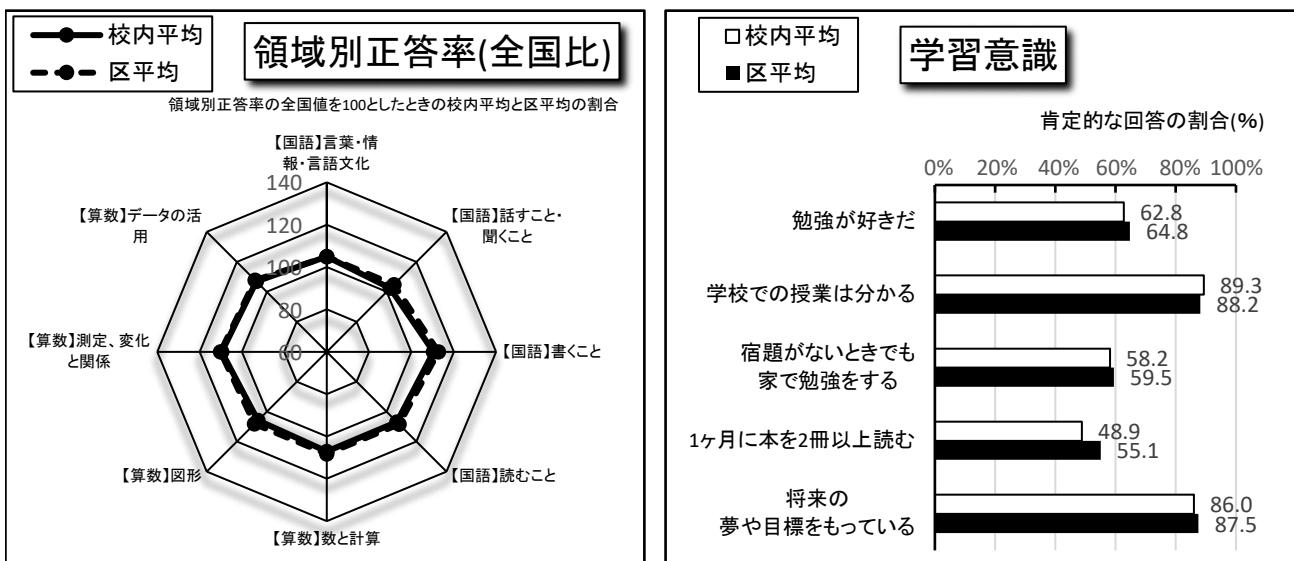
- 6年生…国語は区の通過率を1.5ポイント上回り、算数は4.9ポイント上回る。
- 5年生…国語は区の通過率を0.4ポイント上回り、算数は0.1ポイント下回る。
- 4年生…国語は区の通過率を6.3ポイント上回り、算数は4.6ポイント上回る。
- 3年生…国語は区の通過率を9.4ポイント上回り、算数は9.7ポイント上回る。
- 2年生…国語は区の通過率を3.3ポイント上回り、算数は5.3ポイント上回る。

算数では、個別指導により基礎的・基本的な内容の定着を図ったり、数直線を活用して立式の根拠を理解させたりすることが必要である。意識調査では、3項目が区平均より上回っている。「1ヶ月に本を2冊以上読む」では区平均を11.7ポイント上回った。朝読書の取り組みが成果として表れている。一方で、「勉強が好きだ」「宿題がない時でも家で勉強をする」が区平均を下回っているので、児童が学ぶ楽しさを味わえるように、授業改善を図っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ショートパワーアップタイムの実施：毎日昼の15分間、国語・算数の基礎・基本の定着を図るために、A I ドリルも積極的に取り入れている。
- 学力調査、ベーシックドリル、ワークテストの分析と見直し：結果を分析して児童の実態を把握し、授業改善や個別指導の充実を図る。ワークテストの結果をポートフォリオにまとめ、個人面談などで活用する。
- 家庭学習の充実：各学年、学年×10分を目安に家庭学習を行う。学習カードを用いて、計画・記録・振り返りを行うとともに、自分で学習内容を決める自主学習にも取り組む。
- 児童アンケートの実施：隔月で学習に関する児童アンケートを実施し、児童の実態を把握して授業改善に活かす。
- 教員の授業力の向上：足立スタンダードを基本とした問題解決的な学習を実施する。ミドルリーダー研修やスキルアップ研修を行うことでO J Tを充実させ、教員の指導力を向上させる。

東伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.6	87.1	90.5	94.0	84.4	87.5	86.3	93.2	89.8	83.7	87.0	79.3
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.1	85.3	81.4	90.7	85.1	87.8	87.0	82.0	83.7	79.1	83.5	86.7
平均正答率(R7)	77.7	78.5	86.8	89.7	85.9	87.2	80.7	78.0	69.5	77.8	71.1	63.9
平均正答率(R6)	74.7	76.7	87.0	90.4	84.8	88.5	72.4	76.4	67.4	70.0	67.4	65.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語・算数】昨年度と比較して、国語の全体通過率は3.5ポイント、算数の全体通過率は1.8ポイント上昇した。経年変化で見ると、国語の通過率では、昨年度を下回った学年はなかった。算数の通過率では、3年生が昨年度を下回っている。しかし、問題が難化する中、大幅にポイントは下降していないため少しづつ基礎・基本の学力が定着してきていると考えられる。国語の領域別では、「言葉・情報・言語文化」「読むこと」が区平均と同程度であるので、言語指導や要旨を捉える学習活動を増やしていく。算数の領域別では、「数と計算」「図形」の領域に課題が見られるため、反復して取り組み学習内容の定着を図っていく。

【学習意識】大幅に区の平均を下回っている項目はない。しかし、4つの項目で区平均を下回っている。特に「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目が一番大きく下回っている。「ひがし学習月間」「読書旬間」の取り組みをしているが、図書支援員と連携を図り、自主学習や調べ学習を支援していく必要がある。「授業が分かる」の項目では、昨年度より2ポイント以上昇しているので、授業改善の効果が出ていると考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

○朝のパワーアップタイム

国語と算数の基礎力向上を目指し、漢字練習や計算練習、読書を行っている。A I ドリルも活用している。

○放課後ステップアップ教室

既習事項につまずきのある児童を対象に、つまずきに即した補充プリントを用意するなどして、つまずきの解消を目指している。A I ドリルも活用している。

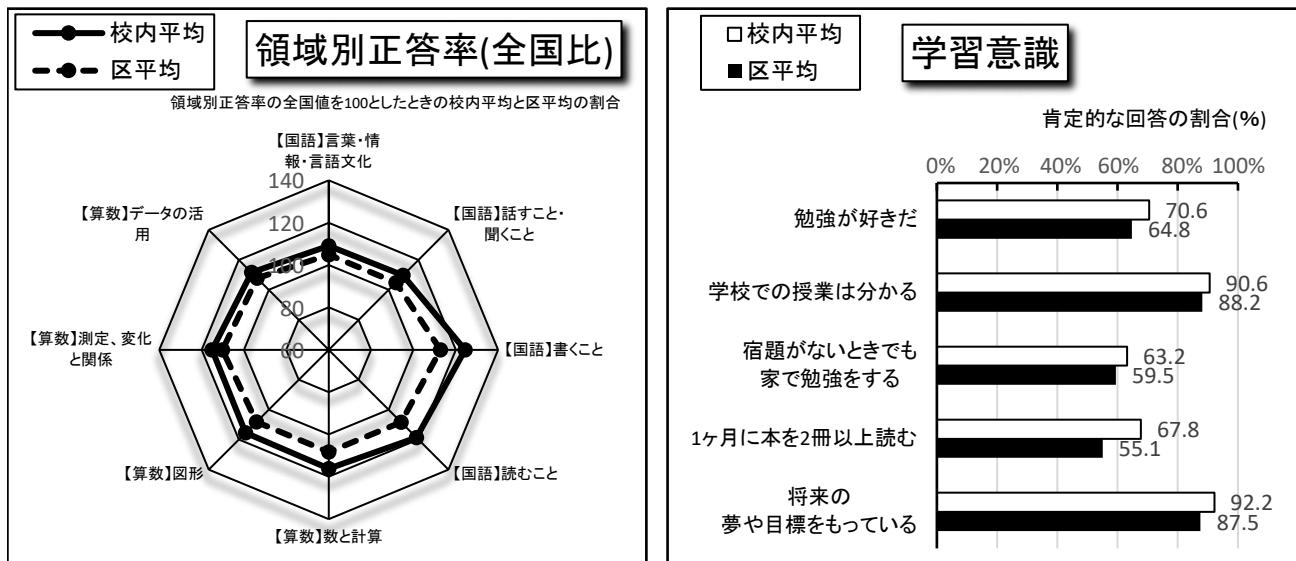
○自主学習の推進

年間を通して、自主学習に取り組んでいる。授業の復習に取り組むだけでなく、自分で課題を設定し調べる学習も行い、様々な分野への関心を深めようとしている。

○校内研究の充実

校内研究として、全教科で自由進度学習を取り入れた授業作りを通して、主体的に学ぶ児童の育成を目指している。基礎・基本の定着だけでなく、思考力や表現力の育成も図っていく。

東加平小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	95.5	93.7	94.3	95.5	95.5	96.6	96.9	94.8	96.8	92.5	93.4	88.2
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	92.9	90.8	94.4	98.9	94.3	94.3	96.8	96.8	92.0	88.0	87.3	76.5
平均正答率(R7)	83.7	84.8	90.1	92.5	90.2	91.7	87.3	84.5	75.0	82.4	78.7	74.1
平均正答率(R6)	81.1	82.6	93.6	95.6	90.2	92.1	82.1	86.3	74.2	80.1	69.6	64.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

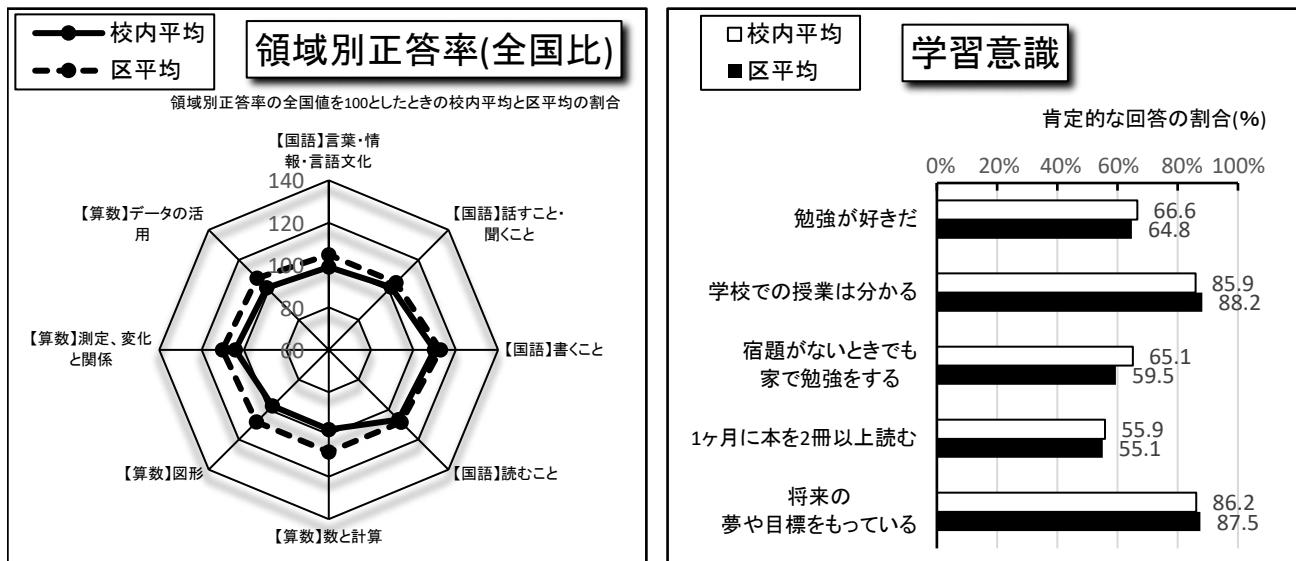
「学習定着度調査」分析結果

- 国語: 学校全体の通過率は95.5%となり、R 6年度より2.6ポイント増加した。領域別正答率は、全項目で区の平均を上回っている。特に「書くこと」の領域では全学年で区平均と比較して11ポイント以上高くなっています。足立スタンダードに基づいた授業の改善、課題の設定、発問の工夫などを行った成果が表れた。今年度は「言葉・言語文化」のさらなる向上を図るため、漢字や文法などの言語指導を重点的に行う。
- 算数: 学校全体の通過率が93.7%となり、R 6年度より2.9ポイント増加した。観点別、領域別ともに正答率は、全項目で区の平均を上回っている。今年度も引き続き、個別指導やパワーアップタイムで、基礎的な計算から標準的な問題演習を行うとともに、通過率が向上するように、基礎・基本の定着を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダード虎の巻の徹底 (指導者 担任+専科) : 授業では足立スタンダード虎の巻を全教員が実施する。「めあて」の掲示、黒板の三分割、チョークの色指定、児童は見開きでノートを使用するなどのノート指導を徹底し、全学年一貫した指導を行う。
- 個別指導 (指導者 担任+専科) : 少人数のグループで学習を行い、既習内容の習熟や区・全国の学力調査、ワークテストでつまずきが多い内容、発展的な学習など習熟度に応じた内容に取り組む。
- パワーアップタイム (指導者 担任) : 木曜日を除く週4日間の清掃終了後、10分間のパワーアップタイムを設定し、A I ドリルやプリントを活用して計算や漢字などの基礎・基本の学習に取り組み、基礎・基本の学習内容の定着を図る。
- 寺子屋タイム (指導者 担任+専科) : 毎週木曜日の放課後に既習内容に関して、習熟、定着していない内容の補習を行う。
- コツおはカード : 每月2週目に生活習慣と家庭学習の内容と時間を家庭で記入してもらい、規則正しい生活と家庭学習の習慣化を促す。学習時間は低学年30分、中学年45分、高学年60分を設定している。

東栗原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	80.6	73.5	86.4	93.2	78.5	75.4	76.9	73.1	81.7	66.7	80.9	61.7
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.9	80.8	87.1	95.2	83.0	79.2	86.2	82.8	86.5	73.1	81.8	73.1
平均正答率(R7)	75.7	72.6	87.3	89.9	80.3	79.7	74.0	67.4	68.3	68.5	72.7	62.1
平均正答率(R6)	73.7	74.5	87.4	90.3	84.1	86.9	73.0	77.8	68.9	69.3	61.6	56.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率（全国比）】国語は全ての領域で区平均とほぼ同等又はやや下回っている。

「言葉・情報・言語文化」の領域の数値が低いので、物語や説明文の学習で言葉の使い方や表現の仕方を確認し、授業に加えて朝学習や家庭学習で定着を図る。算数は全ての項目で区平均を下回っている。特に「数と計算」「図形」の領域で数値が低いため、A I ドリル等で反復練習を行ったり、具体物やI C Tを操作する体験的理理解を取り入れた授業を行ったりしていく。

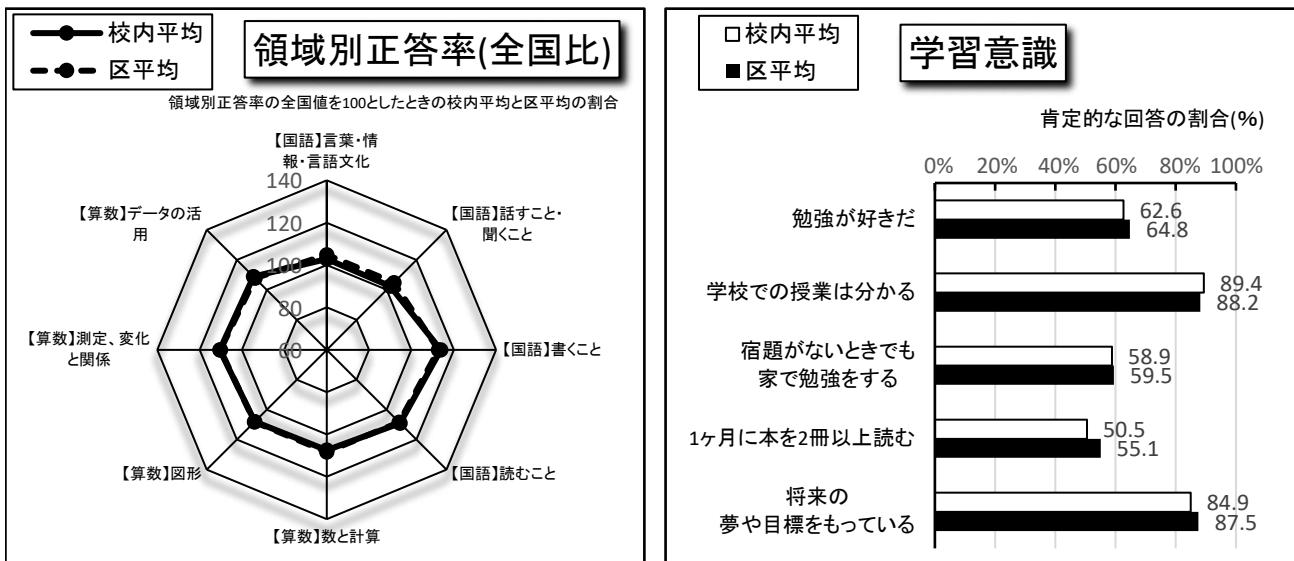
【通過率】国語・算数とともに、昨年度より通過率が低くなっている。特に4年生以上の算数が大きく下がっている。S P表を見ると、学年によって中間層の誤答の仕方の傾向が異なっており、苦手な設問が明確な学年と、誤答した設問が不揃いな学年とがある。それぞれの学年の傾向に合わせて対策をしていく必要がある。

【学習意識】「学校での授業は分かる」の数値が昨年度よりも低くなってしまっており、区平均を下回っている。日々の授業改善を行い、児童の学習意欲を高めていく。また、授業での理解が学力調査等の結果にも反映されるように定着を図っていく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダード虎の巻を基にした指導…全教員が足立スタンダード虎の巻を基にした指導を6年間継続して行い、児童が分かる授業を行う。
- パワーアップタイム…週3日朝学習の時間を設定し、基本的な計算、漢字の書き取り等の反復練習を繰り返し行うことで、基礎的な学力を着実に伸ばしていく。
- 読書タイム、読書週間…週1日朝読書の時間を設定している。また、年2回2週間、読書推奨期間を設け、読み取り学習の充実を図る。読書推奨期間には貸し出しの冊数を増やし、本に親しむ児童を育てていく。
- A I ドリル「Qubena」の活用…授業進度に合わせて精選したA I ドリルの問題（学級担任が作成したワークブック等）に、授業に加えて朝学習・家庭学習等で積極的に取り組む。
- 放課後学習教室…週に1日1年生から6年生まで補充学習を実施することで、学習している単元の内容を確実に定着させる。
- サマースクール…夏休みに10日間実施し、苦手部分のある児童への個別学習指導を行う。

東渕江小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.6	87.1	88.2	97.4	92.1	94.7	83.1	85.7	81.6	82.8	84.1	77.3
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.4	85.2	82.1	97.4	83.8	86.3	82.4	84.7	83.5	81.2	89.9	78.0
平均正答率(R7)	77.3	78.9	86.6	89.8	86.5	89.0	78.3	76.7	68.1	76.8	72.9	67.8
平均正答率(R6)	75.6	77.5	88.3	92.1	86.4	86.9	71.3	78.7	67.8	76.1	69.6	60.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】昨年度よりも学校全体の通過率は1.2ポイント、平均正答率は1.7ポイント上回った。区の平均正答率と比較すると、4～6年生は、5年生の「読むこと」を除き、全領域で0.3～5.3ポイント下回っていた。「言葉・情報・言語文化」では、3年生が区平均を0.5ポイント下回っていた。特に漢字の読み書きについての課題が見られる。

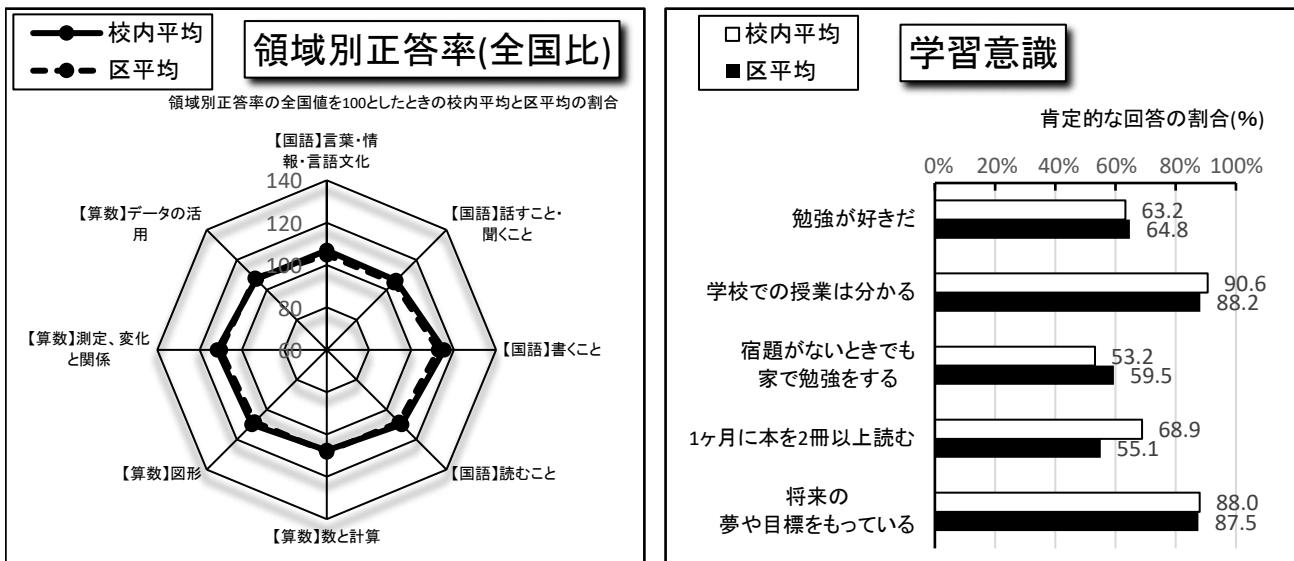
【算数】昨年度よりも学校全体の通過率は1.9ポイント、平均正答率は1.4ポイント上回った。「データの活用」では、2～3年生、5～6年生で区の平均正答率を0.5～4.9ポイント上回っていた。一方で、「数と計算」では、3～5年生が区平均を0.2～3.5ポイント下回っていた。同領域において、2～4年生は繰り上がり、繰り下がりのある加減法、5・6年生は小数、分数の計算が区平均を下回っており、今後の課題である。

【意識】昨年度、課題が残った「1ヶ月に本を2冊以上読む」は、今年度も区平均を下回るものとの、前年度比を2.3ポイント上回った。図書館支援員と連携を図り行った展示やイベントなど読書活動を促進する取り組みが成果につながった。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・校内学力研究プロジェクトを中心に、区調査や単元末テストの分析を行い、学年や学級、さらに個の課題を明確にし、個別最適な学びの保障の実現に向けた取り組みを推進する。
- ・校内研究の教科を算数にしぼり、「児童が意欲的に学びたくなる指導の工夫」をテーマに、全教員で学習指導案検討をして指導法や手立てを考え、授業に活かす。
- ・A I ドリルの活用…単元末の習熟、モジュール、家庭学習などで積極的に活用する。
- ・サマースクール…リモートや自宅で実施する。
(低学年) 日頃の学習状況をもとに抽出した児童を対象に、補充プリントやA I ドリルを活用し、自宅でつまずきの多い単元の復習ができるようにする。
(中学年) 区調査の結果や日頃の学習状況から児童を抽出し、夏季休業中の10日間で補充プリントやドリル、A I ドリルを活用し、つまずきに応じた指導を行う。
(高学年) 学力調査の結果から児童を抽出し、夏季休業中の5日間でA I ドリルを活用した指導を行う。

平野小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.6	86.9	96.3	98.8	86.9	91.9	87.5	86.4	90.1	84.6	81.5	74.1
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	84.8	85.9	80.6	87.0	82.5	87.5	89.8	93.2	79.8	73.8	90.2	87.8
平均正答率(R7)	79.9	79.1	89.3	93.2	86.9	90.1	80.9	76.2	74.5	78.8	73.8	63.8
平均正答率(R6)	76.7	79.0	85.5	88.1	85.9	90.8	76.6	80.4	67.9	71.0	72.7	70.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

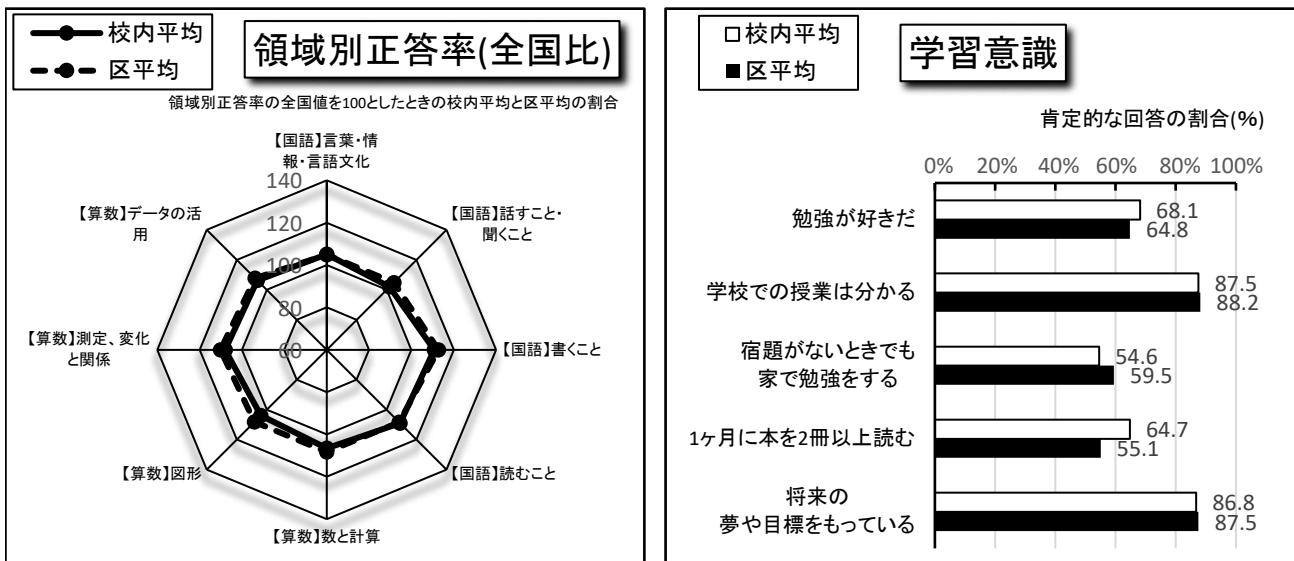
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率は、昨年度と比較して、国語は3.2ポイント、算数は0.1ポイント上がった。通過率においても、国語は3.8ポイント、算数は1ポイント上がった。しかし、各学年の結果を細かく見ると、2・3年生は算数よりも国語、4・5・6年生は国語よりも算数に課題をもっている児童がいることが分かる。
- 全体的に、国語では「書くこと」および「読むこと」、記述式の解答率が低い傾向がみられる。日記や学習感想等を書く活動を通して、記述することへの苦手意識を低くしていく。また、読解問題演習を積み重ね、各学年の物語文や説明文の単元で文章の大変な部分を正しく読んだり書き取ったりする活動を大切に指導していく。
- 算数の観点別では「思考・判断・表現」、領域別では「図形」および「データの活用」の正答率が低い傾向がみられる。基礎的な知識及び技能を確実に身につけさせ、問題場面に合う解法を選択できる判断力や自分の考えを文章や図で表現できる力を伸ばせるよう既習事項を丁寧に振り返る時間や少人数グループで発表し合う活動を取り入れた授業を展開していく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全児童を対象に「平野スキルアップタイム」を昼休み後に設定し、毎日10分間の補習を実施する。国語の長文読解演習や算数の計算演習を重点的に行い、基礎学力の定着をめざす。
- 週2日間「朝学習」を設定し、国語および算数の基礎学力向上をめざす。
- 区調査で目標値に達しない児童を対象にした長期休業中(夏・冬)の補充教室を実施する。
- 中学年における「そだち指導員」によるきめ細やかな個別指導の実施する。
- 低学年を対象に「M I Mアセスメント」を実施し、基準点に未到達の児童に対して個別指導を実施。「語彙力」を高めるとともに、「読む力」の基礎を固める。
- 毎週水曜日の朝読書や読書旬間・月間を設け、読書に親しませ、「読む力」を向上させる。
- 足立スタンダード虎の巻を基に授業展開し、問題解決型の学習を実践する。
- 家庭学習の徹底(10分×学年+αをめやすに取り組ませる)。
- 全学年において、毎日の宿題等でプリントやA I ドリルを活用した個別最適化された問題に取り組むことを通じて、学校と家庭間で切れ目のない指導を行い基礎学力の定着をめざす。

渕江小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.5	83.8	84.3	92.3	94.5	94.5	80.0	78.3	90.9	89.1	78.2	65.5
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	79.6	81.0	87.9	98.3	80.0	81.7	86.0	86.0	71.4	62.5	72.4	75.9
平均正答率(R7)	78.5	77.5	85.1	88.3	90.2	91.5	75.4	69.6	76.1	82.4	69.2	61.3
平均正答率(R6)	72.3	75.9	89.2	94.6	82.9	86.3	74.8	78.0	60.1	65.9	60.2	59.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

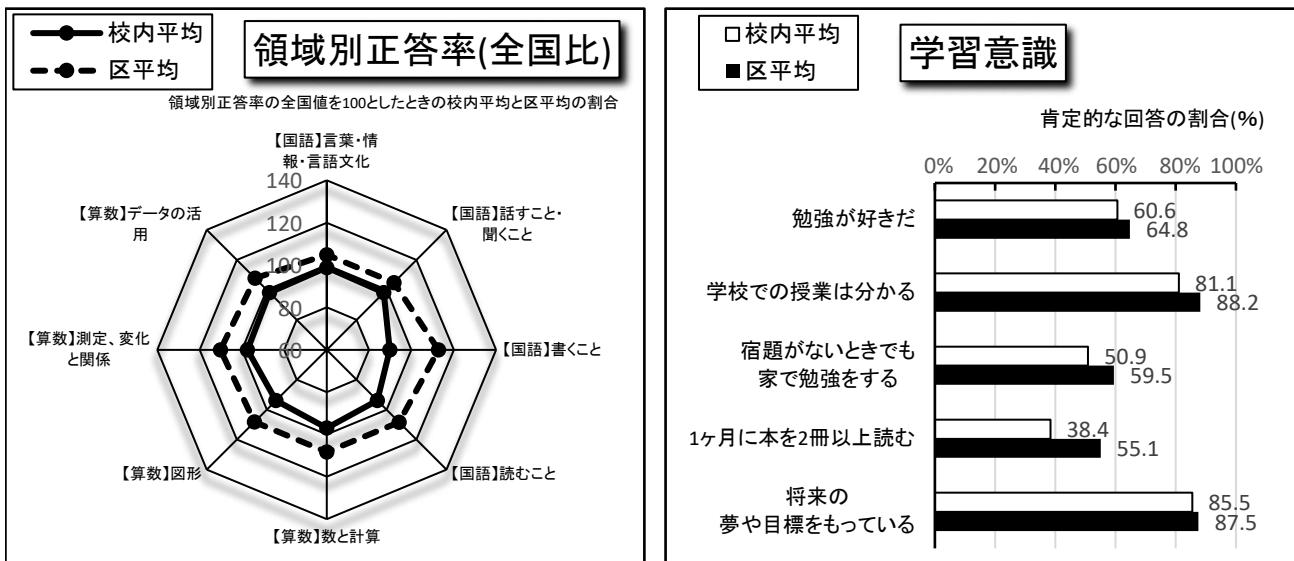
「学習定着度調査」分析結果

- 通過率は国語では85.5%で、昨年度の79.6%と比較して5.9ポイント上回った。算数では83.8%となり、昨年度の81.0%と比較して2.8ポイント上回った。領域別正答率は、国語、算数とともにそれぞれの領域で区平均をやや下回っている。特に、国語の「話すこと・聞くこと」を今後の指導の重点とし定着させる。
- 通過率80%を下回ったのは、4年生算数78.3%、6年生国語78.2%、算数65.5%となっている。6年生の国語は、昨年度の5年生時と比較して通過率が6.8ポイント上回った。算数は、通過率が3ポイント上回った。指導の成果であり、引き続き定着を図る。
- 学習意識では「勉強が好きだ」「1ヶ月に本を2冊以上読む」が区平均を上回った。特に「1ヶ月に本を2冊以上読む」については、区平均を9.6ポイントも上回っている。日々の指導の成果であり、今後も継続して定着を図る。しかし、「宿題がないときでも家で勉強をする」は区平均を4.9ポイント下回っている。この結果から、児童が主体的に行うことのできる学習を習慣化させる必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全学年で月1回「けやきタイム」を設定し主に国語、算数の読解力に特化した指導を行う。
- 朝のパワーアップタイム(15分間)を週4回実施する。
 - ・漢字:下学年からの既習の漢字を復習する。(A I ドリル)
 - ・計算:測定、変化と関係などの習熟の低い内容を取り組む。(A I ドリル)
 - ・作文:条件付き短作文に取り組む。・読書
- 授業の中で効果的にICTを活用する。
- 放課後補習教室を月2回実施し、つまずきのある児童への個別指導や立ち戻るための学習の充実を図る。
- 長期休業前に「算数・漢字コンテスト」として定着度テストを実施する。
- かけ算九九検定を実施し、3年生以上の児童が確実に九九が定着できるようにする。
- 足立読書通帳を活用する。年間低学年80冊以上、中学年50冊以上、高学年30冊以上を目標とする。

渕江第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	77.0	72.8	80.0	76.5	75.4	72.7	86.1	83.5	63.9	65.1	79.8	66.7
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	72.5	74.5	67.6	76.5	72.9	82.4	72.4	74.7	81.2	62.4	67.1	77.2
平均正答率(R7)	71.3	70.3	80.4	80.8	79.1	79.6	78.0	72.9	58.0	65.9	67.4	57.9
平均正答率(R6)	68.3	71.6	79.9	83.2	79.0	85.1	64.4	70.8	63.4	65.5	59.4	58.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学年別の平均正答率を見ると、2・3・5・6年生は、ほぼすべての教科において全国・区平均と比較して3ポイント以上マイナスとなっている。基礎・基本の定着が急務である。

国語については全学年共通して「文章の読み取り」に大きな課題がある。学年が上がるにつれ、定着度の差が顕著になっていることも特徴的である。2年生において、「文章の内容に合うものを選ぶ」「場面の様子を読み取って選ぶ」などの結果からも、読み取りに課題があることがわかる。これは令和5・6年度の結果でも同様である。「は・を・へ」の使い方にも課題が見られるため、低学年のうちから文章の読み取りに関わる諸能力を着実に身につけさせていく必要を感じる。

算数については2年生「前から2匹を丸で囲む」「色板の数を選ぶ」「場面を式に表す」や3年生「直方体の辺の数で正しいものを選ぶ」、全学年共通「場面を式に表す」「数量の関係を式に表す」などに特に課題が見られる。共通することは「既習事項を使って考えること」である。また、学年が上がるにつれ、数の概念や四則演算が課題として顕著に出ている。

学校による学力向上への主な取り組み

<国語>低学年において、文章を正確に読み取るための基礎を築く。

- ・M I M活用による正しい語彙の習得
- ・朝学習などの時間を活用した読書の奨励
- ・A I ドリルを活用した繰り返しの学習

<国語>全学年にわたり、文章を読み取る力、聞かれたことに答える力を育てる。

- ・足立スタンダードを基に、読むことの教材分析を充実させる。
- ・状況に応じて人数を工夫し、小集団での話し合いを通して伝え合う力を育てる。

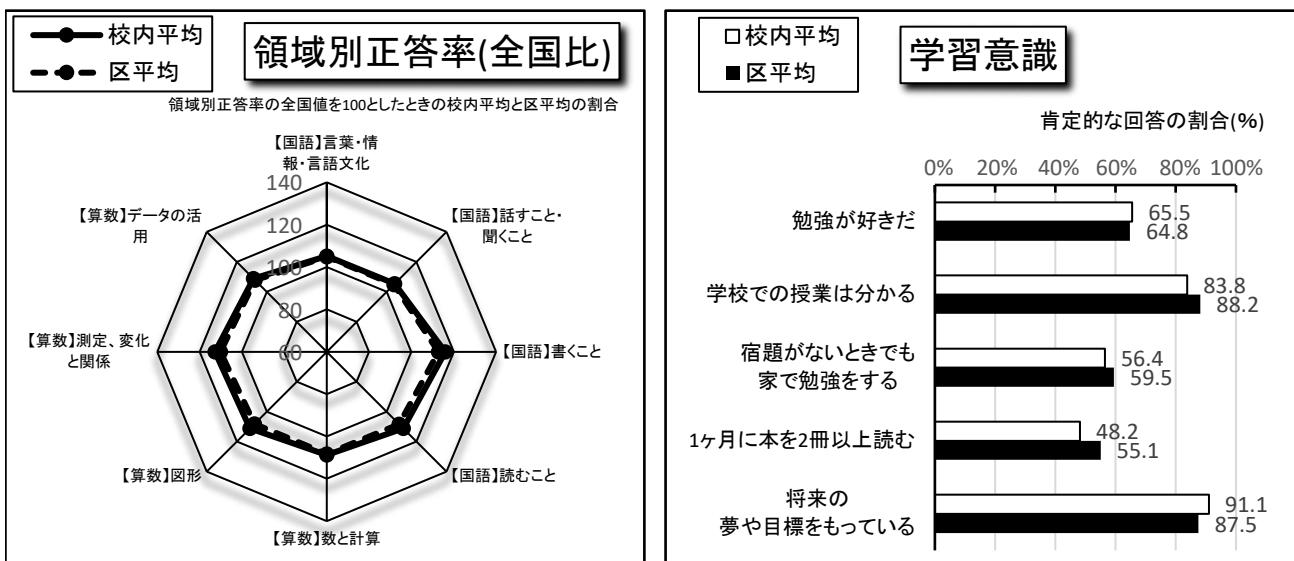
<算数>基本的な数・四則演算に関する理解と演算能力の育成

- ・A I ドリルを活用した繰り返しの学習
- ・九九のテスト実施による学習意欲向上
- ・導入場面での既習事項の振り返りの実施

<算数>思考力を高める授業の工夫

- ・足立スタンダードを基にした学習過程（自力解決・比較検討の充実）
- ・導入部分での既習事項確認と自力解決での活用力の育成

保木間小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.4	86.4	88.6	100.0	87.8	88.0	91.1	91.1	87.0	85.2	87.8	69.4
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.9	84.3	62.0	84.0	88.6	93.2	80.0	82.0	88.6	77.3	87.2	85.1
平均正答率(R7)	79.7	79.7	87.7	95.6	85.7	86.9	82.0	77.2	70.1	78.5	77.9	65.7
平均正答率(R6)	75.2	76.1	81.1	84.9	86.7	89.1	71.2	74.6	72.3	70.5	67.8	65.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

〈学習意識〉

「勉強が好きだ」「将来の夢や目標をもっている」については区の平均を上回っているが、それ以外は区の平均を下回る結果となった。個で考える時間や考えを交流する時間を大事にした授業づくりに努め、読書や家庭学習まで学習意欲を高める必要がある。

〈平均正答率・通過率〉

平均正答率は昨年度の結果より国語は4.5ポイント、算数は3.6ポイント上回ったが、領域別正答率で国語の「書くこと」が昨年度より下がっている。児童がもっている「書く」力を引き出す活動が必要である。特に6年の算数は65.7%であった。学校全体で通過率は上がったが、3、5年の国語と3、6年の算数が下がった。小学校卒業までに、小学校の算数の問題を繰り返し行い、定着させる必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

〈朝学習の時間（保木間タイム）〉

国語の読解や漢字と言葉の学習、算数の学習に取り組ませている。国語の読解では、根拠となる文章にサイドラインを引かせたうえで解答する習慣の定着に努めている。

〈放課後補充教室（ぴかスタ）〉

木曜日の放課後に全校児童による放課後補充教室（ぴかスタ）を実施し、本調査の結果をもとに苦手な領域の克服に取り組んでいる。時間内で合格点に達しなかった児童は個別指導をしている。

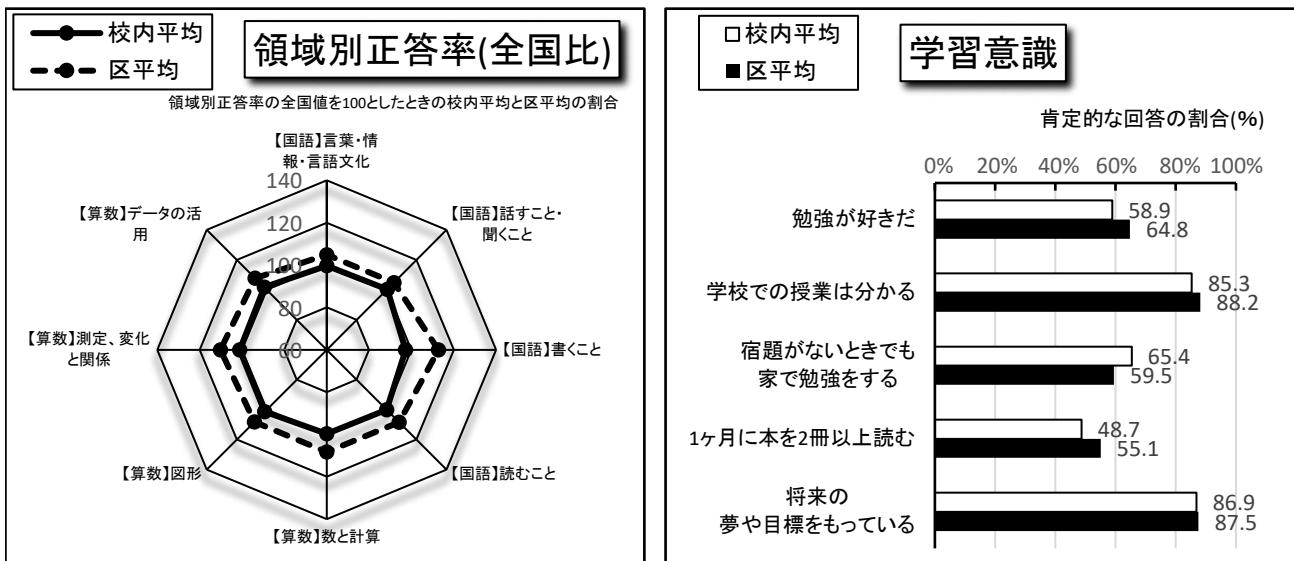
〈サマースクール〉

夏季休業中にサマースクールを行い、本調査の結果を受けて、目標値の未通過児童を対象に本校全教員が指導にあたり、つまずきの克服と基礎的な学習内容の定着に力を入れる。

〈校内研究〉

校内研究では、生活・総合的な学習の時間の研究を進めている。児童の学習意欲を高める授業展開の改善に努めていく。

宮城小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	78.1	78.6	78.3	85.0	90.0	91.4	72.4	76.0	78.8	71.3	71.6	71.6
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	74.5	71.6	72.1	83.8	73.2	76.1	90.4	83.1	62.5	54.2	71.8	60.8
平均正答率(R7)	73.7	73.0	79.1	83.8	87.3	87.4	71.1	67.7	68.2	70.8	67.3	62.3
平均正答率(R6)	69.7	69.4	83.9	86.5	81.1	83.4	73.2	76.3	57.7	57.8	59.7	50.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

1 通過率、平均正答率からの分析

- ①全学年平均正答率は、目標値を上回っているが、通過率は伸びしきが大きい状況である。それは、特に4、5、6年生に顕著である。
- ②学校全体の通過率は、国語が78.1%で前年度比+3.6ポイント、算数が78.6%で前年度比+7ポイントであった。学力層に応じた指導を学校全体で行い、次年度の全体の通過率の目標を83%とする。
- ③各学年の通過率を経年変化でみたときに顕著なことは、算数で3年生が+7.6ポイント、6年生が+17.4ポイントとなっていることである。これは、つまずきやすいポイントを意識した授業展開や弱点内容の補充指導徹底、さらに振り返りの場面を繰り返し設定し、児童が自分から弱点分野の克服に取り組むよう促した成果と考えられる。また、5年生については、算数で-11.8ポイントであったことは懸念されることである。成果のあった学年の方法論を校内で共有し、現学年の学習の支障を減らすよう補充指導を展開していく。

学校による学力向上への主な取り組み

1 学習を支えるための取り組み

- ①あいさつ、時間、身だしなみ、言葉遣い、姿勢を学校全体で意識させる。
- ②ユニバーサルデザインの視点からの教室環境の改善。

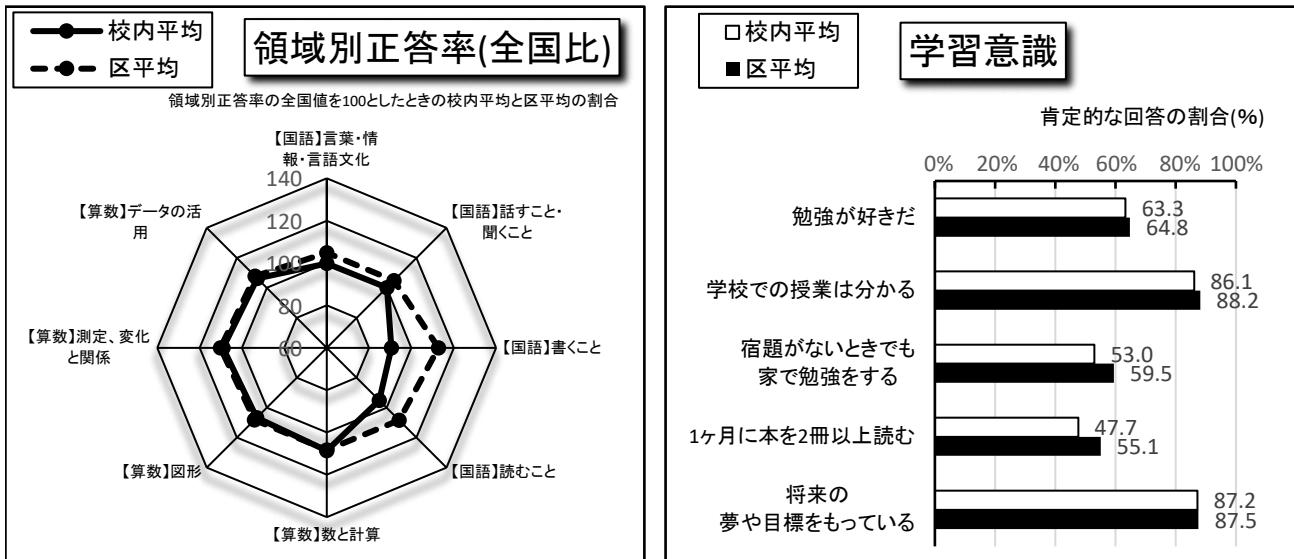
2 基礎学力定着のための主な取り組み

- ①各種調査および単元テストでのつまずきを最小限にするための校内の情報共有。
- ②補充教室の実施（放課後、その他）（前学年の未定着内容、現学年の未定着内容）。
- ③音読の徹底（授業等で声に出して読むことを繰り返し実施）。
- ④隙間時間を活用した基礎計算定着のための取り組み（フラッシュカード、マス計算等）。
- ⑤読書活動の推進（読書時間実施、調べる学習コンクールへの参加、他）。

3 思考力・判断力・表現力等および主体的に学習に取り組む態度の育成のための取り組み

- ①足立スタンダードの徹底。教科指導専門員や管理職による指導及び教員同士の授業観察。
- ②家庭学習の改善（丸付けについて最終的には児童が自分でできるように）。

六木小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	79.7	85.1	75.9	93.1	67.8	83.1	80.0	86.7	87.3	81.0	85.5	82.9
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	75.2	79.8	69.4	80.6	70.3	73.4	81.3	87.5	77.9	84.4	76.6	71.9
平均正答率(R7)	72.7	77.9	80.3	90.5	78.3	84.3	72.4	75.0	66.9	77.4	69.6	68.6
平均正答率(R6)	71.1	75.9	81.2	85.8	81.1	83.8	70.1	76.2	66.5	75.9	61.7	61.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

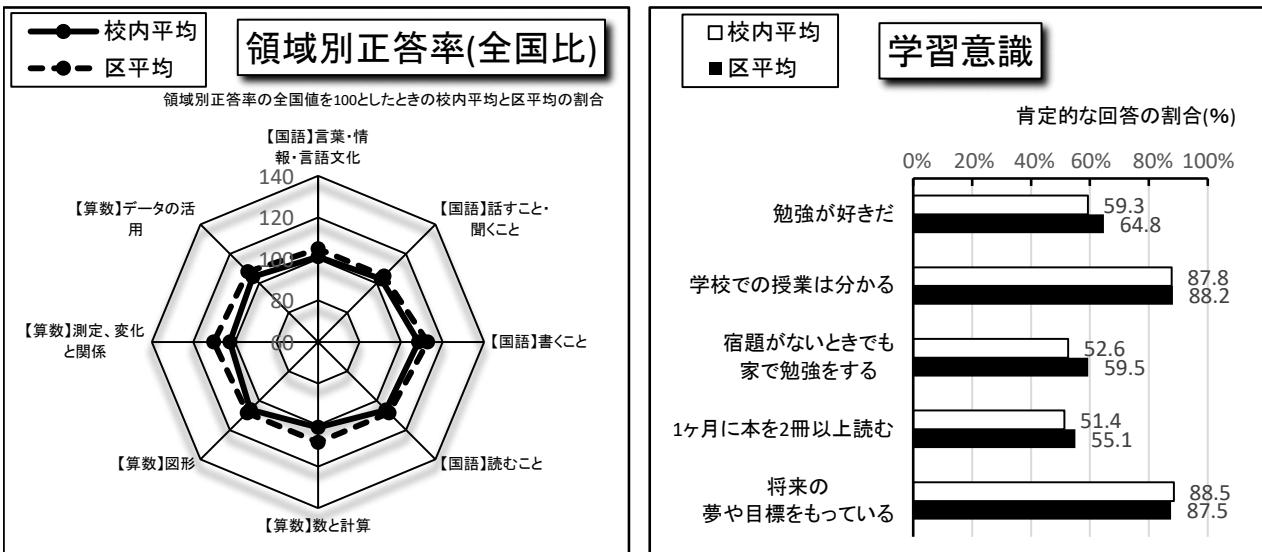
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、昨年度と比較し、国語は4.5ポイント上がり、算数は5.3ポイント上がった。
- 学年別・教科別の通過率は、3年生の国語と4年生の国語と算数、5年生の算数は昨年度を下回った。一方、それ以外の学年や教科は、昨年度に比べ10ポイント近く上がっている。
- 領域別正答率は、算数の領域については、どの項目も区平均とほぼ並んでいる。しかし、国語の領域については、全ての項目で区平均を下回っている。特に「書くこと」と「読むこと」が区平均を大きく下回っている。
- 学習意欲は、全ての項目で区平均を下回っている。特に、「宿題がないときでも家で勉強をする」は6.5ポイント、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は7.4ポイント下回っており、差が顕著である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 校内研究は国語科に視点をおき、「自ら学ぶ児童の育成～説明文の読み取り～」をテーマとした。「初見の文章でも、前向きに取り組む子」、「初見の文章でも、文章の大体を捉えられる子」にめざす児童像を設定し、前期は毎月、職員全体が集まっての研究検討会を実施、後期は研究授業を実施する。年間を通しての取り組みの成果を見せあうことで、説明文を読み取る力を高める手立てを学校全体で共有できるようにし、学力の向上につなげたい。
- 全学年で文章読解ドリルを購入し、週4日設定されたパワーアップタイムの時間に取り組む。初見の文章でも内容を捉えたり、問題に答えられるようにしていく。
- 算数の区調査の結果を分析し、中間下位層の児童に特に課題が見られるピックアップ10問題を全ての学年で作成した。それを次学年に引継ぎ、該当単元の授業で留意して指導したり、適用問題や単元テスト時に、ピックアップ問題に取り組ませたりして、本校の全体の課題を改善していく。
- 夏季補充教室では、下位層を各学年10名呼び、教員7名で基礎的な学力の定着を図る。

本木小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	86.6	80.1	79.3	74.6	92.3	98.1	88.0	88.0	86.7	74.6	87.5	67.9
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	71.8	69.9	70.2	78.9	71.4	67.9	70.3	76.6	68.9	51.6	78.6	75.4
平均正答率(R7)	76.2	74.8	80.9	82.6	88.1	88.7	78.1	74.4	65.9	74.9	72.9	57.9
平均正答率(R6)	70.1	70.5	81.3	84.5	79.2	81.0	66.9	73.1	63.5	58.9	63.8	60.3

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○国語

学校全体の通過率は86.6%で、令和6年度より14.8ポイント上がった。3~6年生までは同一母集団の児童が受けた前年時の通過率と比較して平均18.4ポイント上がっている。2年生の通過率は令和6年度より9.1ポイント上昇している。校内の領域別正答率は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が全国平均以上だった。友達の話を聞き、自分の意見を述べることができる児童や文章を読んで理解できる児童が増えつつある。引き続き、知識の定着や既習内容の反復学習を行う。

○算数

学校全体の通過率は80.1%で、令和6年度より10.2ポイント上がった。同一母集団の児童が受けた前年時の通過率と比較して3年生は19.2ポイント、4年生は20.1ポイント、6年生は16.3ポイント上がっている。一方で、5年生は2.0ポイント下がった。領域別正答率は、「データの活用」が全国平均以上だった。しかし、他の項目では、全国平均を下回っており、本校児童の算数に対する苦手意識が読み取れる。国語同様、既習内容の反復学習を行い、基礎学力の定着に努める。

学校による学力向上への主な取り組み

○足立スタンダードを基にした授業改善

若手教員を中心に、教科指導専門員による授業観察、事前・事後指導を通して授業改善に努める。その他、教科指導専門員による授業力向上のための研修を全教職員に行う。

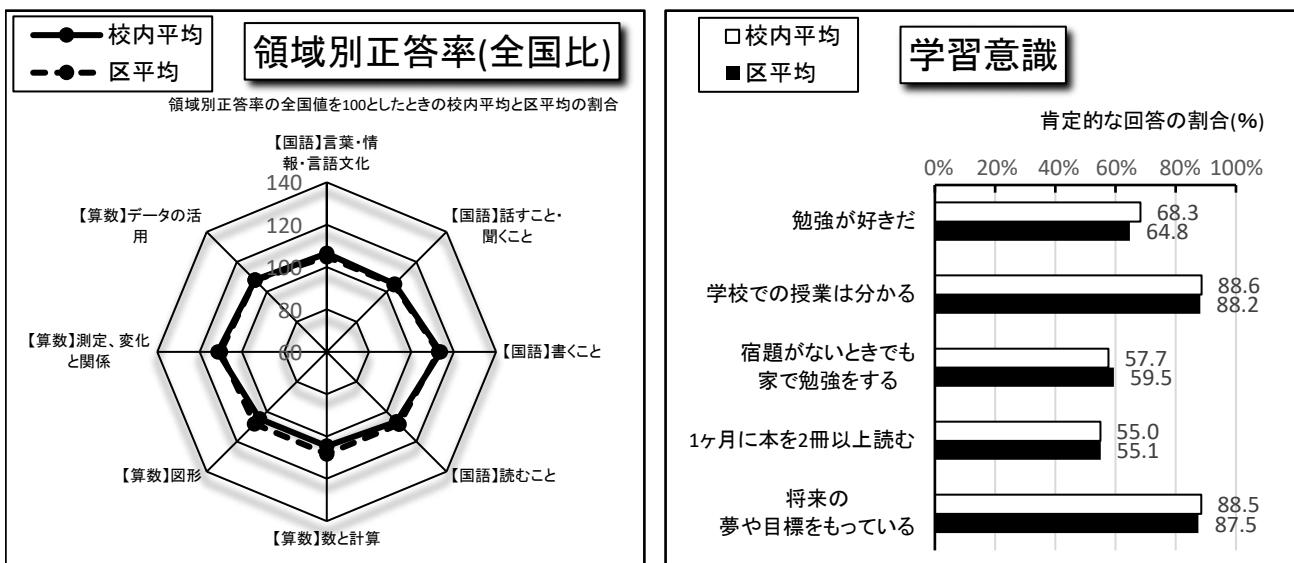
○朝学習

「計算コンクール」「視写」「A I ドリル」「読書」「国語辞典を使った学習」などを曜日ごとに取り組んでいる。

○ぐんぐんタイム、放課後学習（指導者 担任+専科）

ぐんぐんタイムでは、算数の単元テストでつまずきが見られた児童を、週に一度、放課後に指導している。放課後学習では、自主的に学習したい児童と放課後に学習し、学習への意欲を高めている。

弥生小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数										
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.3	82.7	87.7	97.3	83.9	82.3	91.2	89.9	90.9	82.0	87.2	67.0
目標値(R6)			74.4	76.7	72.7	76.4	56.7	61.9	50.0	59.1	50.0	46.6
通過率(R6)	80.9	80.4	75.4	80.7	82.9	94.3	81.1	82.2	80.0	68.9	83.3	78.9
平均正答率(R7)	78.9	76.8	86.8	91.7	82.9	83.4	82.4	78.1	72.8	78.1	75.7	62.0
平均正答率(R6)	73.2	74.6	83.7	85.7	84.7	90.6	72.2	75.7	67.1	69.8	67.4	62.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数 ÷ 出題数 × 100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- ・通過率が令和6年度に比べ、国語が7.4ポイント、算数が2.3ポイント上回る結果となった。学年別で見ると、算数に関しては6年生が下降傾向にある。早急な分析と対策が必要である。
- ・平均正答率は、令和6年度と比べ、国語が5.7ポイント、算数が2.2ポイント上回った。学年別で見ると、国語は3年生が、算数は3・5・6年生が区平均を下回る結果となった。
- ・領域別正答率は、概ね区平均と同程度であった。算数の分数や小数の計算が区を下回っているので、対策が必要である。
- ・学習意識調査についても、区平均と同程度であったが、「勉強が好きだ」と答えている児童が68.3%に留まり、授業改善などの対策をする必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ①基礎学力の定着（国語・算数）
 - タブレット端末のA I ドリルを活用し、区調査の結果をもとに苦手な領域の指導を行う。
- ②花丸タイム（放課後学習）の実施
 - 区調査の問題で間違えたところを解き直す。また、復習プリントなどを行い児童のつまずきを見つけ、個別指導を行う。
- ③漢字・計算コンテストの実施
 - 既習事項を確実に身につけるために漢字や計算問題のテストを行う。合格者には賞状を渡すなど、児童に達成感をもたせる。
- ④家庭学習の習慣化
 - 発達段階に応じて、宿題と自主学習を組み合わせた家庭学習を習慣化させる。高学年においては、タブレット端末を利用するなどした予習型自主学習を推進する。